

# 第6章 門前第2遺跡から出土した人骨について

鳥取大学医学部機能形態統御学講座形態解析学分野

井上貴央、川久保喜智

鳥取大学医学部技術部

足立昭子

## 1. はじめに

鳥取県西伯郡大山町の門前第2遺跡から、中世～近代の墓塚が多数検出され、多数の人骨が出土した。中世人骨は残りが悪いが、総計114基の近世～近代の土壇墓から人骨が出土しているほか、火葬人骨が散布された状態で検出された。これらの遺構は山陰地方の山間部からの近世墓としては貴重なものであり、出土した人骨は当時の人々の形質や健康状態を知るうえで重要な資料である。

本稿では、土壇墓から検出された人骨を中心にその概要を紹介し、その特徴や埋葬肢位について述べたい。なお、発掘調査時には土壇はST番号で呼ばれていたが、報告書を作成するにあたって墓番号で再整理された。人骨の整理にあたっては、ST番号で整理を進め、人骨収蔵コンテナもST番号で整理してあるので、本稿では混乱を避けるため、墓番号とST番号を併記しておきたい。

## 2. 埋葬肢位について

埋葬肢位については、仰臥位、腹臥位、側臥位、蹲位、座位など様々な用語が使われるが、本稿では本遺跡から検出された人骨の埋葬肢位に基づき、以下の表現を用いた。また、埋葬肢位の判定の要点とポイントについて述べておく。

### 1) 仰臥屈位

仰臥位で体幹の背部は土壇の底面に接する。大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させ、膝関節も強く屈曲させて埋葬されたものである。仰臥屈位の屈位は股関節と膝関節が強く屈曲していることを意味するものとする。埋葬時、顔面を上に向けて頭・背・殿部

は土壇の床面に接していたはずで、腐敗とともに下顎が外れたり頭蓋が傾いたりすることはあるが、頭蓋骨はほぼ原位置で検出されているかどうか、判定のポイントになる。本埋葬肢位では体幹の長軸方向と頭の土壇内での位置が重要である。

### 2) 半仰臥屈位

体幹は仰臥位をとるが、殿部は床面についているものの、上体をやや浮かせて埋葬されていたと考えられるものである。ここでいう屈位も仰臥屈位と同様、股関節と膝関節が強く屈曲していることを意味する。殿部の位置

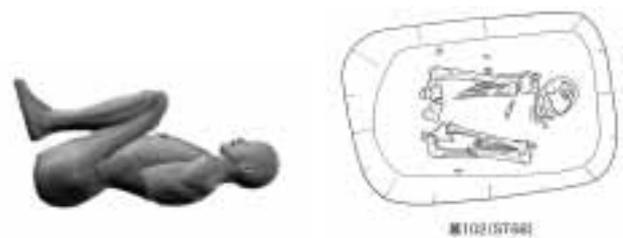


図328 仰臥屈位の模式図（側面観）と検出人骨図面

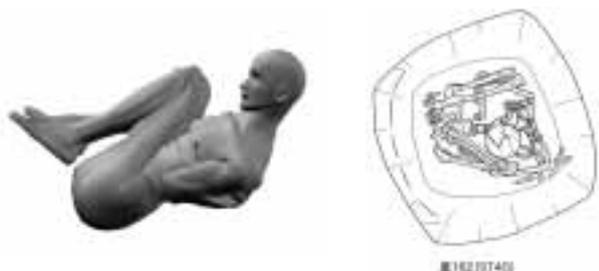


図329 半仰臥屈位の模式図（側面観）と検出人骨図面

は腐敗後も変わらないが、脊椎骨や頭蓋骨は腐敗に伴って脱落・下落するので原位置に残っていない。本埋葬肢位でも体幹の長軸方向と頭の土壌内での位置が重要である。

### 3) 仰臥立膝位

体幹は上体をやや浮かせた仰臥位をとり、股関節をやや屈曲させ、膝関節も屈曲させて立膝の状態で見られるものである。殿部は床面についているので骨盤の位置は不変であるが、脊椎骨や頭蓋骨の位置は原位置に残っていない。体幹の長軸方向と頭の土壌内での位置が重要である。

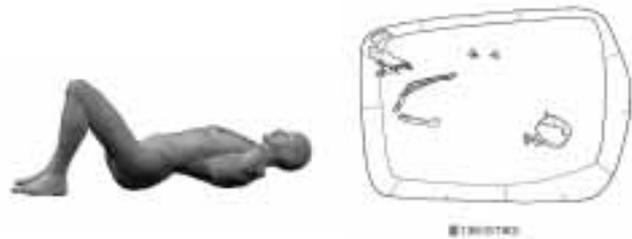


図330 仰臥立膝位の模式図(側面観)と検出人骨図面

### 4) 半腹臥正座位

正座した状態で、体幹を前方に屈曲させて腹臥状態をとる埋葬肢位である。体幹の長軸方向と頭の土壌内での位置が重要である。殿部は床面についてはいないが、床面近くにあるので、骨盤を構成する骨や下肢骨は原位置から大きくずれることはない。正座状態にあったかどうかは、膝関節を強く屈曲させていて、大腿骨と脛骨がほぼ平行な状態で検出されているかどうかが発見のポイントになる。埋葬時に体幹前面がどちらの方向を向いていたかが重要であるが、この判定には左右の大腿骨近位端や寛骨臼の位置がその指標として用いることができる。

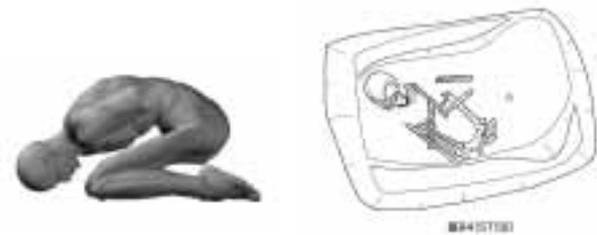


図331 半腹臥正座位の模式図(側面観)と検出人骨図面

### 5) 立膝座位

殿部を床面に付いた状態で座り、股関節や膝関節を強く屈曲した立膝状態で埋葬される肢位をいう。骨盤を構成する骨は原位置から大きくずれることはない。腐敗に伴って、立膝状態にあった膝関節が倒れることがあり、股関節を外転させた胡座状態に見えることがある。体幹前面がどちらの方向を向いていたかが重要であるが、この判定には左右の大腿骨近位端や寛骨臼の位置をその指標として用いることができる。この肢位は蹲位として記載されることもあるが、蹲位とは元々足を地面につけて上半身を支える姿勢であるので、立膝座位という用語のほうが的を得ていると考える。

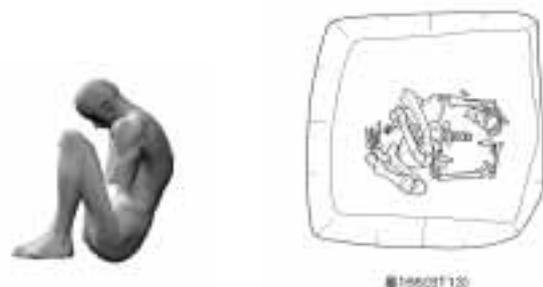


図332 立膝座位の模式図(側面観)と検出人骨図面

### 6) 右側臥屈位

体幹の右側を下にした側臥位で、体幹の右側は土壌の底面に接する。大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させ、膝関節も強く屈曲させて埋葬されたもので、ここでいう屈位は



図333 右側臥屈位の模式図(斜上前面観)と検出人骨図面

股関節と膝関節が強く屈曲していることを意味するものとする。右下肢骨は左下肢骨の下から検出されることになるので、この事実が側臥位かどうかを判定するときのポイントになる。土壌内での頭の位置と顔面の向きが重要である。

### 7) 左側臥屈位

体幹の左側を下にした側臥位である。判定のポイント、留意点は右側臥屈位に準じる。

## 3. 土壌から検出された骨

各土壌墓から出土した人骨の概略を紹介する。人骨の検出図面については別章を参照して頂きたい。なお、参考のため、土壌の種類、副葬品、年代を付記したが、これらは発掘調査にあたられた北 浩明氏からのご教示によるものである。

### 墓49 (ST10)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、中世末(16世紀後半～17世紀初頭)のものと考えられる。骨の残存状況は悪く、埋葬肢位は不明である。

細片化した頭蓋骨片と左右不明の大腿骨片が検出されているにすぎない。大腿骨の大きさから見て、成人骨であることは間違いないが、年齢、性別は不詳である。

### 墓53 (ST35)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、鎌を伴っており、近世のものと推定される。

頭を北に置き、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬した、仰臥屈位である。

骨の遺存状況は悪く、脳頭蓋では右側頭部～後頭部と左錐体片が残存しているにすぎない。

右側頭骨の乳様突起は先端が欠損しているが、全体的に小さいようである。外後頭隆起の発達は不良で、項面のレリーフも弱いようである。また、頭蓋そのものも全体的に小さい。

三主縫合はラムダ縫合の一部と冠状縫合の一部が残存している。ラムダ縫合を見ると、外板は未閉鎖であり、内板では癒合が進んでいるように見受けられる。歯は検出されていない。

椎骨では、胸椎片が3椎分検出されている。

上肢骨では、上腕骨片と左の上腕骨の一部、1本の中節骨が検出されている。上腕骨は細い。

下肢骨では、左大腿骨、左右の脛骨、左脛骨が残存している。足根骨では、右側が踵骨、距骨、内側楔状骨、左側では踵骨が検出されている。

本人骨の年齢は壮年～熟年にかけてのものと考えられ、性別は女性と考えられる。

### 墓54 (ST9)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

埋葬肢位は、頭を北に置き、顔面を西に向け、股関節を屈曲させて埋葬した右側臥屈位と考えられる。

脳頭蓋は前頭部の前方～左側頭部を欠く。顔面頭蓋では、眼窩、鼻部、上顎の一部が残存しているが、眼や鼻の形状はうかがい知ることができない。

前頭部の膨隆は著しく、乳様突起は小さい。外後頭隆起は発達しておらず、頂面のレリーフも弱い。

三主縫合を見ると、冠状縫合、矢状縫合、人字縫合の外板は未閉鎖であるが、冠状縫合の内板は癒合閉鎖をきたしており、矢状縫合や人字縫合の内板でも癒合閉鎖が進んでいる。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしている。横口蓋縫合の外側部は癒合閉鎖が進んでいるが、正中口蓋縫合口蓋骨部では縫合は未閉鎖である。正中口蓋縫合口蓋骨部の後方端は欠損しており、全長にわたって縫合状況を知ることはできないが、この縫合の前部は未閉鎖である。

釘植している歯は少なく、歯槽の退縮が著しい。右上顎第1～第3大臼歯の歯槽は吸収が著しく、第1～第2大臼歯の歯槽骨は著しく吸収を受けており、右第1大臼歯に相当する部分には上顎洞に達する孔が生じている。咬耗はやや進んでおり、Martin 2～3度である。なお、右上顎第1大臼歯の近心・舌側には3度のカリエスが認められる。遊離歯として検出された右第1大臼歯の遠心・頬側には3度のカリエスが認められる。上顎の歯槽の退縮は著しくて歯根が露出しており、歯槽膿漏の所見を呈している。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |   |   |   |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|---|---|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | 脱 | 脱 | 脱 | 破 | M <sub>1</sub> | 閉              | 閉              |
|                |                | M <sub>1</sub> |                |                |   |   |   |   | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

頭蓋骨以外の骨はほとんど検出されていない。検出された骨は橈骨片、右有頭骨、左舟状骨（手）、左月状骨、寛骨臼片、大腿骨片、大腿骨頭片、右脛骨の一部、距骨片にすぎない。橈骨片や脛骨は細くて華奢で、女性骨であることがうかがえる。

本人骨の年齢は骨口蓋縫合の消失状況や歯の咬耗から判断して壮年後半、性別は女性と考えられる。

**墓55 (ST8)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、鋏、毛抜を伴っており、近世（17世紀後葉以降）のものと考えられる。

骨の保存状況は極めて悪く、頭蓋骨と四肢骨の一部が検出されているにすぎないが、埋葬肢位は、頭を北西に置き、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬した、仰臥屈位と推定される。

頭蓋骨では側頭骨の錐体、上顎骨片、下顎骨片が検出されているにすぎない。歯は咬耗があまり進んでおらず、Martin 1～2度である。右上顎第1大臼歯の咬合面には1度のカリエスが、右下顎第2大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |  |
|----------------|----------------|----------------|--|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |  |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |  |

椎骨では、腰椎の椎弓の一部と仙骨の上部が検出されているのみである。仙骨は第1仙椎と第2仙椎の部分のみであるが、これらの仙椎の横線は未閉鎖であり、まだ若い個体であることがうかがえる。

上肢の上肢帯および上肢骨は検出されていない。

下肢帯の骨では、左右の腸骨の部分が検出されている。大坐骨切痕は広く、出産溝は認めない。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、右脛骨片、左右の距骨片が見つかっている。

本人骨の年齢は歯の咬耗度や仙骨の横線の閉鎖状況からみて青年～壮年前半と考えられ、性別は女性と考えられる。

### 墓56 (ST7)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに銚や煙管を伴っており、近世(18世紀後半以降)のものと考えられる。

左右の股関節と膝関節は屈曲位をとり、交連状態で検出されている。埋葬肢位は、頭を北に置き、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて、上体を起こした状態で埋葬された、半仰臥屈位である。頭蓋は顔面頭蓋、左頭頂部を欠く。下顎骨の右後方の一部が検出されている。頭形は短頭のように、華奢な印象をうける。

三主縫合を見ると、外板・内板ともに癒合閉鎖をきたしておらず、まだ若い個体であることがうかがえる。乳様突起はかなり小さい。右下顎第3大臼歯は萌出途上の段階にあり、本頭蓋が若い個体であることをうかがわせる。歯式は以下の通りである。



椎骨では、第5腰椎と仙骨の上部が検出されているのみである。

上肢帯および上肢骨では、左鎖骨の一部と右上腕骨の遠位端のみが検出されている。

下肢帯の骨では、左右の腸骨の寛骨臼～耳状面にかけての部分が検出されている。右寛骨で確認できる大坐骨切痕は広く、女性骨であることがうかがえる。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、右脛骨が検出されている。大腿骨頭は小さい。

本人骨の年齢は青年、性別は女性であると考えられる。

### 墓57 (ST42)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀前葉以降)のものと考えられる。

左下肢骨は股関節を外転させ膝関節を屈曲させて胡座位をとっていたように見えるが、右下肢骨は検出されていないので正確な埋葬肢位を確定しがたい。骨盤と頭蓋の検出状況から考えて、腹臥状態にあったと考えられ、頭を北に倒した半腹臥座位としておきたい。

顔面頭蓋はほぼ完存しているが、脳頭蓋は破損が著しく、前頭部～頭頂部の前方にかけての部分や頭頂骨片などが残存しているにすぎない。また、後頭骨片の一部も確認されている。残存している骨も土圧による変形が著しい。頭蓋示数、上顔示数、眼窩示数は破損のため求められないが、鼻示数は54.3で chamaerhin (広鼻) に属している。

眉間の突出は弱く、眉弓の突出も弱い。眼窩上縁は鋭なようである。上顎は歯槽性の突出が著しい。下顎骨は破損が大きい、全体的に華奢な印象を受ける。

三主縫合のうち、確認できる冠状縫合と矢状縫合は外板・内板ともに縫合は未閉鎖である。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合は内側部は痕跡を残すのみで、外側部は消失している。横口蓋縫合は外側部でも消失をきたしておらず、正中口蓋縫合口蓋骨部の後端まで縫合を確認できる。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1～2度である。歯槽の退縮は著明ではない。エナメル質減形成を認める。また、右上顎第3大臼歯の咬合面には2度の、右下顎第2大臼歯の咬合面には3度の、左下顎第2、第3大臼歯の咬合面には3度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | 脱              | 脱              | 脱              | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

四肢骨の保存状況は悪く、確認できた骨は、左尺骨、左寛骨の一部、左側の大腿骨、脛骨、腓骨の一部、左第2、第4中足骨のみである。大坐骨切痕の開き具合は中程度である。

本人骨の年齢は壮年と考えられ、性別は女性と考えられる。

**墓58 (ST26)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに金具?を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

骨の保存状況は悪く、頭蓋骨や四肢骨の一部が検出されているにすぎず、埋葬肢位は不明である。

脳頭蓋を構成する骨では、右側頭骨、右頭頂骨片、後頭骨片が確認されるにすぎない。顔面頭蓋では、右上顎骨、下顎骨(右側~前方にかけての部分)が認められるにすぎない。

頭蓋骨の厚さは厚く、乳様突起も破損はあるが大きいように見受けられる。

残存しているラムダ縫合の外板は未閉鎖であるが、内板は閉鎖が進んでいる。一部の歯は遊離歯として検出されている。咬耗はやや進んでおり、Martin 2~3度である。骨口蓋縫合では、切歯縫合が消失しているようである。上顎・下顎ともに歯槽の退縮が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |  |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|--|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> |   |                |  | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 破              | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> |                | C | P <sub>1</sub> |  | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

四肢骨では、左大腿骨の遠位端と左右不明の大腿骨片が検出されているにすぎない。

本人骨の年齢は壮年後半~熟年、性別は男性と考えられる。

**墓59 (ST112)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。残存している人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

骨の遺存状況は極めて悪く、右頭頂部~後頭部にかけての部分と左錐体が残存している。

頭蓋は一部しか残存していないが大きいようであり、頭蓋冠もかなり厚い。

三主縫合は冠状縫合の外板では一部が癒合閉鎖が進んでおり、矢状縫合や人字縫合では、かなり癒合閉鎖が進んでいる。内板では冠状縫合と矢状縫合はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしている。ラムダ縫合では癒合閉鎖が進んでいるように思われる。

本人骨の年齢は壮年後半~熟年、性別は男性をうかがわせるが確言できない。

**墓60 (ST12)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられている。

頭蓋骨は左側を上にして検出されており、埋葬肢位は、頭を北北西に置き、顔面を西を向けて、股関節を強く屈曲させて埋葬された、右側臥屈位である。

頭蓋は細片化しており、右側は眼窩の後方～右側頭部、後頭部にかけて、左側は側頭部～後頭部にかけての部分が接合できたにすぎない。そのほか、右上顎骨、下顎骨の右半分などが検出されている。

三主縫合で確認できるものは矢状縫合と人字縫合の一部であるが、矢状縫合は内板・外板ともに癒合閉鎖をきたしている。人字縫合の外板は癒合閉鎖が進んでおり、内板は完全に癒合閉鎖している。

上下顎の歯槽の大部分は吸収閉鎖しており、若干の歯が釘植しているにすぎない。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin の1度である。歯槽の退縮は著しく、歯槽膿漏の所見を呈している。下顎骨は極めて華奢である。歯式は以下の通りである。

|   |                |                |   |   |   |   |   |   |   |
|---|----------------|----------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 閉 | 閉              | 閉              |   |   |   |   |   |   |   |
| 閉 | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |

頭蓋骨以外の骨では、左右の大腿骨の一部と右寛骨臼片が検出されているにすぎない。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は熟年～老年、性別は女性と考えられる。

#### 墓61 (ST131)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに櫛、釘を伴っており、近世(18世紀前葉以降)のものと考えられる。墓174(ST48)を切った形の土壌墓であり、墓174(ST48)からは骨は検出されていない。

被埋葬者は、体幹前面を北北西に向けて膝を立てた状態で埋葬されたものと考えられ、埋葬肢位は立膝座位である。

頭蓋は眼窩下部より下方の部分を欠いている。さらに、頭蓋底の大部分は欠損しているが、そのほかの部分は残存している。破損が大きく計測できる項目は少ないが、頭蓋は全体的に小さいようであり、短頭のものである。右眼窩示数は87.8で、mesoknoch(中眼窩)に属している。

前頭部はなだらかに頭頂部に続いていて、前頭膨隆は著明ではない。眉弓の隆起はやや著明であり、眉間もよく膨隆しており、眼窩上縁は鈍である。乳様突起は欠損しており、その形状をうかがい知ることはできない。項面のレリーフは弱く、外後頭隆起も著明ではない。

三主縫合は、冠状縫合の外板はほぼ癒合閉鎖をきたしており、内板ではほぼ完全に閉鎖をきたしている。口蓋縫合は欠損していて、その閉鎖状況は不明である。本頭蓋に付随する歯はほとんど検出されていない。わずかに2本の歯が頭蓋骨とともに検出されている。犬歯にはエナメル質減形成が認められ、歯の咬耗はあまり進んでおらずMartin の1～2度である。歯式は以下の通りである。

|  |  |  |  |  |  |  |   |  |                |
|--|--|--|--|--|--|--|---|--|----------------|
|  |  |  |  |  |  |  |   |  |                |
|  |  |  |  |  |  |  | C |  | M <sub>2</sub> |

脊椎の骨では、胸椎が9椎分検出されている。上肢骨では、右上腕骨の一部、左右の橈骨、右尺骨が検出されており、手の骨では左大菱形骨、左有頭骨、左第3中手骨が検出されている。

下肢帯の骨では、右寛骨臼片が検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、左右の脛骨の一部、左右の腓骨の一部が検出されている。足根骨では、右側では踵骨、距骨、舟状骨、内側・中間楔状骨が、左側では踵骨と距骨が検出されている。

歯が本頭蓋に伴うものかどうかは不明であるが、三主縫合の閉鎖状況から判断すると、本人骨の年齢は熟年～老年と考えられ、性別については男性の可能性が高い。

**墓63 (ST5)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、煙管、釘を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられている。

左右の股関節と膝関節を屈曲させた状態で骨が検出されており、右膝は立膝状態を残しているが左膝は外側に倒れている。元は、体幹前面を北に向けて立膝状態をとる、立膝座位であったと思われる。

頭蓋は左側頭部と頭蓋底の一部を欠くが、そのほかはほぼ完存している。頭蓋示数や上顔面示数は不明であるが、右眼窩示数は75.0でchamaeknoch(低眼窩)に属している。また、鼻示数は47.2と推定され mesorrhin(中鼻)に属している。

前頭部の膨隆はやや著しく、眉弓および眉間の隆起もやや著明である。乳様突起は破損していて確認できない。項面のレリーフはやや著明である。眼窩上縁は鈍である。

三主縫合の内板・外板ともに縫合は未閉鎖である。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合は一部が残存しているが、横口蓋縫合の外側部は未閉鎖である。また、正中口蓋縫合口蓋骨部の後部もまだ消失していない。上顎・下顎ともに歯が釘植しており、咬耗はあまり進んでいない(Martin 1~2度)。右上顎第1大臼歯の咬合面には2度の、右下顎第1、第2大臼歯の頬側と咬合面には2度の、左下顎第2小臼歯の頬側には1度の、左下顎第1~第3大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。歯槽の退縮はやや著明である。左下顎第2小臼歯は頬側に変位しており、第1小臼歯および第2小臼歯は乱生の状態にある。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C              | I <sub>2</sub> | 脱              | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C              | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

頸椎は第1~第3頸椎のほか1個の頸椎が、胸椎は第9~第12胸椎が交連状態で見つっている。そのほか胸椎の椎体が約7個検出されている。腰椎は細片化しており、部位は不明である。肋骨は左右ともに細片化したものが検出されている。また、ほぼ完形の胸骨が1点検出されている。

上肢帯の骨では、右鎖骨の一部、左右の肩甲骨の関節窩~肩甲棘の部分が検出されている。上肢骨では左右の上腕骨、右橈骨の一部、右尺骨の一部、左第1中手骨の一部が検出されている。上腕筋の三角筋粗面の発達は良好である。

下肢帯の骨では、右腸骨の一部と細片化した左の腸骨の一部が検出されている。大坐骨切痕は狭いようである。下肢骨では左右の大腿骨、左右の脛骨、左右の踵骨片、左右の距骨片、右内側楔状骨、右外側楔状骨、右立方骨、右第1中足骨の一部が検出されている。大腿骨は太く、柱状である。

本人骨の年齢は壮年、性別は男性と考えられる。右脛骨最大長は33.9cm程度と推定され、Pearson式で身長を求めると159.2cm、藤井式は157.7cmと推定される。

**墓64 (ST47)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

土壌の北側から頭蓋が検出されていることから判断して、右側臥屈位とも考えられるが、残存人骨量は少なく、埋葬肢位を確定しがたいので、埋葬肢位は不明としておきたい。

頭蓋は右眼窩の部分、鼻部の一部、右頭頂部～側頭部にかけての部分に欠け、頭蓋底の一部も欠く。破損のため求められない示数が多いが、左眼窩示数は84.2でmesoknoch（中眼窩）に属している。

眉間の突出は弱く、眉弓は平坦である。前頭膨隆はやや著しい。乳様突起は小さく、外後頭隆起の突出も少ない。項面のレリーフも明瞭ではない。眼窩上縁は鋭で、下顎骨は華奢である。

残存している三主縫合を見ると、外板では未閉鎖であるが、内板ではやや癒合閉鎖が進んでいるように見受けられる。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1～2度である。軽度のエナメル質減輕性が認められ、歯槽の退縮はやや著しい。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |   |                |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |                |                |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 脱              | 脱 | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | 脱 | 脱              | C              | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

頭蓋骨以外の骨では、右大腿骨片と部位不明の腸骨片が検出されているのみである。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性であると考えられる。

#### 墓66（ST30）

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世（18世紀後半以降）のものと考えられる。

骨の残存量は少ないが、大腿骨の配列から判断して、体幹前面を北西に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位であると考えられる。

頭蓋骨は接合できない骨が多い。左眼窩～上顎にかけて、頭蓋底、右頭頂部の一部、後頭部を欠く。下顎は右下顎枝の部分に欠く。

頭蓋示数、上顔示数（コルマン）、眼窩示数は破損のため求められないが、上顔示数（ウィルヒョウ）は80.0と推定されleptoprosop（狭顔）に、鼻示数は40.0でleptorrhin（狭鼻）に属している。

前頭部の隆起はやや著明である。眉間の突出は弱く、眉弓も発達が悪く、顔面は平坦な印象を受ける。乳様突起は小さく、眼窩上縁は鋭である。頭蓋は全体に華奢で、女性骨の印象を受ける。

三主縫合では、プレグマを中心とした冠状縫合と矢状縫合の一部が残っている。冠状縫合の外板では癒合閉鎖がやや進んでおり、矢状縫合ではほとんど癒合を認めない。しかし、これらの縫合の内板は完全に癒合をきたしている。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の内側部はまだ痕跡を残している。横口蓋縫合の外側部では、癒合閉鎖が進んでいるようであるが、まだ痕跡は認められる。正中口蓋縫合口蓋骨部では、ほぼ全長に渡って縫合が残存している。歯の咬耗は比較的進んでおり（Martin 2～4度）、歯槽の退縮も著しい。また、一部の歯には歯槽膿漏の所見が認められる。右下顎第1小臼歯と右上顎第2小臼歯では、歯頸部に達する4度のカリエスが認められ、歯冠は存在しない。また、右上顎第1大臼歯の近心面には4度のカリエスが認められる。左側では左上顎第1小臼歯の舌側面に4度のカリエスが認められる。左下顎犬歯の歯槽の周囲には、骨融解像と骨増殖が認められる。また、左下顎第2小臼歯の歯槽は拡大しており、歯根嚢胞の所見を呈している。歯にはエナメル質減輕形成が認められる。上顎の側切歯は左右ともに矮小化しており、特に右側の矮小化が著しい。また、左右上顎の第2、第3大臼歯は先天性欠損の可能性が高い。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |                |                |                |   |                |                |                |   |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|---|
| M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C              | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |   |
| 閉              | 閉              | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | 脱              | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | 脱 | 閉              | 脱              | 閉              | 閉 |

椎骨では、第1～2頸椎のほか、胸椎が3～4椎分検出されている。肋骨片は2本検出されているのみである。

上肢骨では、左側の上腕骨、橈骨、尺骨が検出されている。手の指骨では、基節骨が5本、中節骨が2本、末節骨が2本検出されている。

下肢帯の骨は左右の寛骨片が検出されているが、大坐骨切痕の形状、および出産溝の有無は不明である。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、左脛骨の一部が検出されている。大腿骨は前後に扁平で、細くて華奢であり、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は熟年と考えられ、性別は明らかに女性である。

### 墓67 (ST110)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、毛抜、刀子、釘を伴っており、近世(18世紀前葉～中葉頃)のものと考えられる。骨はある程度残っているが、埋葬肢位を特定するのは難しく、埋葬肢位は不明としておきたい。

骨の遺存状況は極めて悪く、頭蓋骨では左右の上顎骨の一部、下顎骨の右側が検出されているにすぎない。そのほかに遊離歯が検出されている。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 0～2度である。2度の歯についても象牙質が点状に露出ただけで、咬耗はほとんど進んでいないといってよい。歯にはエナメル質減形成が認められ、歯槽の退縮は認められない。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | C              | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C              | P <sub>1</sub> |

脊椎の骨では、胸椎が1～2椎分検出されているにすぎない。

上肢骨では、右側の上腕骨、橈骨、尺骨の一部が検出されている。また、手根骨では、左側の豆状骨、有頭骨、有鉤骨が検出されている。

下肢帯の骨では左右の寛骨の一部が検出されている。下肢骨では、左大腿骨、左脛骨、左右不明の腓骨の一部が検出されている。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢や性別は、得られた資料が少ないため詳細は不明であるが、年齢は壮年前半であると考えられ、性別は女性であると考えられる。

### 墓68 (ST109)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、釘を伴っており、近世末～近代のものではないかと推定される。

頭蓋骨に続いて、椎骨が交連状態で検出されており、被埋葬者は、頭を北北東に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられる。埋葬肢位としては右側臥屈位である。

頭蓋は右顔面の一部と左顔面の外側～左側頭部ならびに後頭骨の一部を欠く。下顎骨は左右が検出

されているが、接合できない。

頭蓋骨は破損が多く、計測不能な項目が多いが、鼻示数は50.0で mesorrhin (中鼻) に属している。

眉間はやや突出しており、眉弓もやや発達している。前頭部の膨隆はやや著明であるが、その後半はなだらかに頭頂部に続いている。乳様突起には、一部に欠損があって全体像は分からないが、その発達は中等度のようなものである。

三主縫合を見ると、冠状縫合と矢状縫合の外板は未閉鎖で、人字縫合の外板も未閉鎖である。内板は、冠状縫合の外側部はやや癒合閉鎖をきたしている傾向があり、矢状縫合の一部および人字縫合でも一部で癒合をきたしているようである。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martinの1~2度である。歯にはエナメル質減形成が認められる。歯槽の退縮は著明ではない。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C |                |                |                | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

脊椎の骨では、頸椎が第1~第6頸椎、胸椎が8椎分、腰椎が3椎分、仙骨の一部が検出されている。肋骨は5本程度検出されている。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨の一部と右肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨と左右の橈骨が検出されている。手根骨は左大菱形骨が検出されているのみである。中手骨では、左中手骨が1本検出されており、そのほかに指の基節骨が2本、中節骨が1本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨、脛骨、腓骨が検出されており、右膝蓋骨も検出されている。足根骨では、右側が距骨と中間楔状骨、左側が距骨と踵骨が検出されている。

本人骨の年齢は壮年、性別は男性と考えられる。右脛骨最大長は34.2cmで、Pearson式で身長を求めると160.0cm、藤井式では158.5cmと推定される。

## 墓70 (ST53)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。埋葬肢位は不明である。

骨の遺存状況は悪く、頭蓋を構成する骨では、前頭部~頭頂部にかけての部分と左右の側頭骨の錐体部分が残っているにすぎない。

前頭部は比較的よく膨隆している。

三主縫合のうち、冠状縫合と矢状縫合が確認できるが、これらの外板ではやや癒合閉鎖が進んでおり、内板ではほぼ完全に癒合閉鎖をきたしている。歯はすべて遊離歯の状態で検出されている。咬耗は右下顎第3大臼歯を除いてやや進んでおり、Martin 0~2度である。歯式は以下の通りである。

|                |                |  |                |                |  |                |                |  |                |                |                |
|----------------|----------------|--|----------------|----------------|--|----------------|----------------|--|----------------|----------------|----------------|
|                | M <sub>2</sub> |  | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |  |                |                |  | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |                |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> |  |                | P <sub>1</sub> |  | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> |  | P <sub>1</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

残存している四肢骨は極めて少なく、左側の大腿骨と脛骨の一部残存しているにすぎない。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は、頭蓋縫合の閉鎖状況や歯の咬耗から判断して壮年後半~熟年と考えられ、性別は

女性と考えられる。

**墓71 (ST60)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、釘を伴っており、近世(18世紀後半以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北東に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されており、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

骨の保存状況は悪い。脳頭蓋では、前頭部～頭頂部にかけての部分と左右の側頭骨、錐体、後頭骨の一部が検出されているが、細片化しており、脳頭蓋の頭形を知ることはできない。前頭骨と頭頂骨は土圧によって変形をきたしており、扁平化している。顔面頭蓋では、上顎と下顎が検出されているが、顔面の形状を知ることはできない。

頭蓋は細片化しているので性別を判定する部分を欠くが、全体的に華奢である。乳様突起は欠損しているが、全体的に見て小さいようである。

残存する三主縫合は冠状縫合と矢状縫合の一部であるが、外板ではやや癒合閉鎖が進んでいるように見受けられ、冠状縫合の内板はほぼ閉鎖をきたしている。骨口蓋縫合のうち、切歯縫合はほぼ全長にわたって消失している。

上顎・下顎ともに一部の歯が釘植しているが、臼歯に相当する歯槽は閉鎖しているものが多い。咬耗はやや進んでおり、Martin 2～3度である。また、歯には軽度のエナメル質減形成が認められる。なお、本頭蓋は上顎の歯槽性突出が著しい。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |   |                |                |                |   |                |                |                |   |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|---|
| 閉              | 閉              | 脱              | 閉              | C | 脱 | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | 脱 | 閉              | 閉              | 閉              | 閉 |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | 閉 | 閉 | 閉              | 閉              | 閉              | 閉 | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 閉 |

脊椎の骨では、第1頸椎のほかに頸椎が3椎分、腰椎が4椎分検出されており、仙骨の一部も検出されている。そのほかに舌骨が検出されている。

上肢帯の骨では、左肩甲骨が検出されている。上肢骨では、右上腕骨の一部が残存しており、三角筋粗面の発達は良好である。手の指の骨では、末節骨が2本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨臼の一部が検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨と脛骨、および腓骨の一部が検出されている。足根骨では、右側が外側楔状骨を除くすべての足根骨が検出されている。また、右第1、第2中足骨も検出されている。

本人骨の年齢は、歯の咬耗状況や縫合の閉鎖状況から判断して、壮年後半～熟年前半と考えられる。性別は女性をうかがわせるが確言できない。

**墓72 (ST54)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世(18世紀前葉以降)のものと考えられる。

骨の遺存状況は悪く、細片化している骨が多い。埋葬肢位は不明である。

頭蓋は、左右の側頭部～後頭部にかけての部分が接合できたが、頭蓋冠および顔面頭蓋を欠いている。下顎骨のオトガイ～左下顎体にかけての部分が検出されている



下肢骨では、左右の大腿骨、左右の脛骨、左右の腓骨が検出されている。そのほか右膝蓋骨が1点検出されている。足根骨では、左右の踵骨、距骨、舟状骨、および右側の内側楔状骨、外側楔状骨、立方骨が検出されている。中足骨では、左右の第1～第4中足骨、および右第5中足骨が検出されている。また、右第4基節骨が1本検出されている。

年齢は熟年と考えられ、性別は男性であると推定される。右大腿骨最大長は41.1cmで、Pearson式で身長を求めると158.6cm、藤井式では156.4cmと推定される。

**墓74 (ST3)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鉄や煙管を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと推定されている。

土壌の北側から頭蓋骨が、東側には交連状態の椎骨が検出されており、埋葬肢位は、頭を北東に置き、顔面を西に向けて、股関節を強く屈曲させて埋葬された、右側臥屈位と考えられる。

骨の保存状況は極めて悪く、頭蓋骨の細片と歯が検出されているのみである。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 0～1度である。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |                               |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------------------------------|
| M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub>                |
| M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |                |                | M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> |

椎骨は、第1～第4腰椎が交連状態で検出されている。これらの腰椎は骨棘でつながっており、変形性脊椎症の所見を呈している。仙骨は上部が検出されているが、第5腰椎との関節面は骨吸収をきたしており、不規則な面を呈する。仙骨後面の破断面では、膿瘍様の骨吸収が認められる。肋骨は肋骨片が検出されているのみである。

上肢帯の骨では、右肩甲骨の一部が検出されている。鎖骨上切痕は閉じており、鎖骨上孔が認められる。上肢骨では、左右の上腕骨の一部と左橈骨および左尺骨の一部が検出されている。

下肢帯の骨では、左右の腸骨の一部が検出されている。右寛骨の仙腸関節は骨化をきたしている。右腸骨翼の内面の一部は凹んでいて、骨吸収が認められる。左の仙腸関節は正常である。右寛骨に認められる大坐骨切痕は狭く、男性骨であることがうかがえる。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、脛骨片が検出されている。骨は太くて頑丈である。

本人骨の年齢は、歯の咬耗の程度から見て壮年をうかがわせ、性別は男性と見て差し支えない。

**墓75 (ST67)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

残っている骨は多くはないが、骨の検出状況から判断して、被埋葬者は頭を北東に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

骨の保存状況は悪く、脳頭蓋では前頭部～頭頂部前半の一部、右側頭部～後頭部にかけて、左側頭骨の錐体の部分が検出されている。顔面頭蓋では下顎骨の一部が検出されているにすぎない。下顎骨の歯槽はすべて閉鎖しており、いわゆる無歯顎である。

眼窩上部を欠くため、前頭部の膨隆の程度は不明である。

三主縫合を見ると、冠状縫合および矢状縫合の外板は癒合閉鎖が進んでおり、内板は完全に癒合閉鎖をきたしている。人字縫合の外板は未閉鎖であるが、内板では癒合閉鎖が進んでいる。

脊椎の骨では、仙骨の一部が残っているにすぎない。

上肢骨では、左側の上腕骨と尺骨の一部が残存しているのみである。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が残存している。下肢骨は左右の大腿骨の一部が残存している。大腿骨は細いが、粗線は発達している。

本人骨の年齢は縫合の閉鎖状況から判断して熟年、性別は女性と考えられる。

#### 墓76 (ST81)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、釘を伴っており、近世のものと考えられる。

人骨はほとんど検出されておらず、埋葬肢位は不明である。

細片化した頭蓋冠の骨片が検出されているのみで、前頭骨と後頭骨の一部が残存しているにすぎない。前頭骨の厚さは比較的厚いが、眉弓の発達が悪く、眉間の突出も少ないように見受けられる。歯は検出されていない。

検出された骨が少ないため、本人骨の年齢、性別は不明であるが、成人骨であることは間違いない。

#### 墓77 (ST73)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

骨の遺存状況は良好とはいえないが、頭蓋と下肢骨の位置関係から判断して、被埋葬者は頭を北に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を屈曲させた状態で埋葬されていたものと考えられる。埋葬肢位としては右側臥屈位ではないかと考えられる。

骨は細片化が著しく、接合することはほとんど不可能である。含まれている骨の部位は、左右側頭骨片、左右頭頂骨片、後頭骨片である。そのほかに顔面頭蓋を肯定する骨の一部も含まれているが、脳頭蓋も顔面頭蓋もその外形を知ることはできない。

骨厚は非常に厚いが、乳様突起は小さく、女性骨であることをうかがわせる。

三主縫合の閉鎖状況も確認できるものは少ないが、内板では癒合閉鎖が進んでいるようである。歯はまったく検出されていない。

頭蓋骨のほかに残存している骨は、寛骨片、左右の大腿骨、腓骨片のみである。大腿骨は細いように思われ、女性骨をうかがわせる。

年齢は成人であることは確かであるが、年齢の詳細については不明である。性別は女性ではないかと考えられるが、確言できない。

#### 墓78 (ST119)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、鋏、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。残存している人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨の一部が検出されているのみである。検出部位は前頭骨、左右頭頂骨、左右錐体であり、細

片化が著しい。したがって、頭形はうかがい知ることはできない。

三主縫合はブレグマの部分を中心にわずかに残存しているにすぎない。その閉鎖状況を見ると、冠状縫合、矢状縫合の内板・外板ともに未閉鎖である。

本頭蓋の年齢は壮年と考えられ、性別は不詳である。

**墓79 (ST118)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。土壌の北東隅から頭蓋骨が検出されており、その南寄りから大腿骨が検出されていることから、右側臥屈位を連想させるが、残存している人骨は少なく埋葬肢位は不明としておきたい。

骨の遺存状況は極めて悪く、前頭骨後半～頭頂部前半にかけての一部、左頬骨片、左側頭骨片、右上顎骨と両側下顎枝を欠く下顎骨が残存しているにすぎない。

三主縫合は冠状縫合と矢状縫合が残存しているが、外板はやや癒合閉鎖しており、内板では完全に閉鎖している。骨口蓋縫合では、切歯縫合の部位が残っているが、切歯縫合は完全に消失している。歯はかなり咬耗が進んでおり、Martin 2～3度である。右下顎第3大臼歯の遠心側には4度のカリエスが認められ、全般的に歯石の沈着が認められる。また、エナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |                |                |                |                |  |  |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--|--|
|                |                |                |                |                |   |                |                | I <sub>1</sub> |                |                |                |                |                |                |  |  |
|                |                |                |                |                |   |                |                | I <sub>1</sub> | C              | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |                |  |  |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C              | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |  |  |

頭蓋骨以外では、大腿骨の一部と長骨片が検出されているにすぎない。

本人骨の年齢は、頭蓋癒合の閉鎖状況から判断して壮年後半～熟年、性別は不詳である。

**墓80 (ST62)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌や鋏、毛抜、玉、釘を伴っており、近世(18世紀前葉～中葉頃)のものと考えられる。

骨はある程度残存していたが、埋葬肢位を特定することはできない。

顔面頭蓋と左頭頂～側頭部および頭蓋底の大部分を欠く。左錐体を中心とした側頭骨が検出されているが、接合できない。そのほかに、上顎骨の一部と下顎骨の右側が検出されている。

乳様突起は小さいように思われるが、頂面のレリーフはやや粗造である。

三主縫合を見ると、外板ではやや癒合閉鎖が進んでいるが、縫合はまだ完全には癒合閉鎖をきたしていない。内板では、いずれの縫合も癒合閉鎖をきたしている。眉間の膨隆はやや著しい。眼窩上縁は比較的鈍である。頭頂骨の表面などには、齧歯類によると思われる咬痕が観察される。歯の咬耗はかなり進んでおり、Martin 2～3度である。右下顎第2大臼歯の遠心側に4度の、右下顎第3大臼歯の近心側に1度のカリエスが、左下顎第3大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。また、歯槽の退縮は著しい。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |   |                |                |   |                |                |                |                |                |  |  |  |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--|--|--|
|                |                |                |                |                |   |   | I <sub>2</sub> |                |   | I <sub>1</sub> |                |                | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |  |  |  |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | 脱 | 閉              | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |  |  |  |

脊椎の骨では、第1頸椎のほか一部の椎骨が検出されているにすぎない。この椎骨には骨棘形成が認められる。肋骨では、2本程度の肋骨が残存している。

上肢帯の骨では、右側の鎖骨と肩甲骨の一部が残存している。上肢骨では、左尺骨の一部が検出されているにすぎない。

下肢骨では、左右の大腿骨と右脛骨の一部が検出されているのみである。粗線の発達は良好で大腿骨は太く、男性骨であると考えられる。

本人骨の年齢は熟年、性別は男性であると考えられる。

#### 墓81 (ST108)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世のものと考えられる。残存している人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

頭蓋では、咬耗が象牙質まで及んでいる歯牙が1点検出されているのみである。脊椎の骨では、2~3椎分の椎骨片が検出されているのみである。上肢骨では、上腕骨と思われる骨が1点、右尺骨が1点検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨の一部が検出されている。

骨の特徴から見て、年齢は成人であることは明らかであるが、性別は不詳である。

#### 墓82 (ST57)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌を伴っており、近世(17世紀後葉以降)のものと考えられる。銭貨には布や毛髪様物質が付着しており、この物質については項を改めて分析結果を述べる。

被埋葬者は体幹前面を北北西に向けて、膝を立てた状態で埋葬されたと考えられ、埋葬肢位は立膝座位である。土壌の南側には骨が検出されていない部分がある。立膝座位の背部に骨の検出されていない空間がなぜ存在するのか奇異な感じを受ける。

頭蓋骨は右側頭部と頭蓋底の一部を欠くが、そのほかはほぼ完存している。

頭蓋最大幅は計測できないが、頭蓋最大長が175mm(推定)、バジオン・プレグマ高が135mmで、頭蓋長高示数は77.1と推定され、hypsikran(高頭)である。上顔示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は85.4でmesoknoch(中眼窩)、鼻示数は50.0でmesorhin(中鼻)である。

眉間の突出は著明ではなく、眉弓は平坦である。前頭部は比較的良好に膨隆している。乳様突起は破損があり不明である。外後頭隆起はあまり突出しておらず、頂面のレリーフも弱い。眼窩上縁は鋭である。

三主縫合を見ると、冠状縫合の外側部ではやや癒合閉鎖が進んでおり、矢状縫合ではごく一部に癒合が認められる。人字縫合の外板は未閉鎖である。内板を見ると、冠状縫合はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしており、矢状縫合でも完全に癒合閉鎖をきたしている。人字縫合は全長に渡って未閉鎖の状況である。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合はほぼ消失している。横口蓋縫合の外側の一部は消失している。正中口蓋縫合口蓋骨部の後端は欠損していてその閉鎖状況はわからないが、前部の縫合は消失していない。歯の咬耗は前歯以外はあまり進んでおらず、Martin 1~3度である。エナメル質減形成が認められる。右上顎第3大臼歯の咬合面には3度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | 閉 |
|                | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |   |

脊椎では、第1、第2頸椎が検出されているのみである。肋骨は1～2本残存しているにすぎない。

上肢帯の骨では、左肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨の一部、左右の橈骨の一部、左尺骨が検出されているのみである。左側の上肢骨は細く、女性骨をうかがわせる。これに対し、右側の上腕骨と橈骨は太く、別人の可能性が高い。また、橈骨はウシの歯とともに検出されているので、別人の可能性が高い。手根骨では、左側が舟状骨、有頭骨、有鉤骨が検出されており、左側の中手骨も2点検出されている。基節骨では、4本検出されている。

下肢帯の骨では、右の寛骨臼の一部が検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、脛骨の一部、左腓骨が検出されている。これらの骨は細く、女性骨をうかがわせる。足根骨では、左の踵骨と距骨が検出されているのみである。

本人骨の年齢は、歯の咬耗があまり進んでいないものの、頭蓋の三主縫合の内板の閉鎖状況から考えて熟年ではないかと考えられ、性別は女性と推定される。

**墓84 (ST58)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鉄、釘を伴っており、近世(17世紀後葉以降)のものと考えられる。また、ウシの上顎臼歯が検出されているが、埋葬に伴うものではない。

被埋葬者は、体幹前面を北東に向けた状態で正座し、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態をとっていたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位であったと考えられる。人骨の南側には、骨が検出されていないある程度の大きさの空間がある。

頭蓋骨は鼻部、右眼窩、頭蓋底を欠く。

眉弓の発達が悪い。乳様突起は破損のため形状を知ることはできない。外後頭隆起はやや突出している。眼窩上縁は鈍である。頭蓋は全体的に大きい。

三主縫合を見ると、外板では冠状縫合、矢状縫合、人字縫合はまだ閉鎖していないが、内板では冠状縫合は全長の2/3にわたって閉鎖している。矢状縫合の内板は未閉鎖である。また、人字縫合の内板はやや癒合が進んでいるが、全体的に見ると未閉鎖である。歯の咬耗は前歯を除いてあまり進んでおらず、Martin 1～3度である。歯槽の退縮はやや著明で、エナメル質減形成が認められる。一部の歯に歯槽膿漏の所見が見られる。左上顎第1小白歯は矮小傾向にある。歯式は以下の通りである。

|   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
|   | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| 脱 | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |   | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> |                |   | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |

脊椎の骨では、第1、第2頸椎のほかに頸椎が1椎分、胸椎が2椎分、腰椎片が1点、仙骨の一部が検出されているにすぎない。肋骨は1本検出されているのみである。

上肢帯の骨では左右の鎖骨の一部が検出されており、右肩甲骨の一部も検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨の一部、右橈骨の一部、右尺骨の一部が検出されている。手の右第2中手骨、左第3中手骨、基節骨が1本、中節骨が2本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されているが、大坐骨切痕を欠く。下肢骨では、左右の大腿骨、脛骨、左腓骨、左踵骨、左距骨、左中間・外側楔状骨、左第2、第3中足骨が検出されている。大腿骨は長さに対して比較的太く、病的なものである可能性もある。

本人骨の年齢は壮年、性別は男性と考えられる。

**墓85 (ST70)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(17世紀後葉以降)のものと考えられる。

人骨の保存状況が悪く、埋葬肢位の推定は難しいが、体幹前面を南西に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位ではないかと考えられる。

頭蓋骨はかなりの部分が検出されているが、接合することはできない。検出された部位は前頭骨、左頭頂骨の一部、上顎骨、後頭骨の一部、左側頭骨の一部、下顎骨の左側である。

眉間の突出は著しく、眉弓も発達している。

残存している三主縫合は冠状縫合のみであるが、外板・内板ともに未閉鎖である。骨口蓋縫合では、切歯縫合と横口蓋縫合の外側部は消失している。また、正中口蓋縫合口蓋骨部では、大部分が消失している。上顎骨および下顎骨には、かなりの数の歯が釘植しており、歯の咬耗はかなり進んでいる(Martin 2~3度)。右上顎第1大臼歯の近心側には4度のカリエスが、左第2、第3大臼歯間には4度のカリエスが認められる。歯にはエナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|   |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|---|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 脱 | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | 脱              | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
|   |                |                |                |   | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> |   | 脱              | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 脱              |                |

椎骨では、第1、第2頸椎が検出されている。

上肢骨は右橈骨の一部、左有頭骨と左第4中手骨の一部が検出されており、そのほかに5本の中手骨、2本の基節骨、1本の末節骨が検出されている。

下肢骨では、左右の大腿骨、左右の脛骨、右腓骨が検出されている。大腿骨は太くて大きく、男性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は壮年後半~熟年前半にかけてと考えられ、性別は男性であると推定される。

**墓86 (ST44)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、丸釘を伴っており、明治以降のものと考えられる。

頭蓋骨は頭蓋冠片と歯が3点検出されている。埋葬肢位は不明で、ほかにウシ臼歯片が1点検出されている。

頭蓋冠は厚く、また、歯も大きいことから男性骨をうかがわせる。右下顎犬歯の遠心側には3度の、左上顎第1小臼歯の近心側歯頸部には3度のカリエスが認められる。歯の咬耗はやや進んでおり、Martin 1~2度である。歯式は以下の通りである。

|   |  |                |
|---|--|----------------|
| C |  | P <sub>1</sub> |
|   |  | P <sub>1</sub> |

四肢骨の保存は極めて悪く、右側の大腿骨の一部、脛骨の一部、腓骨片が確認されるにすぎない。大腿骨の厚さは厚く、男性骨であることがうかがえる。

本人骨の年齢は壮年～熟年、性別は男性と考えられる。

**墓88 (ST19)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鉄や煙管、櫛、釘を伴っており、近世（18世紀後葉～19世紀前半頃）のものと考えられる。

頭を北に置き、頸を屈曲させて顔面を南西に向け、股関節を強く屈曲させて埋葬されたと考えられ、埋葬肢位は右側臥屈位である。

頭蓋骨はおもに右半分しか残っておらず、顔面頭蓋および頭蓋底は欠く。そのほか下顎骨のオトガイ部のみが検出されている。

前頭部はなだらかに頭頂部に立ち上がっており、眉弓はやや突出しており、眼窩上縁は鈍である。頭蓋骨の骨厚は厚く、頑丈である。

三主縫合を見ると、冠状縫合の外板および矢状縫合の外板は癒合閉鎖が進んでいるが、人字縫合はまだ閉鎖をきたしていない。これらの縫合の内板は、冠状縫合は完全に癒合閉鎖をきたしており、矢状縫合の内板でもほとんど癒合閉鎖をきたしている。人字縫合では癒合閉鎖は進んでいるものの、完全に閉鎖はきたしていない。歯の咬耗はやや進んでおり、Martin 2～3度である。また、歯槽の退縮は著しい。歯式は以下の通りである。

|                |                |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
|                | P <sub>2</sub> | C |                | I <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |
| M <sub>1</sub> |                |   | I <sub>2</sub> | 脱              | 脱              | C              |

頭蓋骨以外で残存している骨は、左上腕骨、右寛骨臼片、左右の大腿骨にすぎない。右大腿骨は外側に弯曲している傾向が見られる。

本頭蓋の年齢は熟年、性別は男性と考えられる。

**墓89 (ST50)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世（18世紀前葉以降）のものと考えられる。骨はほとんど残っておらず、埋葬肢位は不明である。

2点の骨片が検出されているのみで、年齢、性別ともに不詳である。

**墓90 (ST86)**

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、煙管、火打ち金を伴っており、近世（18世紀後半頃）のものと考えられる。

埋葬肢位は、頭を西北西に置き、体幹を起こした状態で、頸部を屈曲させ、右大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させ、左股関節はやや屈曲させて埋葬されていたものと考えられ、埋葬肢位としては半仰臥屈位の範疇に入ると考えられる。

頭蓋骨は眼窩と鼻部を欠くが、そのほかはほぼ完存している。頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が177mm、頭蓋最大幅が136mm、バジオン・プレグマ高が141mmで、頭蓋長幅示数は76.8、頭蓋長高

示数は79.7、頭蓋幅高示数は103.7となり、頭型はmeso-、hypsi-、akrokran（中・高・狭頭）に属している。上顔示数と鼻示数は破損のため計測できないが、左眼窩示数は82.5でchamaeknoch（低眼窩）に属している。

前頭部はやや膨隆しているが、眉間はやや突出している。眉弓は著明ではないが、眼窩上縁は鈍である。乳様突起は大きく、外後頭隆起も後方によく突出している。また、項面のレリーフも著しい。

三主縫合を見ると、外板ではかなり癒合閉鎖が進んでおり、内板ではいずれの縫合も完全に癒合閉鎖をきたしている。口蓋縫合を見ると、切歯縫合は完全に消失している。上顎は右第1大臼歯が釘植しているのみで、ほかの部位は前歯～臼歯にかけて歯槽はすべて閉鎖している。下顎にはまったく歯は釘植しておらず、歯槽はすべて閉鎖しており、無歯顎の状態である。残存している歯は咬耗がやや進んでおり、Martin 2度である。また、歯槽の退縮が著しく、歯根が露出している。歯式は以下の通りである。

|                |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| M <sub>1</sub> | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |
| 閉              | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |

脊椎の骨では、第1、第2頸椎と細片化した椎骨片が検出されている。また、仙骨の一部も検出されている。

上肢帯の骨では、左鎖骨の一部、左右の肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、右側が上腕骨、橈骨、尺骨の一部が検出されており、左側では上腕骨の一部のみが検出されている。

下肢帯の骨では、右寛骨が検出されている。大坐骨切痕は狭く、男性骨をうかがわせる。また、出産溝は認められない。下肢骨では、左右の大腿骨の一部と左右の脛骨、および左腓骨の一部が検出されている。足根骨では、左右の距骨が検出されているのみである。

本人骨の年齢は熟年、性別は男性と考えられる。

### 墓91 (ST121)

A類に属する長方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世（17世紀前半頃）のものと考えられる。頭蓋が北側から検出されているが、残存人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨の保存は極めて悪く、蝶形骨と左右の錐体を含む頭蓋底、左右上顎骨の一部、下顎骨の一部が残存しているにすぎない。下顎骨は一部しか残存していないが、全体的に小さく華奢な印象を受ける。性別を示す特徴的な部位は検出されていない。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1～2度である。左下顎第3大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |  |  |  |  |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|--|--|--|--|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |  |  |  |  | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
|                |                |  |  |  |  | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

頭蓋骨以外では第1、第2頸椎が残存している。

本人骨の年齢は、歯の咬耗度から判断して壮年、性別は女性ではないかと考えられるが確言できない。

墓93 (ST20)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、鋏を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

骨の残り具合は極めて悪く、埋葬肢位は不明である。

左右不明の大腿骨の一部が検出されているのみである。成人骨であることは間違いなく、その大きさから性別は男性骨をうかがわせるが、確言できない。

墓94 (ST134)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、煙管、銅製金具類を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北東に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

頭蓋骨は右側頭部、左側頭部、左頭頂部、頭蓋底の一部を欠くが、ほぼ完存している。ただし、上顎は破損のため、頭蓋骨本体とは接合できない。

頭蓋骨の三主径のうち頭蓋最大幅は破損のため計測できないが、頭蓋最大長は185mm、バジオン・プレグマ高が135mmで、頭蓋長高示数は72.9となり、mesokran(中頭)に属している。上顔示数、眼窩示数、鼻示数は破損のため、求められない。

前頭部はなだらかに弓状に立ち上がり、頭頂部に続いている。眉弓の突出は著明で、眉間の突出も著しい。乳様突起は破損していて詳細は不明であるが、大きいように見受けられる。外後頭隆起は比較的良好に突出しており、項面のレリーフも著明である。

三主縫合を見ると、内板・外板ともに未閉鎖であるが、冠状縫合の側頭部は癒合閉鎖をきたしている。口蓋縫合を見ると、切歯縫合は完全に癒合閉鎖をきたしており、横口蓋縫合も消失しているようである。正中口蓋縫合口蓋骨部の縫合は、破損のため確認できない。

上顎は一部の歯を除いて歯槽に釘植しており、歯槽性突出が認められる。下顎骨はほぼ完存している。下顎骨は頑丈で、すべての歯が釘植している。左右の第3大臼歯は前方転移をきたしており、なかでも左第3大臼歯はほぼ水平位に転移している。左右の下顎第2大臼歯の遠心側には4度のカリエスだが、右下顎第3大臼歯の咬合面には3度のカリエスが認められる。歯の咬耗はやや進んでおり、Martinの2~3度である。本人骨の臼歯部には中等度の歯槽骨の退縮が認められ、歯槽膿漏の所見を呈している。また、歯石の沈着も著明である。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |  |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | 脱              | 脱              |                |                |   |                |                |                |                |                |  |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |  |

脊椎の骨では第1頸椎、第2~第12胸椎、第1~第5腰椎、仙骨が検出されている。また、舌骨も検出されており、肋骨は8本程度検出されている。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨と左右の肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨、橈骨、尺骨のいずれもが検出されている。手根骨では、右側が舟状骨、月状骨、小菱形骨、有頭骨窩、左側では、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨が検出されている。中手骨では、右側が第1~第3、第5中手骨が、左側では第2、第3中手骨が検出されている。また、手の基節骨は4本、中節骨は1本、右

第1末節骨が1本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。大坐骨切痕は狭く、出産溝は認められないため、明らかに男性骨である。下肢骨は左腓骨を除くすべての骨が検出されている。大腿骨はやや細い印象をうける。足根骨では、右側が踵骨、距骨、舟状骨、中間楔状骨が、左側では踵骨、距骨、舟状骨、内側・中間・外側楔状骨が検出されている。中足骨では右側が第5中足骨、左側が第2～第4中足骨が検出されている。また、指の骨では、基節骨が1本検出されている。

本人骨の年齢は壮年後半、性別は男性と考えられる。

### 墓95 (ST15)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌や鋏を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

骨の遺存性は不良で、残存している骨は少ない。埋葬肢位は頭を北東に置き、顔面を西に向けて、股関節を強く屈曲させて埋葬された、右側臥屈位と考えられる。

脳頭蓋の骨では前頭部～頭頂部にかけての部分と後頭骨の一部、左錐体が残存している。また、上顎骨および下顎骨の一部が残存している。

前頭部は膨隆しているようである。頭蓋冠の外板は風化が進んでいて縫合の閉鎖状況は把握しにくい。冠状縫合や矢状縫合は未閉鎖であると思われる。骨口蓋縫合では、切歯縫合はほぼ消失しているが、横口蓋縫合は外側部まで未閉鎖で、正中口蓋縫合口蓋骨部の後部は消失しているが、そのほかの部分は残存している。前歯は遊離歯として検出されている。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 0～1度である。エナメル質減形成が認められる。下顎骨は右側の一部が残っている。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | 脱 | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | 脱 | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C |   |                | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

椎骨、肋骨は検出されておらず、上肢帯の骨では右肩甲骨片、上肢骨では、右中手骨が1点検出されているにすぎない。

下肢帯の骨では右寛骨が検出されており、大坐骨切痕は広くて、出産溝が認められる。下肢骨は、左右の大腿骨、左右の脛骨が残存している。大腿骨や脛骨はきわめて細い。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

### 墓97 (ST1)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、鎌や煙管を伴っており、近世後期(19世紀)のものと考えられる。

股関節や膝関節が屈曲位をとりながら、交連状態で下肢骨が検出されている。埋葬肢位は、頭を北北西に置き、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬された、仰臥屈位である。

頭蓋骨は細片化しており、検出された骨は右側頭骨片、後頭骨片、下顎骨の右側、下顎枝～骨体にかけての部分である。そのほか、頭頂骨片も検出されているが、細片化していて接合できない。

乳様突起は中等度に発達しており、外後頭隆起の突出は大きい。残存している下顎骨は、臼歯部の

歯槽は閉鎖していて無歯顎である。下顎枝の幅は大きいようで、筋の付着部も比較的発達している。

脊椎の骨では、第1頸椎と第2頸椎の一部が検出されている。また、腰椎片が検出されているが、この腰椎には骨棘形成が認められ、変形性腰椎症の所見を呈している。肋骨は検出されていない。

上肢帯の骨では右の肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では左右の上腕骨の一部、および左右の尺骨の一部、右の手根骨の一部、中手骨、指骨の一部が検出されているのみである。

下肢帯の骨では左右寛骨臼を中心とした部分が検出されている。大坐骨切痕は大きく、女性骨であることをうかがわせる。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、および左右の脛骨の一部、右舟状骨、右中間楔状骨が検出されている。下肢骨の緻密骨は厚い。

本人骨は、頭蓋骨や下肢骨の筋の付着部が発達しており男性骨をうかがわせるが、大坐骨切痕の形状から、性別は女性と推定される。年齢は成人であることは確かであるが、詳細は特定できない。

### 墓98 (ST6)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、煙管、釘を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられている。

骨の保存状況は良くないが、左右の股関節は交連状態で屈曲した状態で検出されている。埋葬肢位は、頭を北北東に置き、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬された、仰臥屈位である。

頭蓋と下顎はほぼ咬合状態で検出されている。頭蓋はやや小さく、顔面頭蓋、左頭頂～側頭部の一部、頭蓋底の一部を欠く。

三主縫合を見ると、いずれも外板は未閉鎖であるが、内板はほぼ癒合閉鎖をきたしている。

乳様突起は小さいが、外後頭隆起はやや突出していて、頂面のレリーフもやや著明である。

上顎骨は残存していないが、右上顎歯が遊離歯として検出されている。下顎骨は左下顎枝を欠くが、それ以外はほぼ完存している。下顎骨は全体的に華奢で、歯槽骨の退縮が著しい。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martinの1～2度である。歯式は以下の通りである。

|   |   |                |                |                |  |   |   |                |                |
|---|---|----------------|----------------|----------------|--|---|---|----------------|----------------|
|   |   | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | C              |  |   |   |                |                |
| 脱 | 脱 | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |  | 閉 | 閉 | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

椎骨では、第1～第5頸椎と3個分の腰椎が検出されている。

上肢帯の骨では、右鎖骨の一部と右肩甲骨の一部が検出されているにすぎない。鎖骨は細くて華奢である。上肢骨では、左上腕骨の一部が検出されているのみである。

下肢帯の骨では、左右の寛骨臼の部分が検出されている。下肢骨では左右の大腿骨、右脛骨の一部が検出されている。大腿骨は細いが柱状形成が比較的著しい。

本人骨の年齢は壮年後半～熟年前半、性別は女性と考えられる。

### 墓99 (ST82)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、鎌、毛抜、煙管を伴っており、近世(18世紀後半以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北北東に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

頭蓋骨の遺存性は極めて悪く、下顎骨のオトガイ部と遊離歯が検出されている。歯の咬耗はあまり進んでいない（Martin 1～2度）。歯にはエナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |  |                |                |   |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|--|----------------|----------------|---|----------------|----------------|
|                | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |                | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |  | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |  | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C |                | P <sub>2</sub> |

頭蓋骨以外では、左右の上腕骨の一部、左右の寛骨の一部、左右の大腿骨、右脛骨の一部にすぎない。寛骨の大坐骨切痕は広く、女性骨と考えられる。大腿骨はやや細い印象を受ける。

本人骨の年齢は壮年と考えられ、性別は女性と考えられる。

### 墓101 (ST56)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世（18世紀前葉以降）のものと考えられる。土壌の北側から頭蓋骨が、中央から大腿骨が検出されているので、右側臥屈位を連想させるが確言しがたいので、埋葬肢位は不明としておく。

脳頭蓋では前頭骨片、右側頭骨片、後頭骨片、左側頭骨片、後頭骨片が検出されているのみである。眉間はやや突出している。残存する乳様突起は中等度であり、前頭骨や後頭骨の骨厚は厚い。

三主縫合を含む骨は検出されておらず、縫合の閉鎖状況は不明であるが、骨の大きさから判断して、本頭蓋は成人であることは確実である。性別は、頭蓋骨の厚さから判断すると男性骨がうかがわれるが、確言できない。

歯は右上顎中切歯、左上顎第1小臼歯、左上顎第2乳臼歯が検出されている。左上顎第2乳臼歯の歯根は吸収をきたしている。頭蓋は、蝶後頭結合も閉鎖しており、明らかに成人骨であるので、この乳臼歯はほかの墓からの混入か、あるいは乳歯の遺存例であると考えられる。

脊椎の骨では第1～第2頸椎が検出されているにすぎない。手の末節骨が1本検出されているほか、長骨片が検出されている。これは、脛骨や大腿骨片と考えられるが、正確な部位は同定できない。

本人骨の年齢は、成人であることは確かである。性別は男性をうかがわせるが確言できない。

### 墓102 (ST68)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに煙管、釘を伴っており、近世（18世紀後半頃）のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北北東に置き、大腿が体幹に接するほど股関節を屈曲させて仰臥位にて埋葬されていたと考えられる。

頭蓋は顔面、鼻部、前頭部～左頭頂部にかけての部分欠くが、ほかはほぼ完存している。そのほかに下顎骨も検出されている。

乳様突起は中等度であり、外後頭隆起はよく突出していて、頂面のレリーフもやや著明である。

残存している矢状縫合、ラムダ縫合を見ると、外板ではやや癒合閉鎖が進んでおり、内板では矢状縫合はほぼ完全に閉鎖している。また、ラムダ縫合でも大部分が癒合閉鎖している。口蓋縫合を見ると、切歯縫合と横口蓋縫合の外側部では消失している。また、正中口蓋縫合口蓋骨部ではほぼ消失しているようである。上顎では右中切歯の歯槽は存在しているが、そのほかの歯槽は吸収閉鎖をきたしている。下顎骨では、オトガイの部分欠いているので、前歯の状況は分からないが、左臼歯部には

歯槽が閉鎖している部分が認められる。残存する歯は下顎歯のみであるが、咬耗はかなり進んでおり、Martin 1～3度である。歯槽の退縮は著しく、歯槽膿漏の所見が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |   |   |   |   |   |   |   |                |   |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----------------|---|----------------|
|                | 閉              | 閉              | 閉              | 閉 | 閉 | 閉 | 脱 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉              | 閉 | 閉              |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |   |   |   |   |   |   |   | 閉 | M <sub>1</sub> | 閉 | M <sub>3</sub> |

脊椎の骨では、第1、第2頸椎とそのほかに3椎分、6椎分の胸椎、腰椎片、仙骨片が残存している。肋骨は5本程度残っている。

上肢帯の骨では、右鎖骨と右肩甲骨が残っている。上肢骨では、左右の上腕骨、左橈骨、左右の尺骨が残存している。手根骨では、右側の大菱形骨と有頭骨が、中手骨は第2中手骨が残存している。指の骨では、第1基節骨が1本、そのほかの基節骨が2本、中節骨が2本残存している。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が残っている。下肢骨は左右の大腿骨、左右の脛骨、左腓骨、右膝蓋骨が残存している。大腿骨は細くて長い。足根骨では、左右の踵骨と左距骨が検出されている。

本人骨の年齢は熟年、性別は男性と考えられる。左大腿骨最大長は44.4cmで、Pearson式で身長を求めると159.2cm、藤井式では161.3cmと推定される。

### 墓103 (ST140)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北西に置き、顔面を南西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

頭蓋骨は前頭部～右側頭部、右頭頂部の一部、後頭部の一部、上顎骨と下顎骨の一部が残存している。そのほかに左側頭骨の一部が検出されているが、頭蓋本体とは接合できない。

乳様突起は中等度で、外後頭隆起はよく突出していて、頂面のレリーフも粗造である。また、眉間の突出は著しく、眉弓の隆起も著明である。前頭部はなだらかに立ち上がり、頭頂部に続いている。

三主縫合を見ると、外板では未閉鎖のようであるが、内板では冠状縫合の外側部、矢状縫合の一部、ラムダ縫合の一部で癒合閉鎖をきたしているようである。

歯は咬耗が進んでおり、Martin 2～3度である。右上顎中切歯と側切歯の間、および右上顎側切歯と犬歯の間には歯頸部に3度のカリエスが認められる。また、右下顎第2大臼歯の遠心および右下顎第3大臼歯の近心～舌側にかけての部分に4度のカリエスが認められる。歯槽の退縮はやや著明である。歯式は以下の通りである。

|                |                |  |                |                |   |                |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|--|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|                |                |  |                |                | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | 脱              | C              |                |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> |  | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |   |                | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C              |                |
|                |                |  |                |                |   |                |                |                |                | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |

脊椎の骨では、第1頸椎と胸椎(2椎分)が検出されている。

上肢帯の骨では左肩甲骨の一部が、上肢骨では右側の上腕骨、橈骨、尺骨の一部が検出されている。上腕骨は細い。また、中手骨が1本残存している。

下肢帯および下肢の骨では、左寛骨の一部、左右の大腿骨の一部、左右の脛骨の一部が残っている。

本人骨の年齢は熟年と考えられる。四肢骨はやや細いが、総合的に考えて性別は男性と考えられる。

#### 墓104 (ST137)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに煙管、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北西に置き、顔面を南西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

顔面頭蓋、下顎骨、左頭頂～側頭部、前頭部の眼窩付近を欠く。残存している部分は前頭部の後方～後頭部にかけての部分であり、左右の側頭部は頭蓋本体と接合している。頭蓋は全体に大きく、頭形はやや長頭気味である。

乳様突起は中等度で、外後頭隆起は突出しており、項面のレリーフも粗造である。

残存している三主縫合を見ると、外板は未閉鎖であるが、内板は冠状縫合の大部分と矢状縫合の一部で癒合閉鎖が進んでいる。また、人字縫合の内板の一部でも癒合閉鎖が進んでいる。歯はまったく検出されていない。

脊椎では、第2頸椎、5椎分の胸椎、仙骨の上部が検出されている。肋骨は2本程度残存している。

上肢骨では、右側の上腕骨、頭骨、尺骨が検出されている。

下肢帯および下肢の骨では、左右の寛骨の一部、左右の大腿骨、右距骨が残存している。大坐骨切痕の開き具合は中程度であり、男性骨と考えられる。

本人骨の年齢は壮年と考えられ、性別は男性であると考えられる。

#### 墓105 (ST136)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、煙管、櫛、釘を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。残存する人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

骨の保存状態は極めて悪く、頭蓋骨片と四肢骨片が検出されているのみである。

頭蓋骨では、右錐体を中心とした部分、下顎骨片、多数の歯牙が遊離状態で検出されている。

三主縫合の閉鎖状況を確認できる骨は検出されていない。

歯のなかには乳臼歯が含まれており、まだ成人に達していない個体であることがうかがえる。ほとんどの永久歯はすでに萌出しているようであり、歯はほとんど咬耗していない(Martin 0度)。上顎第2大臼歯の歯根は未完成である。なお、右上顎第2乳犬歯の近位隣接面に3度のカリエスが認められた。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |  |                |                |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|--|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |  | I <sub>1</sub> |                | P <sub>1</sub> |                | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |                |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 脱              | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |  | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C              | P <sub>1</sub> |                | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

検出されている骨は少なく、確認できた骨は右脛骨と右腓骨の一部にすぎない。これらの脛骨と腓骨の近位端はいずれも未骨化である。

本人骨の年齢は、歯の萌出状況、歯根の形成状況、咬耗度などから判断して、10才程度と考えられる。性別は特定できない。

**墓106 (ST49)**

頭蓋骨と下肢骨が検出されているが、これらの骨は別個体の可能性が高く、本稿では下肢骨を墓106 (ST49) 頭蓋骨を墓106・別墓 (ST49・別墓) として扱うことにする。

墓106 (ST49) はB類に属する長方形の土壌から検出された骨で、釘を伴っており、近世 (18世紀半ば以降) のものと考えられる。埋葬肢位は不明である。

人骨は左右の大腿骨の一部と左脛骨が検出されているのみである。骨は細くて女性骨をうかがわせる。

本人骨は成人骨であるが、詳細な年齢は不詳である。また、性別は女性骨をうかがわせる。

**墓106・別墓 (ST49・別墓)**

墓106 (ST49) の西側から検出された頭蓋骨で、本稿では墓106・別墓 (ST49・別墓) として取り扱う。埋葬肢位は不明である。

頭蓋は顔面頭蓋の大部分～頭頂部を欠き、残存している部位は右側頭部～後頭部、および左側頭部、右眼窩の一部～上顎にかけての部分にすぎない。

乳様突起は小さく、頂面のレリーフも弱い。

確認できる人字縫合は、外板は未閉鎖であるが、内板では癒合閉鎖がやや進んでいる。骨口蓋縫合では、切歯縫合は完全に消失しており、横口蓋縫合は外側部で閉鎖が進んでいる。下顎骨は華奢で左下顎体～下顎枝を欠く。大部分の歯槽は閉鎖しており、遊離歯が3本検出されている。咬耗はあまり進んでおらず (Martin 1～2度)、エナメル質減形成が認められる。左下顎第2大臼歯の歯根頰側には4度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |   |   |                |                |                |
|---|---|---|---|---|----------------|----------------|----------------|
| 閉 | 閉 |   |   |   | I <sub>2</sub> | P <sub>2</sub> |                |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉              | 閉              | M <sub>2</sub> |

頭蓋骨に付随して、第1、第2頸椎が検出されているが、そのほかの骨は不明である。

本人骨の年齢は熟年と考えられ、年齢の割に咬耗度が弱いのは、対応する上・下顎歯が欠損していたためではないかと考えられる。性別は女性と考えられる。

**墓107 (ST120)**

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、煙管、釘を伴っており、近世 (18世紀後半頃) のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北北東に置き、左右の大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて仰臥位にて埋葬されていたものと考えられる。

顔面頭蓋と右側頭部～頭蓋底を欠く。そのほか、接合できない右錐体が検出されている。

外後頭隆起は比較的よく発達している。

三主縫合の外板を見ると、冠状縫合、矢状縫合、人字縫合はまだ癒合閉鎖を完了していない。しかし、これらの縫合の内板は、冠状縫合ではほぼ全長に渡って癒合しており、矢状縫合も1/3程度癒合閉鎖をきたしている。また、人字縫合でも癒合閉鎖をきたしている部分が多い。歯は右下顎第1大臼歯片と思われるものが1点検出されているのみである。咬耗はやや進んでおり、Martin 2度である。

脊椎の骨では、胸椎が2椎分と仙骨の上部が検出されているにすぎない。胸椎間と第1仙椎の上方には、骨棘形成が認められる。肋骨は2本程度検出されている。上肢骨では、左右不明の橈骨体の部分が検出されているにすぎない。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。大坐骨切痕は中程度である。下肢骨では、左右の大腿骨、左右の脛骨、左腓骨が検出されている。これらの骨は比較的太い。足根骨では、右側が踵骨と距骨、左側が踵骨、距骨、舟状骨が検出されており、左第3中足骨も検出されている。

本人骨の年齢は壮年後半～熟年、性別は男性と考えられる。

#### 墓108 (ST45)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌や煙管、銅金具、釘を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。

正座して体幹前面を北西に向けた状態で、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態で埋葬していたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位であると考えられる。

残存している頭蓋の部位は非常に少なく、左右の側頭部～後頭部にかけての部分と、蝶形骨の一部が残存しているにすぎない。頭蓋は全体的に小さいように思われる。

三主縫合を見ると、人字縫合の外板は未閉鎖であり、内板も未閉鎖である。矢状縫合の外板は風化が著しく、閉鎖状況は不明であるが、内板のラムダに近い部分では完全に癒合閉鎖をきたしている。歯は検出されていない。

脊椎の骨では、部位不明の椎体片が1点と仙骨の一部が検出されているにすぎない。

上肢帯の骨では、右肩甲骨の一部が検出されているのみである。

下肢帯の骨では右寛骨臼片が、下肢骨では左右の大腿骨が残存しているのみである。大腿骨は細い。本人骨の年齢は壮年後半～熟年と考えられ、性別は女性であると推定される。

#### 墓109 (ST93)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世のものと推定される。

被埋葬者は、頭を南に置き、大腿が体幹に接するほど股関節を屈曲させて仰臥位にて埋葬されていたと考えられる。

残存している頭蓋骨の部位は、右頭頂部～側頭部にかけての部分と、後頭骨および前頭骨の一部、左錐体の部分である。また、上顎骨と下顎骨の一部が残っている。本頭蓋にはインカ骨が認められる。

乳様突起は中等度で、外後頭隆起は突出している。

残存している三主縫合を見ると、矢状縫合および人字縫合の外板は未閉鎖であるが、矢状縫合の内板は癒合閉鎖が進んでおり、人字縫合の内板もやや癒合閉鎖が進行している。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 0～2度である。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |  |   |                |                |  |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--|---|----------------|----------------|--|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |  |   |                |                |  | M <sub>3</sub> |
|                | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |                |  | 脱 | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |  |                |

頭蓋骨のほかに検出されている骨は、左長骨片、左右の大腿骨、左右の脛骨、右距骨にすぎない。左長骨の大坐骨切痕は広いようであり、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

**墓111 (ST34)**

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌を伴っており、近世(18世紀前葉以降)のものと考えられる。

骨の遺存状況は極めて悪く、埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨片と指骨および歯が検出されているにすぎない。歯はすべて遊離歯の状態で見出されており、咬耗はあまり進んでいない(Martin 1~2度)。歯式は以下の通りである。

|                  |                |                |                |                |                  |                |                |
|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|------------------|----------------|----------------|
| P <sub>2</sub> C |                |                |                | I <sub>1</sub> | C P <sub>1</sub> |                |                |
| M <sub>2</sub>   | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |                | P <sub>1</sub>   | P <sub>2</sub> | M <sub>2</sub> |

本頭蓋の年齢は壮年と考えられる。性別は不詳である。

**墓112 (ST29)**

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに毛抜きや煙管、釘を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。

埋葬肢位は、頭を北に置き、顔面を西を向けて、股関節を強く屈曲させて埋葬された、右側臥屈位であると考えられる。

頭蓋骨の残存部位は少ないが、上顎および下顎は比較的良好に保存されている。脳頭蓋では、右側頭骨~後頭骨の一部にかけての骨が残存しているにすぎない。眼窩や鼻部の形状は不明である。下顎骨は、左下顎体の後方と左下顎枝を欠くが、そのほかの部位はほぼ完存している。上顎・下顎ともに歯が釘植している。歯の咬耗はかなり進んでおり、Martin 1~4度である。歯槽の退縮は著しく、歯槽膿漏の所見を呈している。また、前歯には歯石の沈着が著明である。右下顎第2大臼歯は舌側にやや傾いて釘植している。歯式は以下の通りである。

|                                                                                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 閉 M <sub>1</sub> P <sub>2</sub> P <sub>1</sub> C I <sub>2</sub> I <sub>1</sub> |                |                |                |                |   |                |                | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |
| M <sub>3</sub>                                                                 | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

椎骨では、頸椎が第1頸椎のほか2点と、細片化した椎骨片が残存している。上肢帯の骨では右肩甲骨片、上肢骨では右上腕骨の一部、右橈骨の一部、右尺骨の一部、右月状骨、左第2、第3中手骨が残存している。

下肢帯の骨では、左右の寛骨片が残存している。下肢骨では、左右の大腿骨の一部と左右の脛骨の一部、左右の踵骨と距骨、左側の舟状骨が見つかった。

本人骨の年齢は熟年と考えられ、性別は下顎骨が比較的頑丈であることから男性と考えられる。

**墓113 (ST129)**

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っていない。近世のものではないかと推定される。残存する人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

検出されている骨は下肢帯および下肢骨に限られ、右寛骨片、右大腿骨片、右脛骨片、および右

側の距骨、舟状骨、内側楔状骨、中間楔状骨が検出されているにすぎない。また中足骨では、第2、第4中足骨が検出されている。

本人骨は成人であることは確かであるが、性別は不詳である。

#### 墓115 (ST64)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌や釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北東に置き、顔面を北西に向け、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

脳頭蓋では前頭部～後頭部にかけての部分と、左右の側頭骨錐体片が検出されているにすぎない。

前頭部の膨隆は著明である。頭蓋の骨は比較的薄く、頭蓋そのものも小さいように思われる。

三主縫合を見ると、内板・外板ともに未閉鎖で、まだ若い個体であることがうかがえる。

すべての歯は遊離歯の状態で見出されている。咬耗はあまり進んでおらず、Martin 0～2度である。なお、歯にはエナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                                              |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------------------------------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C                                            |
| M <sub>3</sub> |                | M <sub>1</sub> |                |                | C |                |                | C              | M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub> |

下肢帯の骨では左寛骨の一部、寛骨臼の一部が残存しており、下肢骨では左右の大腿骨と右脛骨が残っているにすぎない。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。足根骨では、右踵骨と左右の距骨の一部が残存しているにすぎない。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性であると考えられる。

#### 墓116 (ST55)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、釘を伴っており、近世(18世紀前葉以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北北東に置き、顔面を南西に向け、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されており、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

頭蓋は大きく破損しており、接合することはできない。残存している部分は前頭～頭頂部の一部、右側頭部で、後頭部を欠く。左側は錐体のみ検出されている。顔面頭蓋では、右眼窩外側～下縁の部分から上顎にかけての部分が残り、左側では頬骨および上顎骨の一部が残存している。下顎骨は右下顎枝を欠くが、そのほかの部分はほぼ完存している。

乳様突起は大きく、表面は粗造である。また、外後頭隆起も発達が著しく、頂面のレリーフも粗造である。下顎骨は大きく、重厚である。

冠状縫合の外板は癒合閉鎖が進んでいるが、まだ完全には癒合閉鎖をきたしていない。しかし、冠状縫合の内板はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしている。人字縫合の外板は未閉鎖であるが、内板では一部は閉鎖しているようである。骨口蓋縫合で確認できるのは、横口蓋縫合の一部であるが、この縫合の外側部は縫合が閉鎖しているようである。歯の咬耗はやや著明で、Martin 2～3度である。歯槽縁には骨の吸収と増殖が認められ、歯周囲炎の所見を呈している。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |  |  |                |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|--|--|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |  |  | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 脱              | M <sub>3</sub> |                |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | 脱 | 脱              | 脱              |  |  | 脱              | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

脊椎では、胸椎が3椎分程度残存している。

上肢帯および上肢骨では、左右の肩甲骨の一部と右鎖骨の一部、右上腕骨と左橈骨の一部、手の骨では右側の舟状骨、大菱形骨、有頭骨が残存している。

下肢帯の骨では、左右の寛骨臼の一部が検出されている。下肢骨では左右の大腿骨、脛骨、右腓骨の一部が検出されている。また、右膝蓋骨の一部も検出されている。足根骨では、左側の舟状骨、内側・中間・内側楔状骨が検出されている。

本人骨の年齢は熟年と推定され、性別は明らかに男性である。右大腿骨最大長は41.4cmで、Pearson式で身長を求めると158.6cm、藤井式では156.4cmと推定される。

#### 墓117 (ST75)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。骨の遺存状況は悪く、埋葬肢位は不明である。

細片化した頭蓋骨片が検出されているのみである。そのほかに、ウシの歯が1点、火葬骨が1点混入している。土葬と考えられる四肢骨は検出されていない。

頭蓋骨の大きさから成人骨であることは間違いがないが、年齢、性別は不詳である。

#### 墓118 (ST76)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)と考えられる。ウシの歯および骨片も検出されているが、埋葬に伴うものとは考えがたい。

被埋葬者は、体幹前面を北東に向けた状態で正座し、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態をとっていたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位であったと考えられる。

骨の遺存状況は悪く、脳頭蓋では眼窩上部および鼻部～頭頂部にかけての部分、左右の側頭部の一部が検出されているにすぎない。

前頭部はなだらかに立ち上がり、頭頂部に続いている。また、眉間は比較的良好に突出している。

三主縫合のうち、確認できる縫合は冠状縫合である。冠状縫合の外板は未閉鎖であるが、内板では癒合閉鎖が進んでいる。歯はまったく検出されていない。

頭蓋骨以外では、左寛骨臼の一部、左右の大腿骨の一部、左右の脛骨の一部が残存している。

本人骨の年齢は壮年後半～熟年、性別は男性と考えられる。

#### 墓120 (ST78)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、鎌を伴っており、近世のものと推定される。

被埋葬者は、頭を北北東に置き、顔面を西に向け、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させた状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

残存頭蓋骨は、側頭部～後頭部、頭蓋底にかけての部分で、そのほかに上顎・下顎が検出されている。

乳様突起は中等度に発達しており、外後頭隆起の突出は著しく、頂面のレリーフも著明である。

残存している矢状縫合と人字縫合を見ると、外板ではまだ癒合閉鎖をきたしていないが、内板ではかなり癒合閉鎖をきたしており、人字縫合の一部が消失していないにすぎない。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合はほぼ消失しているが、正中口蓋縫合口蓋骨部はまだ消失していない。顎骨には一部歯槽の閉鎖が認められるが、かなりの数の歯が釘植している。咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1~2度である。また、歯にはエナメル質減形成が認められる。右下顎第3大臼歯は咬合面が頬側を向いており、いわゆる外方転移をきたしている。また、左下顎第3大臼歯は前方転位をきたしている。右下顎第3大臼歯は歯冠の形態が異常であり、歯根部には巨大なセメント質腫が認められる。また、左右下顎第2大臼歯に相当する歯槽は大きな膿胞状をなしており、歯根膿胞があった可能性が高い。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |   |                |                |   |                |   |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|----------------|---|----------------|---|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |                |   |   | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | 脱 | I <sub>2</sub> | C | 脱 | P <sub>2</sub> | 脱              | M <sub>2</sub> |                |
| M <sub>3</sub> | 脱              | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 閉 | C | I <sub>2</sub> | 閉              | 脱 | I <sub>2</sub> | C | 閉 | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 脱              | M <sub>3</sub> |

脊椎の骨では、第1~第4頸椎のほか頸椎が2椎分、胸椎が1椎分残存している。

上肢骨では、右の上腕骨、橈骨、尺骨の一部が検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨臼の部分が検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨と脛骨が検出されており、大腿骨は太く、寛骨臼も大きい。足根骨では、右距骨の一部が検出されている。

本人骨の年齢は壮年~熟年前半と推定され、性別は男性と考えられる。

#### 墓121 (ST106)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鉄、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。本土壌の西側からはウシと思われる長骨と小動物の骨が検出されているが、被埋葬者の埋葬に伴うものとは考えがたい。

被埋葬者は、頭を北東に置き、大腿が体幹に接するほど股関節を屈曲させて仰臥位にて埋葬されていたものと考えられる。

骨の遺存状況は極めて悪く、前頭骨の後半~頭頂骨の前半にかけての部分、後頭部の一部、左側頭骨片、右錐体片が検出されているのみである。比較的頭は大きいようであり、男性骨をうかがわせる。前頭骨の外板には、前頭縫合の遺存が認められ、内板では閉鎖をきたしている。

確認できる三主縫合を見ると、外板では冠状縫合は未閉鎖であるが、矢状縫合の一部では癒合が進んでいる。内板では、冠状縫合と矢状縫合が閉鎖しており、人字縫合もかなり閉鎖が進んでいる。

上肢骨は、右上腕骨の一部、左右不明の上腕骨、左右の尺骨の一部が検出されている。

下肢骨では、左右の大腿骨、左脛骨、左踵骨、左距骨が検出されている。

本人骨の年齢は壮年後半~熟年と考えられ、性別は上腕骨の太さや大坐骨切痕の形状から判断して男性と考えられる。

なお、本土壌から検出された人骨として、男性骨と考えられる左右の寛骨、左大腿骨、左距骨が検出されているが、これらは別個体のものと考えられる。これらの人骨は土壌の掘り下げ中に検出されたものか、人骨の整理中に混入したものか不明である。

### 墓122 (ST107)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、櫛を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北北東に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させて埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

頭蓋骨では、前頭部～頭頂部の一部、左右の側頭骨、下顎骨片が残っているのみである。

冠状縫合と矢状縫合はわずかに確認できるのみであるが、外板では癒合閉鎖がかなり進んでおり、内板では完全に閉鎖をきたしている。乳様突起は破損があってその全体像は分からないが、大きさは小さいようであり、女性骨をうかがわせる。歯は検出されていない。

上肢骨では左右不明の上腕骨が検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。左右ともに大坐骨切痕を欠くが、左寛骨には出産溝が認められる。下肢骨では、左右の大腿骨と左右の脛骨が検出されている。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は熟年、性別は女性と考えられる。

### 墓123 (ST96)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、煙管、数珠玉を伴っており、近世(18世紀後半以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させて埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

頭蓋骨片が3点検出されているのみである。確認できる骨は左側頭骨後方、左頭頂骨下方、後頭骨前方の部分であり、ラムダ縫合が一部残存している。このラムダ縫合を見ると、外板ではかなり癒合閉鎖が進んでおり、内板では完全に癒合閉鎖をきたしている。歯は検出されていない。

脊椎の骨は、椎骨片が1点検出されているにすぎない。

上肢骨では、左右不明の上腕骨が1点と、右尺骨の一部が検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。右仙腸関節の上部には靭帯の骨化が認められる。下肢骨では右側の大腿骨、脛骨、腓骨が検出されている。大腿骨は太くて粗線が発達している。足根骨は、右踵骨と距骨が検出されている。

本人骨の年齢は縫合の閉鎖状況から熟年～老年と考えられ、性別は男性である。

### 墓125 (ST98)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世のものではないかと推定される。残存人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

骨片と腸骨片が検出されているのみである。大坐骨切痕は広いようであり、女性骨をうかがわせる。

本人骨の性別は女性をうかがわせるが、確言できない。

### 墓127 (ST72)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、懐中時計、体温計、湿・温度計、



Martin 2~4度である。そのほかに左側の歯が遊離歯として検出されている。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |   |  |                |                |
|----------------|----------------|----------------|---|--|----------------|----------------|
| P <sub>1</sub> |                |                |   |  | M <sub>2</sub> |                |
| 脱              | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 破 |  | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

頭蓋骨のほかに残存している骨は、左上腕骨、左尺骨、左右の大腿骨、脛骨の一部のみである。本人骨の年齢は熟年~老年と考えられ、性別は女性骨をうかがわせるが確言できない。

**墓130 (ST71)**

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌や鋏、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北に置き、顔面を南東に向けた状態で、体幹の左側を下にして股関節を強く屈曲させて埋葬されており、埋葬肢位としては左側臥屈位である。

頭蓋は眼窩の部分と右側頭部、頭蓋底の一部を欠く。眉間の部分は欠損している。

頭蓋は全体的に小さい。前頭部の膨隆は著しく、眉弓はやや発達しているようである。乳様突起は中等度に発達している。下顎骨はやや重厚な印象を受ける。

三主縫合を見ると、外板では部分的にやや癒合閉鎖が進んでいる。内板では、冠状縫合の一部で癒合閉鎖が進んでおり、矢状縫合でも癒合閉鎖が進んでいるようである。また、人字縫合はかなりの部分で癒合閉鎖が進んでいる。骨口蓋縫合では切歯縫合は消失しているが、ほかの縫合については、閉鎖の程度は不明である。歯の咬耗はやや進んでおり、Martinの1~3度である。前歯は咬耗が進んでいるものの、臼歯はあまり進んでおらず、Martin 1程度である。エナメル質減形成が認められ、一部の歯槽においては骨の吸収・増殖が認められ、歯周疾患と思われる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | 脱              | I <sub>2</sub> | 脱 | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | 脱              | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

脊椎の骨では、胸椎が3椎残存しており、肋骨片が1点検出されている。

上肢帯の骨では左肩甲骨が、上肢骨では、右上腕骨の一部が検出されているにすぎない。

下肢帯の骨では左右の寛骨臼の一部が、下肢骨では左右の大腿骨と脛骨が検出されている。

本人骨の年齢は壮年後半~熟年と考えられる。性別は総合的に判断して、女性としておきたい。

**墓131 (ST66)**

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに煙管や銅製飾り金具、釘を伴っており、近世(18世紀前葉頃)のものと考えられる。

残っている骨は多くはないが、骨の検出状況から判断して、被埋葬者は体幹前面を北北西に向けた状態で正座し、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態をとっていたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位であったと考えられる。

骨の遺存性は極めて悪く、脳頭蓋を構成する骨では左右の側頭骨の錐体、前頭骨片、頭頂骨片、蝶形骨片などが残存しているにすぎない。上顎骨では一部の歯が釘植しているが、上顎骨の保存性は極

めて悪い。下顎骨では、左側～前方にかけての部分と右側の一部が残存している。残存している下顎骨を見ると、大部分の歯の歯槽は閉鎖している。一部の歯の咬耗は著しく、特に左第2大臼歯は歯頸部による咬耗が認められる。全体として、歯の咬耗はMartinの0～4度である。歯式は以下の通りである。

|                |   |   |                |   |   |                |   |                |   |                |                |
|----------------|---|---|----------------|---|---|----------------|---|----------------|---|----------------|----------------|
|                |   |   |                |   |   | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> |   | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | 閉 | 脱 | P <sub>1</sub> | 閉 | 閉 | 閉              | 閉 | 閉              | 閉 | M <sub>1</sub> |                |

残存している骨は少なく、手の骨では中手骨が2本、基節骨が1本残っているにすぎない。下肢骨では、左右の大腿骨の一部と右脛骨の一部が残存しているのみである。

本人骨の年齢は熟年～老年、性別は女性骨をうかがわせる。

### 墓132 (ST61)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌や煙管を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。

検出された人骨は少ないが、被埋葬者は体幹前面を北に向けた状態で正座し、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態をとっていたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位と考えられる。

四肢骨の残存はきわめて悪く、右側の大腿骨、脛骨、腓骨の一部が検出されているにすぎない。大腿骨は太く、男性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は特定できないが、成人骨であることは間違いなく、性別は男性と考えられる。

### 墓133 (ST65)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。残っている骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨は破損が著しく、確認できる骨はプレグマを中心とした前頭骨、頭頂骨の部分と頭頂部、後頭部の一部、左右の側頭骨の一部のみである。

三主縫合を見ると、外板では未閉鎖であるが、内板ではすべての縫合で癒合閉鎖をきたしている。

外後頭隆起は比較的良好に発達しており、項面のレリーフも著しい。歯はまったく検出されていない。

本人骨の年齢は壮年後半～熟年と考えられ、性別は男性をうかがわせるが確言できない。

### 墓134 (ST104)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに煙管、釘を伴っており、近世(18世紀後葉～19世紀前半頃)のものと考えられる。残存している人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨は細片化しており、検出された骨は頭蓋冠を中心としたラムダ付近の後頭部(左右の頭頂骨、後頭骨)のみである。わずかに確認できる矢状縫合と人字縫合は、外板ではやや縫合閉鎖が進んでいて、内板ではほぼ完全に閉鎖をきたしているように見受けられる。歯は検出されていない。

骨細片から得られる情報は少ないが、本人骨の年齢は熟年と推定され、性別は骨厚が厚いことから男性ではないかと考えられるが、確言できない。

### 墓135 (ST89)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏や毛抜、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、体幹前面を北北西に向けた状態で正座し、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態で埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位であったと考えられる。

顔面頭蓋、左側頭部、頭蓋底を欠く。左錐体部分は検出されているが、接合できない。頭形は中頭のようなものであるが、頭頂部が上方に突出しており、また、頭頂部の後方がややくぼんでいるなど、かなり奇異な感じを受ける。このような変形が土圧によって生じたものかどうかは不明である。

乳様突起は破損があってその原形を知ることはできないが、大きいようであり、外後頭隆起も発達している。全体的に頭蓋は大きい印象を与える。

三主縫合を見ると、外板ではいずれの縫合でも癒合閉鎖が進んでいるように見受けられ、なかでも矢状縫合およびラムダ縫合の癒合閉鎖がかなり進んでいる。これに対し、冠状縫合の癒合閉鎖はあまり著明ではない。内板を見ると、矢状縫合の一部はまだ完全に閉鎖をきたしていないが、冠状縫合および人字縫合の内板はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしている。歯は検出されていない。下顎骨では右の関節突起および筋突起の部分のみが検出されている。

脊椎の骨では、第2頸椎、第4～第5腰椎と仙骨の一部が検出されている。

上肢帯の骨では右肩甲骨の一部が、上肢骨では左右の上腕骨、左尺骨の一部が検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨が検出されている。また、左右の仙腸関節の上部の靭帯には、骨化が認められる。下肢骨では、左右の大腿骨、左脛骨、左右不明の脛骨片が検出されている。足根骨では、左距骨の一部が検出されている。足の基節骨は左第1基節骨が1本検出されている。

本人骨の年齢は熟年、性別は男性であると考えられる。

### 墓136 (ST90)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、棺金具を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。土壌の南西隅からは頭蓋骨が検出されているが、これは本土壌の埋葬者ではないと考えられるので、墓136(別個体)(ST90別個体)として取り扱うことにする。

被埋葬者は、頭を北北西に置き、大腿が体幹に接するほど股関節を屈曲させて仰臥位にて埋葬されていたと考えられる。

残存している部位は前頭部～頭頂部および後頭骨の一部と、左側頭部のみである。右側頭部の一部も検出されているが、接合できない。

眉間の突出は少なく、眉弓も平坦である。前頭部の膨隆は著しい。頭蓋は全体に小さくて厚みも少なく、女性骨をうかがわせる。

三主縫合は外板・内板ともに未閉鎖である。歯はすべて遊離歯として検出されており、歯の咬耗度はMartin 1～2度である。また、右上顎第1小臼歯の歯頸部の近・遠心側には3度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| P <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | I <sub>2</sub> |
|----------------|----------------|----------------|

残存している骨は、左鎖骨の一部と左肩甲骨の一部、左右の大腿骨の一部、左右の脛骨の一部のみである。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

### 墓136 (別個体)(ST90別個体)

ST90の南西隅から検出された頭蓋骨で、ST90の被埋葬者とは別個体のものである。

頭蓋は大きく破損しており、確認できる部分は鼻根部を中心とした前頭骨、右側頭骨～後頭骨にかけての部分、左錐体、左右上顎骨、下顎骨の右半分にすぎない。

眉間の突出は著明で、眉弓もやや発達しているように見受けられる。乳様突起は中等度に発達している。外後頭隆起はやや突出しており、頂面のレリーフはやや著明である。

三主縫合は、人字縫合の一部が確認できるにすぎない。この縫合の外板はまだ閉鎖をきたしていないが、内板はやや癒合閉鎖をきたしているようである。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合は外側では消失している。正中口蓋縫合口蓋骨部は後ろ1/2が癒合して消失している。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1～2度である。歯にはエナメル質減形成が認められ、歯槽はやや退縮していて、その周囲には骨吸収と骨新生が認められ、歯周疾患の要素を呈している。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |   |   |   |   |                |                |   |   |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|---|---|---|----------------|----------------|---|---|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | 脱 | 脱 | 脱 | 脱 | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 脱 | 脱 |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | 脱 |   |   |   |   |                |                |   |   |

本人骨の年齢は、歯の咬耗具合から見て壮年と考えられ、性別は男性と考えられる。

### 墓137 (ST83)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに棺金具、櫛を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北西に置き、大腿が体幹に接するほど股関節を屈曲させて仰臥位にて埋葬されていたと考えられる。

頭蓋は頬骨弓の一部と右上顎の一部を除いて、ほぼ完存している。

頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が187mm、頭蓋最大幅が135mm、バジオン・プレグマ高が147mmで、頭蓋長幅示数は72.2、頭蓋長高示数は78.6、頭蓋幅高示数は108.9となり、頭型はbrachy-、hypsi-、akrokran(短・高・狭頭)に属している。上顔示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は90.7でhypsiknoch(高眼窩)に、鼻示数は46.7でleptorrhin(狭鼻)に属している。

眉間の突出は著明で、眉弓の発達も著しい。前頭の膨隆はやや著明であるが、前頭骨はなだらかなカーブを描いて頭頂部に続いている。乳様突起は小さいが、外後頭隆起は中等度に突出している。頂面のレリーフは比較的弱い。眼窩上縁は鈍である。

三主縫合を見ると、冠状縫合の外板は部分的に癒合閉鎖が認められ、矢状縫合の外板はかなりの部分が閉鎖している。また、人字縫合の外板もほぼ全長に渡って閉鎖している。内板はすべての縫合において癒合閉鎖している。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の外側部は縫合が消失している。そのほかの部位は不明である。歯の咬耗はやや進んでおり、Martinの1～3度である。エナメル質減形成が認められ、歯槽の退縮も著しい。右下顎第2小臼歯には4度のカリエスが認められ、左上顎第1小臼歯

には歯根嚢胞が認められる。また、右下顎第1切歯は遊離歯として検出されているが、吸収閉鎖をきたしている歯槽が多い。右上顎側切歯は矮小歯である。歯式は以下の通りである。

|   |   |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |   |
|---|---|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|---|
| 閉 | 閉 | 閉              | 脱              | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | 閉              | C | 脱              | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 閉 |
| 閉 | 閉 | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | 閉              | 閉              | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | 脱              | 閉              | 脱 |

脊椎の骨では、第1頸椎のほかに頸椎が3椎分検出されており、肋骨は4本程度残っている。

上肢帯の骨では左鎖骨の一部、左右の肩甲骨の一部が残っている。上肢骨では、左右の上腕骨と左右の橈骨、右尺骨の一部が残存している。手根骨では右舟状骨、小菱形骨が認められ、中手骨は2本、基節骨が1本残っている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部、左右の大腿骨および脛骨の一部、右腓骨が認められる。足根骨では、右内側楔状骨、左側では、踵骨、距骨、中間楔状骨が認められる。また、中足骨では、左第1中足骨のほかに1本、指の基節骨が1本検出されている。

本人骨の年齢は、頭蓋縫合の閉鎖状況から判断して熟年、性別は男性と考えられる。

### 墓138 (ST91)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、煙管、火打ち石、火打ち金、釘を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。

被埋葬者は、頭を北北東に置き、顔面を西に向けた状態で、体幹の右側を下にして股関節を強く屈曲させて埋葬されていたと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。なお、埋葬肢位全体に対する頭蓋骨と左大腿骨の位置関係はきわめて不自然で、これらの骨は一旦掘り起こされてから、再び埋葬された可能性が高い。

頭蓋骨は顔面頭蓋を大きく欠き、顔面頭蓋では右眼窩の上外側部が残っているにすぎない。本頭蓋には土圧による変形が認められる。

乳様突起は大きく、外後頭隆起はやや発達しており、頂面のレリーフはやや著明である。

三主縫合を見ると、矢状縫合、人字縫合ともに外板は癒合閉鎖が進んでいて、痕跡をとどめているのみである。内板では、いずれの縫合も完全に癒合閉鎖している。下顎骨は大半が残存しているが無歯顎である。残存している歯は右上顎犬歯のみである。下顎が無歯顎であったためか、咬耗はあまり進んでおらず、Martin 2度であり、エナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| C |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |

脊椎の骨では、脛骨が1点、胸椎が11椎骨分、腰椎が2椎骨分検出されており、仙骨の一部も検出されている。肋骨は左側が5本程度検出されている。

上肢骨では、左右ともに上腕骨、橈骨、尺骨の一部が検出されている。右上腕骨の遠位関節端には、炎症の所見が認められ、肘関節炎を患っていたものと考えられる。手根骨では、右月状骨と左有頭骨が検出されている。また、基節骨が1本、中節骨が2本、末節骨2本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。大坐骨切痕は狭く、男性骨をうかがわせる。下肢骨では、左右の大腿骨、左右の脛骨、右腓骨が検出されている。足根骨では、右側が踵骨、距骨、

内側楔状骨、立方骨が、左側は距骨、舟状骨、内側楔状骨、立方骨が検出されている。中足骨では、第1、第3～第5中足骨（右側）が、左側では第1中足骨が検出されている。

本人骨の年齢は老年、性別は男性と考えられる。

#### 墓139 (ST100)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌を伴っており、近世（18世紀半ば以降）のものと考えられる。

被埋葬者は、体幹前面を北東に向けた状態で正座し、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態をとっていたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位をとっていたのではないかと考えられる。

前頭部～頭頂部および後頭部の一部にかけてと、右側頭部が接合した状態で検出されている。眼窩および鼻部を欠くが、上顎と下顎は一部が残存している。左側頭部は一部の骨が検出されている。

乳様突起は欠損があるが、小さいようであり、頂面のレリーフも弱いようである。

三主縫合の外板はまだ癒合閉鎖をきたしていないが、矢状縫合の内板はかなり癒合閉鎖が進んでおり、冠状縫合および人字縫合の一部でも癒合閉鎖が進んでいる。骨口蓋縫合を見ると、横口蓋縫合の外側部は消失しているが、正中口蓋縫合口蓋骨部は後端においても未閉鎖である。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1～2度である。歯槽の退縮は一部の歯においては進んでいる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C              | 脱 | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |                |
|                | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

頭蓋骨以外の骨の遺存はきわめて悪く、同定できた骨は左右の大腿骨の一部にすぎない。大腿骨は細いようであり、女性骨をうかがわせるが、確言できない。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

#### 墓140 (ST102)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世（18世紀半ば以降）のものと考えられる。

埋葬肢位は、頭蓋骨が検出されていないので確言しにくいですが、おそらく頭を北北東に置き、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬された、仰臥屈位ではないかと考えられる。

残存している骨は、右肩甲骨の一部、左上腕骨の一部、左右の大腿骨の一部のみである。上腕骨や大腿骨は細く、筋の付着部の発達も不良であるので、女性骨と考えられる。

本人骨は成人骨であるが、詳細な年齢は特定できない。性別は女性と考えられる。

#### 墓141 (ST133)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鉄を伴っており、近世（18世紀前葉以降）のものと考えられる。

被埋葬者は、体幹前面を北東に向けた状態で正座し、頭部と体幹を前方に屈曲させて腹臥状態をとっていたと考えられ、埋葬肢位としては半腹臥正座位であったと考えられる。

頭蓋骨の保存は極めて悪く、細片化した骨が検出されているにすぎない。残存部位は右側頭骨の一部、左側頭骨の一部、頭蓋冠を中心とした骨細片で、そのほかに右眼窩の上外側部が残っているにすぎない。また、下顎骨では、右側の一部が残っているにすぎない。

眼窩上縁は鈍であり、本頭蓋が男性骨であることをうかがわせる。

歯は、右下顎第1、第2大臼歯以外は遊離歯として検出されている。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1~2度である。右下顎第2大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |   |   |                |  |  |                |  |  |                |                |  |                |
|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|--|--|----------------|--|--|----------------|----------------|--|----------------|
| M <sub>2</sub> |                |                |   |   | C              |  |  | I <sub>1</sub> |  |  | P <sub>2</sub> |                |  | M <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 脱 | C | I <sub>2</sub> |  |  |                |  |  | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |  |                |

頭蓋骨以外では、右上腕骨、左右の寛骨臼片、左右の大腿骨、左右の脛骨、右腓骨、右膝蓋骨、右踵骨、左右の距骨が残っているにすぎない。大腿骨の太さは中程度である。

本人骨の年齢は壮年と考えられ、性別は男性と考えられる。

**墓142 (ST11)**

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられている。

頭蓋骨の下から四肢骨の一部が検出されているが、骨の残存部位が少なく埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨は左側頭部、左頬部、右側頭部の一部、後頭部および頭蓋底を欠く。顔面頭蓋はほぼその概形をうかがい知ることができる。

前頭膨隆は著明で、眉弓や眉間の発達は弱く、眼窩上縁はやや鋭である。

残存している冠状縫合と人字縫合を見ると、外板はいずれも未閉鎖であるが冠状縫合の内板では癒合閉鎖が進んでいる。口蓋縫合を見ると、切歯縫合はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしている。横口蓋縫合は外側部まで癒合が未閉鎖である。正中口蓋縫合口蓋骨部は欠損しており、閉鎖状況は不明である。

歯は上顎・下顎ともに残存歯はすべて釘植している。歯の咬耗はほとんど進んでおらず、Martin 0~1度である。エナメル質減形成が認められる。右下顎第2大臼歯には3度のカリエスが認められ、左第2小臼歯の部位の歯槽は癒合閉鎖をきたしている。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | 脱              | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | 閉              | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

頭蓋骨以外では、右大腿骨の一部と左脛骨、左腓骨の一部、2点の中手骨が検出されているにすぎない。大腿骨には、齧歯類と思われる咬痕が認められる。検出された下肢骨はきわめて細い。

以上の所見から、本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

**墓143 (ST22)**

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鉄鍋、漆器、玉、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

埋葬肢位は右側臥屈曲位のように見えるが、鉄鍋の上から頭蓋骨が検出されている点を考慮すると、

体幹前面を西北西に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位であったと考えられる。

頭蓋骨は、右側頭部の錐体～頭頂骨および後頭骨の一部にかけての部分が残存しているのみで、顔面頭蓋を欠く。下顎骨は右側の骨体部のみ検出されている。

確認できた人字縫合は、外板・内板ともに未閉鎖である。頂面も平滑であり、外後頭隆起もあまり発達していない。一部の歯は遊離歯として検出されている。歯の咬耗はほとんど進んでおらず、Martin 0～1度である。右下顎臼歯部では歯槽の退縮が著しい。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |  |  |  |   |                |   |  |  |  |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|--|--|--|---|----------------|---|--|--|--|
|                |                |                |                | P <sub>1</sub> |   |  |  |  |   |                | C |  |  |  |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | 脱              | 閉 |  |  |  | C | M <sub>2</sub> |   |  |  |  |

肋骨は3本程度検出されている。

上肢骨では、右上腕骨の一部と左尺骨の一部が検出されており、上腕骨は細い。

下肢骨では、左右の大腿骨の一部、左右の脛骨の一部、左右の腓骨の一部が検出されているのみである。大腿骨や脛骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

#### 墓144 (ST21)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、煙管のほかに足袋のコハゼ、丸釘を伴っており、明治以降のものと考えられる。

骨の保存状況は良好で、体幹前面を西南西に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位である。

頭蓋は下顎骨の一部を欠くが、ほぼ完存している。頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が178mm、頭蓋最大幅が133mm、バジオン・プレグマ高が131mmで、頭蓋長幅示数は74.7、頭蓋長高示数は73.6、頭蓋幅高示数は98.5となり、頭型はdolicho-、meso-、akrokran (長・中・狭頭) に属している。上顔面示数は破損のため不明だが、左眼窩示数は83.3でmesoknoch (中眼窩) に属している。また、鼻示数は51.0で chamaerrhin (広鼻) である。本頭蓋の眼窩上面には軽度の眼窩篩が認められる。

前頭部の膨隆はやや著明で、眉間の突出は軽度であり、眉弓は平坦である。眼窩上縁はやや鈍である。乳様突起は小さく、項面のレリーフは著明ではない。

三主縫合を見ると、冠状縫合と矢状縫合の外板はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしており、人字縫合は未閉鎖である。三主縫合の内板は、冠状縫合と矢状縫合は癒合閉鎖をきたしているが、人字縫合は癒合が進んでいるものの、完全に閉鎖していない。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の内側部は未閉鎖であり、横口蓋縫合の外側部も未閉鎖である。また、正中口蓋縫合口蓋骨部の縫合も消失を認めない。

釘植している歯は少なく、大部分の歯槽は閉鎖をきたしている。残存歯を見る限り、咬耗はかなり進んでいるものがあり、Martin 2～4度である。歯槽の退縮はかなり著明であり、下顎は大部分が無歯顎の状態である。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |                |   |   |                |  |  |  |   |                |   |                |   |   |   |
|---|---|---|----------------|---|---|----------------|--|--|--|---|----------------|---|----------------|---|---|---|
| 閉 | 閉 | 閉 | P <sub>1</sub> | C | 閉 | I <sub>1</sub> |  |  |  | 閉 | 閉              | C | P <sub>1</sub> | 閉 | 閉 | 閉 |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉              | 閉 | 閉 | 閉              |  |  |  | 閉 | I <sub>2</sub> | 脱 | 閉              | 閉 | 閉 | 閉 |

頸椎、胸椎、腰椎はすべての椎骨が検出されており、仙骨の一部も検出されている。第4、第5胸椎、第11胸椎～第1腰椎と第4～第5腰椎の椎体は楔状を呈しており、圧迫骨折の所見である。肋骨

は10本程度検出されており、舌骨も検出されている。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨の一部、左右の肩甲骨の一部が検出されている。鎖骨は極めて細い。そのほか、胸骨の一部が検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨、左右の橈骨、左右の尺骨が検出されている。左橈骨には、遠位端骨折が認められる。手根骨では、右が舟状骨、月状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨、有鉤骨が、左側では舟状骨と小菱形骨が見つかった。左舟状骨の橈骨との関節面は粗造であり、関節炎の所見を呈している。中手骨は、右側が第1、第2、第4、左側が第4、第5中手骨が見つかった。基節骨は6本、中節骨は3本、末節骨は1本見つかった。

下肢帯の骨では左右の寛骨が残存している。大坐骨切痕は広い。出産溝は溝状ではないが、小陥凹がいくつか認められる。なお、左寛骨の腸骨稜の前方で骨折をきたしており、骨折片は内側下方に転移して治癒している。下肢骨では、左右の大腿骨、左右の脛骨、右腓骨が検出されている。いずれも骨は華奢である。足根骨では、右側が踵骨、距骨、舟状骨、左側はすべての骨が残存している。

本人骨の年齢は、歯槽が吸収閉鎖をきたしているものが多いことから老年が示唆される。しかし、冠状縫合、矢状縫合の外板はほぼ完全に癒合をきたしているものの人字縫合は未閉鎖であることから、老年とは確言できず、骨口蓋縫合の閉鎖状況から見ても老年とは断定できない。したがって、本頭蓋の年齢は熟年～老年としておきたい。性別は女性である。右上腕骨最大長と右脛骨最大長はそれぞれ27.8cm、31.1cmで、Pearson式で身長を求めるとそれぞれ148.0cm、147.9cm、藤井式ではそれぞれ147.5cm、146.3cmと推定される。

#### 墓145 (ST4)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀前葉～18世紀中葉頃)のものと考えられる。

左右の股関節や膝関節は屈曲した状態で検出されており、埋葬肢位は、体幹前面を北に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位である。

頭蓋骨は大きく破損をきたしており、接合できる骨は少なく、脳頭蓋では前頭骨片、頭頂骨片、左右側頭骨片、後頭骨片が、顔面頭蓋では、鼻骨の周辺～眼窩内側部にかけての部分と左右上顎部が残存しているにすぎない。前頭の膨隆はやや著明であり、頭蓋冠は概して薄い。頭蓋骨片に認められる下顎窩などの部分は大きく、男性骨をうかがわせる。

三主縫合のうち、残存しているラムダ縫合および矢状縫合を見ると、外板では未閉鎖であるが、内板ではやや癒合閉鎖が進んでいる。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合は消失しているようである。そのほかの部位については確認できない。

上顎骨には歯牙が釘植しており、下顎骨は右側の一部が検出されている。歯の咬耗はやや進んでおり、Martin 2～3度である。エナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|   |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|---|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 脱 | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
|   |                | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |                |                |   | P <sub>1</sub> |                |                |                |

椎骨では第2～第5腰椎が交連状態で検出されているのみである。

上肢骨では左上腕骨の一部、左橈骨の遠位端、左右尺骨の一部、左第5基節骨、左第1末節骨が検出されているにすぎない。上腕骨は太くて、三角筋粗面が発達している。

寛骨では左腸骨が検出されている。大坐骨切痕は欠損して、その形状は不明である。下肢骨では、左右の大腿骨、左右の脛骨、左腓骨、右の踵骨、距骨、舟状骨が検出されている。大腿骨は太くて頑丈である。脛骨には齧歯類と思われる咬痕が認められる。腓骨は細くて華奢である。

本人骨の年齢は、縫合の閉鎖状況や歯の咬耗度から壮年後半～熟年前半と考えられる。性別は、四肢骨の頑丈さや、頭蓋骨や筋粗面の発達具合から判断して男性骨ではないかと考えられる。左大腿骨最大長と左脛骨最大長はそれぞれ42.0cm、33.3cmと推定され、Pearson式で身長を求めるとそれぞれ154.5cm、153.0cm、藤井式ではそれぞれ155.7cm、153.1cmと推定される。

#### 墓146 (ST63)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

埋葬者は、体幹前面を南東に向けて膝を立てた状態で埋葬されており、埋葬肢位は立膝座位であったと考えられる。

頭蓋は顔面頭蓋と左頭頂部、頭蓋底を欠く。頭形は中頭であると思われる。

眉間の突出は中等度で、眉弓はやや突出している。また、眼窩上縁は鈍である。乳様突起は強大で、外後頭隆起はよく外方に突出し、項面のレリーフも著明である。

三主縫合は外板では未閉鎖であるが、内板ではやや癒合閉鎖が進んでおり、冠状縫合外側部では完全に癒合閉鎖をきたしている。下顎骨の一部とそれに釘植する歯が検出されている。また一部の歯は遊離歯の状態を検出されている。歯はやや咬耗が進んでおり、Martin 1～3度である。また、エナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |   |  |   |                |   |
|----------------|---|--|---|----------------|---|
| P <sub>2</sub> | C |  | 脱 | I <sub>2</sub> | C |
|----------------|---|--|---|----------------|---|

脊椎では、胸椎が3椎分、腰椎が4椎分検出されている。腰椎には軽度の骨棘形成が認められる。

上肢骨では、左右の上腕骨、右側の橈骨と尺骨が検出されている。上腕骨は太い。手根骨では、右舟状骨が検出されているのみであり、手の骨では、基節骨が2本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。大坐骨切痕は狭く、明らかに男性骨である。下肢骨では、左右の大腿骨、右脛骨、左右の腓骨、右踵骨と右距骨が検出されている。大腿骨はやや太い。

本人骨の年齢は壮年後半、性別は男性と考えられる。

#### 墓147 (ST27)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、鎌や釘を伴っており、近世末～近代のものではないかと推定される。

左右の大腿骨と脛骨が平行に並んで検出されており、膝関節を強く屈曲させていたことがうかがえる。元は、体幹前面を南西に向けて膝を立てた状態で埋葬されたと考えられ、埋葬肢位は立膝座位であったと考えられる。

頭蓋は、右側頭部～後頭部頭蓋底にかけての部分および右顔面の外側部を欠くが、そのほかの部分

はほぼ完存している。下顎骨の一部も検出されている。

頭蓋の頭形は中頭のものであり、全体的に小さい。頭蓋示数、上顔示数、眼窩示数は破損のため求められないが、鼻示数は50.0と推定されmesorrhin（中鼻）に属している。

前頭骨の膨隆は著しく、眼窩上縁は鋭である。また、乳様突起も小さいようであり、項面のレリーフも弱い。

残存している三主縫合を見ると、外板は癒合閉鎖をきたしておらず、内板でもやや癒合が進んでいる部位があるものの、癒合閉鎖はほとんど進行していない。上顎および下顎骨にはそれぞれ1本の歯が釘植しているのみである。大部分の歯槽は閉鎖している。咬耗はやや進んでおり、Marin 2~3度である。歯槽の退縮は著しい。左下顎側切歯の歯頸部には、近心~遠心にかけて貫通する4度のカリエスが認められる。また、エナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |   |   |   |   |                |   |   |                |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|----------------|---|---|----------------|---|---|
|   |   |   |   |   |   | 閉 | 閉              | 閉 | 閉 | P <sub>2</sub> |   |   |
| 閉 | 閉 | 脱 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | I <sub>2</sub> | C | 閉 | 閉              | 閉 | 閉 |

椎骨では、環椎の一部、4椎骨分の胸椎、3椎骨分の腰椎、仙骨の一部が検出されている。

上肢骨では左上腕骨の一部が検出されている。上腕骨は細く、女性をうかがわせる。手根骨では、右側が舟状骨、月状骨、豆状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨が、左側では、月状骨、三角骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨が残存している。中手骨では、右側が第1、第2、第5中手骨が、左側では第1中手骨が残存している。指骨では、左右の第1基節骨、およびそのほかの基節骨が4本検出されている。右第1基節骨の近位端は骨増殖が認められ、左右に幅が広がっていて、変形性関節症の所見を呈している。中節骨では、右第2中節骨のほかに1本検出されており、右第2中節骨の遠位骨端には骨増殖が認められる。末節骨では、左右第1末節骨のほかに2本の末節骨が残存している。

下肢帯の骨では、左右の寛骨片が見つかった。大坐骨切痕は広く、出産溝も認められ、女性骨であることをうかがわせる。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、左脛骨の一部、左右の腓骨の一部が残存している。また、膝蓋骨片が1点認められる。足根骨では、左立方骨が検出されている。

本人骨の年齢は壮年後半~熟年と考えられ、性別は女性であると考えられる。左脛骨最大長は29.8cmで、Pearson式で身長を求めると144.9cm、藤井式では143.5cmと推定される。

#### 墓148 (ST46)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌やかんざしを伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

被埋葬者は、体幹前面を西に向けて膝を立てた状態で座り、頸部を屈曲させて体幹がやや後方に傾いた状態で埋葬されたと推定され、埋葬肢位としては立膝座位と考えられる。

顔面頭蓋の左眼窩および鼻部~左側頭部、後頭部、頭蓋底を欠く。下顎骨はほぼ完全な状態で検出されている。頭蓋示数や上顔示数は破損のため求められないが、右眼窩示数は83.8と推定されmesoknoch（中眼窩）に、鼻示数は52.2でchamaerrhin（広鼻）に属している。

頭蓋は全体的に華奢で、小さい。前頭部の膨隆は比較的著明で、眉間は平坦である。また、眉弓の突出も少ないようで、眼窩上縁は鋭である。

残存している三主縫合を見ると、冠状縫合、矢状縫合の外板は未閉鎖であり、これらの縫合の内板

もまだ癒合閉鎖をきたしていない。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の外側部は消失しかけているようである。上顎・下顎には大部分の歯が釘植しており、咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1~2度である。右下顎第3大臼歯の近心~舌側面にかけて4度のカリエスが、左下顎第2大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。エナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

脊椎の骨は、頸椎では3椎骨分が残存しており、胸椎では第1~第9胸椎のうち5椎分と第10~第12胸椎が残存している。腰椎では、すべての腰椎が残存しており、第5腰椎には脊椎分離症が認められる。仙骨では、一部が残っているのみである。肋骨は9本程度残存している。また、胸骨は胸骨柄の部分が残っている。

上肢帯の骨では、左鎖骨の一部と左右の肩甲骨の一部が残っている。上肢骨では、右上腕骨の一部と右尺骨片、2本の中手骨、3本の基節骨、3本の中節骨、1本の末節骨が検出されている。

下肢帯の骨では、左寛骨が残存している。大坐骨切痕は広く、出産溝が認められる。下肢骨では、左右大腿骨、脛骨、右腓骨の一部、1本の基節骨が残っている。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

#### 墓149 (ST17)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世末~近代のものではないかと推定される。

体幹前面を西に向けて、膝を立てた状態で埋葬されたと考えられ、埋葬肢位は立膝座位である。

顔面頭蓋の一部と後頭部を欠くが、そのほかの部分の頭蓋はほぼ完存している。

前頭部はよく膨隆しており、眉間は平坦で眉弓も平坦である。また、眼窩上縁は鋭なようである。乳様突起は小さく、下顎骨も比較的華奢で、女性骨をうかがわせる。

三主縫合を見ると、冠状縫合の外板は未閉鎖であるが、矢状縫合の外板はやや癒合閉鎖が進んでいる。人字縫合の外板も未閉鎖である。冠状縫合の内板は未閉鎖であるが、矢状縫合の内板はほぼ癒合閉鎖をきたしている。骨口蓋縫合では、切歯縫合は内側部でやや痕跡が認められるものの、ほぼ消失している。横口蓋縫合は外側部でわずかに癒合閉鎖が進んでいる。正中口蓋縫合口蓋骨部では後端を欠くが、中程までは未閉鎖の状況である。歯の咬耗は著しく、Marin 2~4度である。また、エナメル質減形成が一部の歯に認められる。歯槽の退縮は著しく、歯槽が吸収閉鎖をきたしている歯も多い。また、右下顎第2小臼歯、左下顎第1、第2小臼歯には歯根嚢胞が認められる。歯式は以下の通りである。

|   |   |                |                |   |                |   |                |                |   |                |                |   |   |   |
|---|---|----------------|----------------|---|----------------|---|----------------|----------------|---|----------------|----------------|---|---|---|
| 閉 | 閉 | 閉              | 閉              | C | I <sub>2</sub> | 脱 | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | 閉              | 閉 | 閉 | 脱 |
| 閉 | 閉 | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | 閉 | 閉              | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 脱 | 閉 |   |

頸椎では、第1~第4頸椎、そのほかに胸椎~腰椎にかけての椎体片が数点検出されている。

上肢帯の骨では、右肩甲骨の一部が検出されているのみである。上肢骨では、左上腕骨、左尺骨の

一部、4本の中手骨、3本の基節骨、4本の中節骨、3本の末節骨が検出されている。上腕骨は細くて女性骨をうかがわせる。

下肢帯の骨では、左右の寛骨が検出されている。右は寛骨臼片のみであるが、左は大坐骨切痕～耳状面にかけての部分が残っている。確認できる大坐骨切痕は広く、また出産溝も認められることから、女性骨であることは間違いない。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、右脛骨が検出されている。大腿骨は細くて前後に扁平であり、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は、縫合の閉鎖状況から判断して熟年、性別は女性と考えられる。

### 墓150 (ST33)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降：近世末頃?)のものと考えられる。

脊柱が1本の柱状につながって検出されており、左右ともに立膝状態で骨が検出されている。体幹前面を南に向けて、膝を立てた状態で埋葬された立膝座位である。

頭蓋は左顔面～左頭頂部を欠くが、ほかはほぼ完存している。

頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が172mm、頭蓋最大幅が140mm、バジオン・プレグマ高が143mmで、頭蓋長幅示数は81.4、頭蓋長高示数は83.1、頭蓋幅高示数は102.1となり、頭型はbrachy-、hypsi-、akrokran(短・高・狭頭)に属している。上顔示数と鼻示数は破損のため求められないが、右眼窩示数は87.8でmesoknoch(中眼窩)に属している。

眉間の突出はあまり著明ではなく、眉弓の発達もよくないが、前頭部はなだらかにカーブを描いて立ち上がり、頭頂部に移行している。乳様突起は大きく、外後頭隆起はよく発達しており、項面のレリーフも著明である。眼窩上縁は鈍である。下顎骨は全体的に大きく、重厚な印象を受ける。

三主縫合を見ると、外板は未閉鎖であるが、内板では癒合閉鎖が進んでおり、冠状縫合ではほぼ完全に閉鎖している。矢状縫合および人字縫合は未閉鎖の部分もあるが、ほぼ全長に渡って閉鎖している。骨口蓋縫合の閉鎖状況は欠損があって観察できない。歯の咬耗はかなり進んでおり、Martin 2～3度である。釘植している歯は下顎歯のみで、残存している上顎を見る限り、無歯顎の状態である。また、下顎においても吸収閉鎖をきたしている歯槽が多い。歯にはエナメル質減形成が認められ、歯槽の退縮も著明である。左下顎第2大臼歯には4度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |                |                |   |                |                |   |   |   |   |   |   |                |   |
|---|---|---|----------------|----------------|---|----------------|----------------|---|---|---|---|---|---|----------------|---|
|   | 閉 | 閉 | 閉              | 脱              | 閉 |                |                |   |   |   |   |   |   |                |   |
| 脱 | 脱 | 閉 | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | 脱 | 脱 | 脱 | 閉 | 脱 | 閉 | M <sub>2</sub> | 脱 |

椎骨は第7頸椎から仙骨にかけての椎体が、全周囲にわたり癒合して一本の棒状を呈している。第12胸椎～第5腰椎の椎体は発掘時に削り取られており存在しない。また、椎骨の関節突起間の関節である椎間関節はすべて骨化をきたしており、脊柱の可動性はなかったものと考えられる。肋骨は左右とも第1～第12肋骨が椎骨と癒合しており、肋骨頭関節と肋横突関節は骨化をきたしている。従って、これらの肋椎関節は生前には不動状態であったと考えられ、強直性脊椎炎の症例である。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨が検出されている。肩甲骨では、右側が残存しており、関節窩の下方には骨増殖が認められ、関節炎の所見を呈している。上腕骨では、右上腕骨の一部と右尺骨の一部が

検出されている。手根骨では、右舟状骨、左大菱形骨、左右の小菱形骨が残存している。中手骨では、右側が第1～第5、左側が第2～第4中手骨が残存している。右第1中手骨の遠位側には骨増殖が認められる（MP関節）。基節骨は左右ともすべてが残存しており、左右の第1基節骨の遠位端（IP関節）と右第2基節骨の近位端（MP関節）、左第2基節骨遠位端（DIP関節）には骨増殖が認められ、変形性脊椎症の所見を呈している。中節骨は左右ともすべてそろっており、右第2中節骨の遠位端（DIP関節）、左第2中節骨の近位端と遠位端（PIP、DIP関節）、左右第3中節骨の遠位端（DIP関節）には骨増殖が認められ、変形性脊椎症の所見を呈している。末節骨では、右側は第4末節骨が残存している。左側は第1、第3、第5末節骨が残存しており、このうち、第1および第3末節骨の近位端（IP、DIP関節）には骨増殖が認められ、変形性関節症の所見が認められる。

下肢帯の骨では、左右の寛骨が残存しているが、仙腸関節に骨化が認められ、仙骨と左右の寛骨が一体となっている。また、腸骨大腿靭帯の一部や寛骨臼横靭帯にも骨化が認められ、恥骨体の上前方と恥骨結合付近の恥骨前面にも骨化が認められる。大坐骨切痕は狭く、男性骨と判定できる。下肢骨では、左右の大腿骨、左右の脛骨、左腓骨、左右の踵骨、距骨、舟状骨、内側楔状骨、中間楔状骨と、右の外側楔状骨と立方骨が検出されている。左右の大腿骨の大腿骨頭の辺縁には骨増殖が認められ、変形性股関節症の所見を呈している。また、左腓骨の遠位端には骨増殖が認められる。

本人骨の年齢は熟年、性別は男性と考えられる。右脛骨最大長は33.0cmで、Pearson式で身長を求めると157.1cm、藤井式では155.5cmと推定される。

#### 墓151 (ST28)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、釘を伴っており、近世末のものではないかと推定される。

骨はある程度残存しているが、埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨はほぼ完存しており、頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が181mm、頭蓋最大幅が135mm、バジオン・プレグマ高が140mmで、頭蓋長幅示数は74.6、頭蓋長高示数は77.3、頭蓋幅高示数は103.7となり、頭型はdolicho-、hypsi-、akrokran（長・高・狭頭）に属している。上顔示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は78.0でchamaeknoch（低眼窩）に、鼻示数は46.0と推定され leptorrhin（狭鼻）に属している。

眉間の隆起は著しく、眉弓の隆起も著明である。前頭部はやや膨隆しているが、なだらかに頭頂部につながっている。乳様突起は大きい。外後頭隆起は発達しており、項面のレリーフも粗造である。下顎骨は全体的にやや小さいが、重厚な印象を受ける。

三主縫合を見ると、外板ではわずかに癒合閉鎖が進んでいる程度であるが、内板ではいずれの縫合も癒合閉鎖をきたしている。骨口蓋縫合では切歯縫合は完全に消失している。歯は乱生しているものが多く、咬耗も著明である（Marin 2～4度）。歯のエナメル質にはエナメル質減形成が認められ、歯槽の退縮も著明である。いくつかの歯に相当する歯槽は吸収閉鎖をきたしている。左下顎第2大臼歯には、舌側～頬側にかけて幅広くて深い溝状の異常咬耗が認められる。この異常咬耗は、頬側では歯頸部を越えて延びており、その要因については明らかではない。また、左第1大臼歯の遠心半分は4度のカリエスによって欠損している。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |                |   |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | 脱              | P <sub>2</sub> | 閉              | C | I <sub>2</sub> | 脱              | I <sub>1</sub> | 脱 | C | 閉              | 脱              | 閉              | 脱              |
| 閉              | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | 脱              | 脱 | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

椎骨では、第1～第3頸椎と1点の頸椎が検出されており、胸椎と思われる椎骨が1点見ついている。胸椎と思われるものには骨棘形成が認められ、変形性脊椎症の所見を呈している。また、肋椎関節癒合の認められる骨が1点検出されている。

上肢骨では、左上腕骨の一部、左右の橈骨、左右の尺骨の一部が検出されている。

下肢帯の骨では、左寛骨片が見ついているのみである。下肢骨では、左右の大腿骨と右脛骨が残存している。大腿骨の大きさは中程度である。

本人骨の年齢は縫合や歯の咬耗の所見から熟年、性別は男性と考えられる。

### 墓152 (ST23)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌や釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。

左右の股関節はやや外転しており、膝関節は強く屈曲している。本人骨は、体幹前面を北北東に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位と考えられる。

頭蓋骨は右顔面と頭蓋底の一部を欠くが、そのほかはほぼ完存している。

頭蓋示数、上顔面示数、鼻示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は72.9と推定され chamaeknoch (低眼窩) に属している

前頭部の膨隆はやや著明であるが、眉間の突出は著しく、眉弓の発達も良好である。また、外後頭隆起はよく発達しており、頂面のレリーフも粗造である。乳様突起は欠損しているが、比較的大きいようである。

三主縫合を見ると、冠状縫合の外板は一部を除いて閉鎖していないが、矢状縫合と人字縫合の外板は癒合閉鎖が進んでいる。内板を見ると、冠状縫合および矢状縫合の内板はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしており、人字縫合もほとんど閉鎖している。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合はほぼ消失しており、横口蓋縫合の外側部も縫合が消失している。正中口蓋縫合口蓋骨部でも、ほぼ全長に渡って縫合が消失している。歯の咬耗は比較的前進しており、Martinの1～3度である。歯が脱落して、歯槽が閉鎖している部分も多い。本頭蓋の切歯は左右にほぼ直線上に並んでいるのが特徴的である。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |   |   |   |                |                |                |   |                |                |   |   |
|---|---|---|---|---|---|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|---|---|
|   |   |   | 閉 | C | 脱 | 脱              | I <sub>1</sub> | 脱              | 脱 | 閉              | P <sub>2</sub> |   |   |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 脱 | 脱 | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | 脱 | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 閉 | 閉 |

椎骨では、胸椎が2～3椎分、腰椎が第1～第5腰椎、仙骨の上部が検出されている。肋骨は1点検出されているのみである。

上肢帯の骨では、左鎖骨の一部と左肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、右上腕骨の一部、左右の橈骨の一部、左右の尺骨の一部が検出されている。中手骨では、右第1中手骨、左第2中手骨が残存している。指骨では、基節骨が4本、中節骨が2本、末節骨が2本残存している。

下肢帯の骨では、左右の寛骨片が検出されている。大坐骨切痕の開きは中程度で、出産溝の有無は

不明である。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、左右の脛骨、左腓骨、左膝蓋骨が残存している。大腿骨は太く、男性骨をうかがわせる。足根骨では、右踵骨と距骨の一部が残存している。

本人骨の年齢は、縫合の閉鎖状況から判断して熟年と考えられ、性別は男性と推定される。

### 墓153 (ST69)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、釘を伴っており、近世(17世紀後葉以降)のものと考えられる。

埋葬肢位は一見すると側臥位を連想させるが、頭部は床面よりも約30cm上方から検出されており、奇異な感じを受ける。本稿では、埋葬肢位は不明としておきたい。

骨の保存状況は極めて悪く、細片化した頭蓋が検出されているにすぎない。検出部位は後頭骨片、右頭頂骨片である。本頭蓋の外面には齧歯類と思われる咬痕が認められる。

骨の骨厚は比較的厚く、男性骨であることをうかがわせる。また、外後頭隆起の突出も著しい。確認できる三主縫合はラムダ縫合のみであるが、外板はやや癒合閉鎖が進んでおり、内板では完全に癒合閉鎖をきたしている。歯はまったく検出されていない。

脊椎の骨では、胸椎が4～5椎分、腰椎が2椎分検出されている。腰椎には骨棘形成が認められ、変形性脊椎症の所見を呈している。肋骨は2本程度検出されている。上肢帯の骨では、右肩甲骨の一部が、また、上肢骨では、右側の上腕骨、橈骨、尺骨が検出されている。

下肢帯および下肢骨では、右寛骨の一部と右大腿骨の一部が検出されているのみである。大腿骨は太く、男性骨をうかがわせる。

検出された部位が少なく、年齢の判定は困難であるが、本人骨の年齢は熟年～老年、性別は男性であると考えられる。

### 墓154 (ST117)

類型不詳の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世のものと考えられる。

土壌は墓153(ST69)と重なっており、本人骨の埋葬肢位は不明である。

頭蓋は左上顎と頭蓋底、および後頭部を欠く。また、下顎骨は前方のみ検出されている。

頭蓋示数や上顔示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は82.1でchamaeknoch(低眼窩)に、鼻示数は47.6と推定されmesorrhin(中鼻)に属している。

眉間は平坦で、眉弓も発達しない。前頭部の膨隆は著明である。眼窩上縁は鋭である。

三主縫合では、前頭縫合と矢状縫合の前半のみ残っている。外板・内板ともに癒合閉鎖をきたしていない。歯式は以下の通りであり、大部分の歯が検出されている。左右の上顎第2小臼歯は未萌出のようであり、歯根は半分程度しか形成されていない。右下顎第2大臼歯の頬側には2度のカリエスが認められる。

|                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |

脊椎の骨では、第3～第5腰椎の一部が検出されており、仙骨の上部も検出されている。椎体の関節面は骨化を完了していない。

上肢骨では、右側の上腕骨、橈骨、尺骨の一部が検出されている。橈骨の近位骨端は未骨化である。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。寛骨臼は未骨化であり、腸骨は分離して検出されている。大坐骨切痕は広いようであり、女性骨をうかがわせる。腸骨、坐骨、恥骨は未融合の状態である。下肢骨では、右側の大腿骨、脛骨の一部が検出されている。また、足根骨では、右側の踵骨と距骨が検出されている。

本人骨の年齢は、上顎第2大臼歯の萌出状況および歯根の形成具合から判断して、12才程度と考えられる。性別は腸骨の形状から判断して女性と考えられる。

### 墓155 (ST2)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世末～近代のものではないかと推定されている。

左右の膝関節はほぼ交連状態を保った状態で検出されており、埋葬肢位は体幹前面を北西に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位である。

頭蓋骨本体は頭頂部、左側頭部を欠く。左側頭骨と上顎骨が検出されているが、頭蓋骨本体とは接合できない。そのほかに、左下顎枝を欠く下顎骨が検出されている。頭蓋示数や上顔面示数は不明であるが、右眼窩示数は90.5と推定され、hypsiknoch（高眼窩）に属している。

前頭骨の膨隆は著しく、頂面のレリーフは弱い。乳様突起は中等度であり、眼窩上縁は鋭である。

三主縫合は、外板・内板ともに完全に癒合閉鎖をきたしていないように見受けられる。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合は消失しており、横口蓋縫合の外側部は未閉鎖である。歯の咬耗はやや著しい（Martin 2～3度）。左上顎犬歯と左上顎第1小臼歯の舌側には4度のカリエスが認められ、エナメル質減形成も認められる。歯槽骨の退縮はやや著明で、吸収閉鎖をきたしている歯槽が多い。歯式は以下の通りである。

|                |   |                |   |   |   |   |                |                |   |                |                |   |                |                |
|----------------|---|----------------|---|---|---|---|----------------|----------------|---|----------------|----------------|---|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | 閉 | P <sub>2</sub> | 脱 | C | 脱 | 閉 | 閉              | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 閉 | M <sub>2</sub> |                |
| 閉              | 閉 | P <sub>2</sub> | 脱 | C | 脱 | 脱 | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | 脱 | 脱              | P <sub>2</sub> | 閉 | 閉              | M <sub>3</sub> |

脊椎では、第1～第2頸椎の一部が検出されている。

上肢骨は、左右上腕骨の一部、左有頭骨片が検出されているのみである。上腕骨は細くて華奢である。

下肢骨では左右の大腿骨の一部と左右の脛骨の一部、腓骨片、左踵骨、距骨片が検出されているのみである。大腿骨は、前後に扁平で華奢である。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。

### 墓156 (ST79)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに煙管、釘を伴っており、近世（18世紀後半頃）のものと考えられる。

骨はほとんど残存しておらず、埋葬肢位は不明である。

骨の残存は極めて悪く、頭蓋骨片が検出されているにすぎない。検出部位は右側頭骨の下顎窩を中心とした部分、下顎骨片のみである。下顎骨は右側下顎体で大臼歯が釘植している。遊離歯として検

出されている歯もあるが、歯の咬耗はやや進んでおり、Martin 1～2度である。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| C              |                |                |                | P <sub>1</sub> | P <sub>1</sub> |                |                |                |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |                |                | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

本人骨の年齢は、歯の咬耗具合から壮年と推定され、性別は不詳である。

#### 墓157 (ST130)

C類ではないかと考えられる正方形を思わせる土壌から検出された骨で、鎌と釘を伴っており、近世(18世紀後半以降)のものと考えられる。残存する人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

検出された骨は左右の大腿骨片にすぎない。成人であることは確かであるが、性別は不詳である。

#### 墓158 (ST123)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鋏、煙管、釘を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。本土壌の南西隅からは別個体と考えられる頭蓋骨が検出されており、この頭蓋骨については墓158(別個体)(ST123別個体)として取り扱う。

被埋葬者は、体幹前面を北西に向けて膝を立てた状態で埋葬されており、埋葬肢位は立膝座位である。

頭蓋骨の保存性はやや不良であり、細片化していた。残存部位は前頭部、右側頭骨片、左側頭部～後頭部の一部にかけての部分のみである。頭蓋骨の骨厚も一部に厚い部分が認められる。

眉弓の突出は強く、眉間もやや膨隆している。乳様突起は破損があるが、大きいようである。

三主縫合は、冠状縫合、矢状縫合、ラムダ縫合ともに外板は未閉鎖であるが、内板ではいずれも癒合閉鎖が進んでいる。

上顎骨の左右の一部が残存しており、一部の歯牙が釘植している。下顎骨は下顎底と両側下顎枝が欠損している。歯の咬耗はやや進んでおり、Martin 1～3度である。下顎の右犬歯と右側切歯は乱生状態である。上顎・下顎ともに歯槽の退縮が著しく、歯槽膿漏と考えられる。歯にはエナメル質減形成が認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |                |                | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> |                |                |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

脊椎の骨では、胸椎が4椎分検出されている。上肢帯および上肢骨では、左右の肩甲骨の一部、左上腕骨の一部が検出されている。

下肢帯および下肢骨では、左右の寛骨の一部、左右の大腿骨、左右の脛骨、左腓骨の一部が検出されている。大坐骨切痕は狭く、大腿骨は太い。足根骨は左右ともにすべての足根骨がそろっている。中足骨では右側が第2、第3中足骨が、左側では第1～第3中足骨が検出されている。そのほかに足の基節骨が1本検出されている。

本人骨の年齢は壮年後半～熟年、性別は男性であると考えられる。

**墓158 (別個体)(ST123別個体)**

頭蓋骨の保存状況は極めて悪く、右側頭骨の錐体部～蝶形骨にかけての部分、左錐体、左右の上顎骨の一部、下顎骨の一部が残存しているにすぎない。性別を示す部位は欠損している。歯はかなり咬耗しており、Martinの1～3度である。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |   |   |   |   |                |                |                |   |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|---|---|---|---|----------------|----------------|----------------|---|
| 閉              | 閉              | M <sub>1</sub> | 脱              |                |   |   |   |   | 脱 | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | 脱 |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | 脱 | 脱 | 脱 | 脱 | 脱              | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |   |

別個体の骨としては2点検出されているが、そのうちの1点は右上腕骨の一部であり、もう1点は左大腿骨の一部である。これらの骨は太く、男性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は、歯の咬耗具合から熟年と考えられ、性別は男性をうかがわせるが確言できない。

**墓159 (ST51)**

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世末～近代のものではないかと推定される。

骨の保存状況は良好で、被埋葬者は、体幹前面を西南西に向けて膝を立てた状態で埋葬されたと考えられ、埋葬肢位は立膝座位である。

頭蓋の右頭頂部～右側頭部は、発掘時に削平されているが、そのほかはほぼ完存している。

頭蓋骨の三主径は、頭蓋最大幅は計測できないが、頭蓋最大長が172mm(推定)、バジオン・プレグマ高が143mmで、頭蓋長高示数は83.1と推定され、頭型はhypsikran(高頭)である。上顔示数や鼻示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は90.0でhypsiknoch(高眼窩)に属している。

前頭膨隆は著しい。眉間の突出は弱く、眉弓も平坦で、眼窩上縁は鋭である。頬骨弓は細くて華奢であるが、乳様突起は中等度の大きさである。外後頭隆起はやや突出しており、頂面のレリーフは弱い。

三主縫合を見ると、外板は未閉鎖であり、内板も癒合閉鎖は認められない。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の外側部は縫合が消失しているが、内側部は残っている。横口蓋縫合および正中口蓋縫合口蓋骨部においても、縫合は残存している。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martinの0～2度である。エナメル質減形成が認められ、歯槽の退縮はやや著しい。右下顎第1、第2大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |   |   |                |   |                |   |                |                |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|---|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 脱 |   |                |   | I <sub>2</sub> | 脱 | I <sub>2</sub> | C              | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 脱 | C | I <sub>2</sub> | 脱 | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |                |                |

脊椎の骨では、頸椎が第1、第2頸椎のほかに3椎分、第8～第12胸椎、第2～第5腰椎、および仙骨の上部が検出されている。胸椎には黄色靭帯骨化症が認められる。肋骨は5本程度残存している。

上肢帯の骨では、左右の肩甲骨の一部が残っている。上肢骨では、左右の上腕骨の一部、橈骨の一部、尺骨の一部が残存している。手の骨では、基節骨が1本と中節骨が2本残っている。

下肢帯の骨では、右寛骨の一部と左寛骨臼の一部が検出されている。大坐骨切痕は広い。下肢骨では、左右大腿骨の一部と腓骨の一部、および右脛骨の一部が残存している。大腿骨には齧歯類と思われる咬痕が認められる。大腿骨はきわめて細く、脛骨もきわめて細いことから、女性骨であることは

確実である。左膝蓋骨が1点検出されている。足根骨では、左右の踵骨、距骨、舟状骨が、また、1本の基節骨が検出されている。

本人骨の年齢は、縫合の閉鎖状況や歯の咬耗度から判断して壮年と考えられる。頭蓋は全体的に大きい、性別は総合的に判断して、女性と考えられる。

### 墓160 (ST52)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、丸釘を伴っており、明治以降のものと考えられる。

骨の保存状況は良好で、被埋葬者は体幹前面を北北東に向けて膝を立てた状態で埋葬されたと考えられ、埋葬肢位は立膝座位である。

頭蓋骨は下顎ともにほぼ完存している。

頭蓋骨の三主径は、頭蓋最大幅は計測できないが、頭蓋最大長が192mm、バジオン・プレグマ高が144mmで頭蓋長高示数は75.0となり、hypsikran (高頭) である。上顔示数は破損のため求められないが、右眼窩示数は85.7でmesoknoch (中眼窩) に、鼻示数は43.4で leptorrhin (狭鼻) に属している。

眉間の突出は中程度で、眉弓はやや突出している。眼窩上縁は鈍である。前頭部はなだらかに頭頂部にカーブしながら続いている。乳様突起は大きく、表面は粗造である。外後頭隆起は中程度に突出しており、頂面のレリーフはやや著明である。

三主縫合を見ると、外板ではごく一部を除いてまだ癒合閉鎖をきたしていない。内板では、冠状縫合はほぼ癒合閉鎖をきたしており、矢状縫合はまだ残存しているものの、大部分が閉鎖をきたしている。また、人字縫合の内板も癒合閉鎖をきたしている部分が多い。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の内側部は痕跡が認められるが、横口蓋縫合の外側部の縫合は消失しており、正中口蓋縫合口蓋骨部の縫合も消失している。歯の咬耗は著しく、Martin 2~3度である。歯槽の退縮はやや著しく、脱落して吸収閉鎖をきたしている歯も多い。右上顎第1、第2大臼歯の歯根は、台状根を呈している。右上顎第2小臼歯には3度の、右上顎第1小臼歯と右上顎第1大臼歯には4度のカリエスが認められる。また、左上顎第2小臼歯と左上顎第1、第2大臼歯には、4度のカリエスが認められる。さらに、右上顎第1小臼歯および左上顎第2小臼歯の歯根の部分の歯槽は、嚢胞を形成しており、いわゆる歯根嚢胞を呈している。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |                |   |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|---|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | 脱 | C | 脱              | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| 閉              | 閉              | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | 脱              | 脱              | 脱 | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 閉              | 閉              |

脊椎の骨のうち、頸椎では第1、第2頸椎と第5~第7頸椎が検出されている。第5~第7頸椎の椎体関節面には、異常骨化が認められる。胸椎は第1~第12胸椎のすべてが検出されており、腰椎も第1~第5のすべての腰椎が検出されている。また、仙骨がほぼ完形で検出されており、尾骨の一部も検出されている。肋骨は右が8本、左が5本検出されている。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨と左右の肩甲骨が検出されており、鎖骨は細い印象を受ける。上肢骨では左右の上腕骨、橈骨、尺骨が検出されている。これらの骨は太く、男性骨をうかがわせる。手根骨では、右側が舟状骨、月状骨、豆状骨、小菱形骨、有頭骨、有鉤骨が、左側では月状骨、豆状骨、小菱形骨、有鉤骨が残存している。中手骨では、右側が第1~第4中手骨が、左側では第1、第3~

第5中手骨が残存している。基節骨は4本、中節骨は2本、末節骨は右第2末節骨とそのほかに2本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨がともに検出されている。大坐骨切痕は狭く、出産溝を認めない。下肢骨では、左右の大腿骨と脛骨、左右の腓骨の一部が検出されている。大腿骨は太い。足根骨では左右ともに踵骨、距骨、舟状骨、内側・中間・外側楔状骨、立方骨のすべてが検出されている。中足骨では左右ともに第1～第5中足骨が残存している。足の基節骨では、左右の第1基節骨とそのほかに5本の基節骨が、末節骨では左右の第1末節骨が検出されている。

本人骨の年齢は、縫合の閉鎖状況や歯の咬耗度を総合的に勘案して熟年と考えられ、性別は男性であると推定される。左脛骨最大長は33.9cmで、Pearson式で身長を求めると159.2cm、藤井式では157.5cmと推定される。

#### 墓161 (ST128)

C類と推定される正方形を思わせる土壌から検出された骨で、遺物を伴っていない。近世のものではないかと推定される。この人骨は墓160 (ST52) の主体人骨の東側から検出されたもので、土壌が切り合っており、本人骨の埋葬肢位は不明である。

残存部位は頭蓋骨、四肢骨であり、墓160 (ST52) の埋葬時に棺外に埋め戻された人骨であると考えられる。

頭蓋骨を見ると、左右の頭頂骨の一部が残存しているのみである。三主縫合のうち確認できるのは、矢状縫合のみである。矢状縫合の外板は未閉鎖であるが、内板では一部で癒合閉鎖が進んでいる。

四肢骨は残存している骨は少なく、右上腕骨の一部、右大腿骨の一部、左右の脛骨の一部が検出されているにすぎない。これらの骨は華奢で、女性骨をうかがわせる。

本頭蓋の年齢は壮年～熟年、性別は女性と考えられる。

#### 墓162 (ST40)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、丸釘を伴っており、明治以降のものと考えられる。

埋葬肢位は、頭を東に置き、体幹前面を西に向けて体幹をやや起こした状態で、頸部をかなり屈曲させて大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬されていたと考えられる。股関節はやや外転気味で、左右の膝関節の間から頭蓋骨が検出されている。埋葬肢位は半仰臥屈位と考えられる。

頭蓋はほぼ完形である。頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が183mm、頭蓋最大幅が137mm (推定)、バジオン・プレグマ高が151mmで、頭蓋長幅示数は74.9 (推定)、頭蓋長高示数は82.5、頭蓋幅高示数は110.2 (推定) となり、頭型はdolicho-、hypsi-、akrokran (長・高・狭頭) に属している。上顔示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は83.3でmesoknoch (中眼窩) に、鼻示数は46.3でleptorrhin (狭鼻) に属している。

眉間はやや膨隆しており、眉弓の突出は中等度である。前頭部はやや膨隆しているが、全体的になだらかにカーブして頭頂部に続いている。乳様突起は大きく、表面は粗造である。外後頭隆起も突出しており、頂面のレリーフも粗造である。下顎骨はがっしりしており、重厚である。

三主縫合を見ると、内板・外板ともに未閉鎖である。骨口蓋縫合は、切歯縫合の外側部は消失しているが、内側部では未閉鎖である。横口蓋縫合は外側部においても縫合が認められ、正中口蓋縫合口

蓋骨部は後端まで縫合が認められる。歯の咬耗は、前歯はやや進んでいるが、そのほかの歯はあまり進んでおらず、Martin 1～3度である。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |                |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |

脊椎を構成する骨では、すべての頸椎～腰椎と仙骨の一部が検出されている。第5腰椎には、脊椎分離症が認められる。また、仙骨の横線は未閉鎖である。肋骨は左右ともに12本検出されている。胸骨は胸骨柄と胸骨体の部分が残存しているが、両者は未融合であり、胸骨体に孔が認められる。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨の一部、左右の肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨、橈骨、尺骨が検出されている。手根骨では、左右の舟状骨、右月状骨、左大菱形骨、左小菱形骨、左有頭骨、左有鉤骨が検出されている。また、右側の第1～第2、左側の第2～第3中手骨、右第1基節骨のほかに、5本の基節骨、6本の中節骨、6本の末節骨が検出されている。

下肢帯の骨では、おおむね完存している左右の寛骨が検出されている。大坐骨切痕は狭く、出産溝も認められない。下肢骨では、左右の大腿骨、脛骨、腓骨が検出されており、右膝蓋骨も残存している。足根骨では、左右の踵骨、距骨、舟状骨、立方骨のほか、左内側楔状骨、左中間楔状骨が検出されている。また、左右の第1～第5中足骨、右第1基節骨、3本の基節骨が検出されている。

本人骨の年齢は壮年と考えられ、性別は男性である。右上腕骨最大長と右脛骨最大長はそれぞれ29.6cm、31.5cmで、Pearson式で身長を求めるとそれぞれ156.3cm、153.5cm、藤井式ではそれぞれ156.0cm、151.8cmと推定される。

### 墓162 (別個体)(ST40別個体)

墓162 (ST40) の人骨の土壌の辺縁から検出された骨である。残存している骨は左寛骨の一部、左大腿骨の一部、左脛骨の一部のみである。大坐骨切痕は広く、女性骨をうかがわせる。寛骨臼は破損があり詳細は不明だが、寛骨臼が癒合したばかりのようにも見受けられる。また、大腿骨、脛骨は細くて小さく、年齢は15歳程度(?)としておきたい。

### 墓164 (ST122)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世末～近代のものではないかと推定される。

埋葬肢位は、頭を北西に置き、体幹をやや起こした状態で、頸部を屈曲させて、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬された、半仰臥屈位である。

残存している骨は、前頭骨の一部と左右の側頭骨の錐体部分にすぎない。そのほかに左下顎骨の一部が残っている。三主縫合は確認できず、性別を確定するのに有用な部位は残っていない。しかしながら、頭蓋骨は全体に薄く、華奢な印象を受ける。一部の歯は下顎骨に釘植しており、歯の咬耗はやや進んでいる (Martin 2度)。歯槽の退縮は著しく、下顎枝は脱落寸前の歯がほとんどである。また、左下顎第1大臼歯の遠心面には3度の、左下顎第3大臼歯の咬合面には2度のカリエスが認められる。なお、左下顎第3大臼歯は前方に転移している。



残存している骨は、左寛骨臼の一部、左右の大腿骨、左脛骨の一部、左距骨、左舟状骨、中足骨が1本である。下肢骨は細いようである。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性骨をうかがわせるが、確言できない。

**墓165 (ST14)**

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、丸釘を伴っており、明治以降のものと考えられる。骨の保存状況は良好で、埋葬肢位は頭を北北西に置き、体幹をやや起こした状態で、頸部を屈曲させ、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬された、半仰臥屈位と考えられる。

頭蓋は下顎を伴っていて、頬骨弓の一部に破損が認められるものの、ほぼ完存している。頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が177mm、頭蓋最大幅が135mm、バジオン・プレグマ高が138mmで、頭蓋長幅示数は76.3、頭蓋長高示数は78.0、頭蓋幅高示数は102.2となり、頭型はmeso-、hypsi-、akrokran (中・高・狭頭) に属している。左眼窩示数は82.9chamaeknoch (低眼窩) に属している。鼻示数は53.2で chamaerrhin (広鼻) に属している。

眉間はわずかに突出しているものの、ほぼ平坦で、前頭部の膨隆はやや著しい。乳様突起は小さく、外後頭隆起はわずかに突出しており、頂面のレリーフは弱い。眼窩上縁は鈍である。

三主縫合の外板はすべて未閉鎖で、矢状縫合の内板は癒合閉鎖が進んでいるが、人字縫合の内板は未閉鎖である。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の内側部は痕跡を残しており、横口蓋縫合の外側部は未閉鎖である。また、正中口蓋縫合も後方近くまで未閉鎖である。

上・下顎には3本の歯が釘植しているのみで、ほかの歯槽の大部分は閉鎖をきたしている。歯式は以下の通りであるが、歯の咬耗度は様々であり、Martin 1~3度である。残存歯の歯槽の退縮は著明である。なお、上顎左犬歯の近心側に2度のカリエスが認められる。下顎骨はやや大きく、頑丈な印象を受ける。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |   |   |   |   |                |   |   |   |                |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|----------------|---|---|---|----------------|---|---|
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉              | 閉 | C | 閉 | 閉              | 閉 | 閉 |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 脱 | 脱 | 脱 | I <sub>1</sub> | 閉 | 閉 | 閉 | P <sub>2</sub> | 閉 | 閉 |

脊椎を構成する骨のうち、頸椎、胸椎、腰椎はすべて揃っている。第2~第4腰椎には骨棘形成が認められ、変形性脊椎症の所見を呈している。仙骨は上部が残っている。肋骨は多数検出されており、かなりの部分の肋骨が残っている。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨と左右の肩甲骨の一部が検出されている。鎖骨はきわめて細い。上肢骨では、左右の上腕骨、左右の橈骨、左右の尺骨が検出されている。全体的にこれらの骨は細くて華奢である。手根骨では、右側の豆状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨が検出されている。中足骨では、第1~第5中足骨まですべてが検出されている。指の骨では右第1~第5基節骨が検出されており、そのほかに2本の中節骨、3本の末節骨が検出されている。右第1および第2基節骨の遠位端には、変形性関節症の所見が認められる。

下肢帯の骨では、左右の寛骨が残っており、右寛骨はほぼ完形である。大坐骨切痕は広く、出産溝

が認められる。下肢骨では、左右の大腿骨、脛骨、腓骨が検出されており、左膝蓋骨も残存している。大腿骨は細いが、柱状形成が認められ、脛骨は細くて扁平である。足根骨では、右側の踵骨、距骨、内側楔状骨、立方骨が、中足骨では、左側の第1～第5中足骨が、指骨では基節骨が1本、中節骨が1本残存している。

本人骨の年齢は壮年後半、性別は女性と考えられる。

### 墓165 (別个体)(ST14 別个体)

墓165 (ST14) の人骨よりもかなり上層 (第3層) から出土した人骨であり、明らかに別个体である。

頭蓋骨では、顔面頭蓋と左錐体のみが残存している。

前頭骨の膨隆は著しいようで、眉間は平坦である。また、眉弓の突出も弱く、眼窩上縁は鋭である。

三主縫合の閉鎖状況は不明である。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合は外側部で消失している。横口蓋縫合は外側部でも消失していない。正中口蓋縫合口蓋骨部では縫合の消失は見られない。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1～2度である。なお、左上顎の歯槽は左上顎洞と連絡しており、貫通部周囲の上顎洞の内面は粗造で骨増殖を伴っていることから、歯性上顎洞炎を患っていたものと考えられる。歯式は以下の通りである。

|                |   |   |   |                |
|----------------|---|---|---|----------------|
| M <sub>2</sub> | 脱 | 脱 | 脱 | M <sub>2</sub> |
|----------------|---|---|---|----------------|

頭蓋骨以外で検出された骨は、左膝蓋骨片、寛骨片、右大腿骨の一部にすぎない。大腿骨は細くて華奢である。

本人骨の年齢は壮年、性別は女性と考えられる。埋葬肢位は不明である。右大腿骨最大長は36.6cmで、Pearson式で身長を求めると144.0cm、藤井式では143.0cmと推定される。

### 墓166 (ST13)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、煙管と釘を伴っており、近世後期から近代初 (19世紀) のものと考えられている。

骨の保存は良好で、埋葬肢位は体幹前面を北北西に向けて立膝状態で埋葬された立膝座位である。

頭蓋は下顎を伴っており、ほぼ完形である。頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が184mm、頭蓋最大幅が138mm、バジオン・プレグマ高が132mmで、頭蓋長幅示数は75.0、頭蓋長高示数は71.7、頭蓋幅高示数は95.7となり、頭型はmeso-、meso-、metriokran (中・中・中頭) に属している。左眼窩示数は78.3でchamaeknoch (低眼窩) に属している。鼻示数は47.2で mesorrhin (中鼻) に属している。

前頭部の膨隆はやや著明であり、眉間、眉弓の隆起は著しい。乳様突起は中等度に発達しており、前後頭隆起はよく突出している。項面のレリーフは著しい。眼窩上縁は鈍である。

三主縫合は、外板はほぼ完全に癒合閉鎖をきたしており、内板は完全に癒合閉鎖をきたしているようである。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合は完全に消失しており、横口蓋縫合は内側部の一部を残すのみである。また、正中口蓋縫合口蓋骨部では、前1/3程度が残存している程度である。上・下顎ともに歯は釘植しておらず、歯槽は完全に閉鎖していて、無歯顎の状態である。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |

頸椎では第1、第2頸椎のほか、少なくとも3個の頸椎が、胸椎では第1～第3胸椎、第6～第12胸椎が、腰椎は第1～第5腰椎が検出されている。第7～第12胸椎には黄色靭帯骨化症が認められる。また、ほぼ完形の仙骨が検出されている。肋骨は左右合わせて15本程度の肋骨が検出されている。

上肢帯の骨では、右鎖骨、左右肩甲骨の関節窩を中心とした部分が検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨、左右の橈骨、左右の尺骨が検出されている。手根骨では左有頭骨が、中手骨では右が3本、左が3本検出されている。そのほか指骨が9本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨がほぼ完形の状態で検出されている。大坐骨切痕は狭く、男性骨であることは明らかである。下肢骨では、ほぼ完形の左右の大腿骨、左右の脛骨、左右の腓骨が検出されている。足根骨では、左右の距骨、左右の踵骨、左右の舟状骨、左右の内側楔状骨、右外側楔状骨、左立方骨が検出されている。中足骨では、左右ともに5本の中足骨が揃って検出されている。そのほか、足の指骨が3本検出されている。

縫合の閉鎖状況から考えて、年齢は熟年後半と考えられ、性別は男性であると考えられる。右脛骨最大長は35.0cmで、Pearson式で身長を求めると161.8cm、藤井式では160.4cmと推定される。

**墓167 (ST38)**

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世(18世紀後半以降)のものと考えられる。人骨以外にウシ下顎臼歯が検出されているが、埋葬に伴うものとは考えられない。

頭を北東に置き、顔面を西に向けて、股関節を強く屈曲させて埋葬されていたものと考えられ、埋葬肢位としては右側臥屈位である。

顔面頭蓋のすべてと左側頭部～頭蓋底を欠くが、そのほかの部位は残存しており、接合できない左錐体が検出されている。

乳様突起は小さいが、外後頭隆起はやや突出しており、眼窩上縁は鈍である。また、下顎は左側の一部しか検出されていないが、重厚な印象を受ける。

確認できる三主縫合を見ると、外板では癒合閉鎖がかなり進んでおり、内板でもいずれの縫合でも癒合閉鎖をきたしている。上顎骨の右側、および下顎骨の右側、さらに左上顎骨の一部が検出されており、歯が釘植した状態で見つっている。歯の咬耗はやや進んでおり、Martinの2度である。歯槽の退縮は著しい。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | 脱              | 脱 | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C |                |                |

脊椎の骨では、胸椎が約7個分検出されている。これらの胸椎の一部には軽度の黄色靭帯骨化症が認められる。

上肢帯の骨では、右鎖骨が残存している。鎖骨は細い印象を受ける。上肢骨では、左右の上腕骨の一部、左右の尺骨の一部が検出されている。尺骨は太い印象を受ける。中手骨では、中手骨は1本、基節骨が1本検出されている。寛骨では、右の寛骨片と左の寛骨白片が検出されている。大坐骨切痕

は狭く、出産溝は不明である。

下肢骨では、左右の大腿骨の一部、左右の脛骨の一部が検出されている。粗線の発達は良好で太く、男性骨をうかがわせる。足根骨では、左右の踵骨、距骨、舟状骨が検出されている。

本人骨の年齢は、熟年であると考えられ、性別は男性と考えられる。左大腿骨最大長は39.9cmで、Pearson式で身長を求めると156.3cm、藤井式では153.3cmと推定される。

#### 墓168 (ST87)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀半ば以降)のものと考えられる。ウシの歯が検出されているが、本人骨に伴うものとは考えにくい。

被埋葬者は、体幹前面を西北西に向けた状態で正座していたと考えられ、頭蓋の検出位置から判断すると、やや上体を前方に傾けた状態で埋葬されていたのではないかと考えられる。埋葬肢位としては正座位であったと考えられる。

頭蓋は左半分のみが残存しており、上顎および右半分を欠く。頭蓋は全体的に小さい。

前頭部はよく膨隆し、眉間は平坦で眉弓の突出も少ない。眼窩上縁はやや鈍である。乳様突起は小さく、女性骨であることは確実である。三主縫合を見ると、外板は未閉鎖であるが、内板ではいずれの縫合ともやや癒合閉鎖が進んでいる。下顎骨が検出されているが、歯は釘植しておらず、左下顎犬歯および左下顎第1小臼歯の歯槽は開存しており、これらの歯が脱落している。遊離歯として右上顎中切歯が検出されているが、咬耗は著しく、歯冠の約半分にまで及んでいる。そのほかの歯槽はすべて吸収閉鎖をきたしている。歯式は以下の通りである。

|                |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|---|---|
| I <sub>1</sub> |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |   |   |   |   |
| 閉              | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |  | 閉 | 閉 | 脱 | 脱 | 閉 | 閉 | 閉 |

脊椎の骨では、腰椎片が1点確認できるにすぎない。

上肢帯の骨では、左側の鎖骨と肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、左上腕骨が検出されているが、細い。

下肢帯の骨では右寛骨が検出されている。この寛骨の大坐骨切痕は広く、女性骨をうかがわせる。下肢骨では、左右ともに大腿骨、脛骨、腓骨の一部が検出されている。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は壮年後半～熟年と考えられ、性別は女性である。

#### 墓169 (ST84)

C類に属する正方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世末～近代のものではないかと推定される。

被埋葬者は、体幹前面を北北東に向けて立膝状態で埋葬されており、埋葬肢位は立膝座位である。

頭蓋は頭頂部と右眼窩および右頬骨部を欠くが、そのほかはほぼ完存している。本頭蓋には前頭縫合の遺存が認められ、ラムダ骨、ラムダ小骨が認められる。頭蓋骨の三主径はバジオン・プレグマ高の計測はできないが、頭蓋最大長が180mmで頭蓋最大幅が144mm(推定)であるので頭蓋長幅示数は76.7となり、頭型はmesokran(中頭)に属している。上顔示数と鼻示数は破損のため計測できな

いが、左眼窩示数は76.7でchamaeknoch（低眼窩）に属している。

眉間の隆起は比較的著しく、眉弓も突出している。乳様突起は大きく、表面は粗造である。また、眼窩上縁は鈍である。外後頭隆起はあまり突出しないが、頂面のレリーフは著明である。

三主縫合を見ると、残存する冠状縫合、矢状縫合では、外板は未閉鎖であるが、ラムダ縫合は一部で癒合閉鎖をきたしている。冠状縫合の内板は未閉鎖であり、矢状縫合の内板も未閉鎖であるが、人字縫合の内板は癒合閉鎖がかなり進んでいる。骨口蓋縫合では、切歯縫合は消失している。横口蓋縫合および正中口蓋縫合口蓋骨部は、破損のため確認できない。歯は比較的咬耗が進んでおり、エナメル質減形成が認められる。また、歯槽の退縮もやや著明で、一部の歯の歯槽には骨造生が認められ、歯周炎の所見を呈している。右上顎第1大臼歯の舌側には4度のカリエスが認められる。また、右中切歯は咬耗が著しく、歯頸部にまで咬耗が進んでいる。右第1大臼歯の歯根には小さな歯根嚢胞が認められ、歯根は上顎洞壁に貫通している。また、右第2大臼歯の歯根も上顎洞まで貫通しており、上顎洞の内面は粗造で、骨新生が起こっている。また、左上顎洞の内面も表面が粗造である。これらの所見は左右の上顎洞に炎症があったことが示唆され、上顎洞炎があったものと考えられる。歯の咬耗はMarti 2～3度で、一部では4度まで進んでいる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 閉              | 脱 | 脱              | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | 脱              | 脱 | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

脊椎の骨では、頸椎が2椎分、胸椎が8椎分、第1～第5腰椎、仙骨の一部が検出されている。腰椎には骨棘形成が著明で、変形性脊椎症の所見を呈している。舌骨も検出されており、靭帯骨化が著しい。肋骨は2本程度検出されているのみである。胸骨は胸骨柄と体部が検出されている。

上肢帯の骨では、左右の鎖骨、右肩甲骨が残存している。上肢骨は左右ともに上腕骨、橈骨、尺骨が検出されている。手根骨では、右側が三角骨と豆状骨を除くすべての骨が、左側では三角骨と豆状骨を除くすべての骨が残っている。中手骨では、右側は第1～第5中手骨が残存しており、左側では、第3中手骨を除くすべての中手骨が残存している。手の骨では基節骨が8本、中節骨が7本、末節骨が右第1末節骨のほか7本検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨が検出されている。大坐骨切痕は狭く、男性骨をうかがわせる。下肢骨では、左右の大腿骨と脛骨が検出されており、右腓骨の一部も検出されている。腓骨の体部には、骨折の治癒が認められる。足根骨では、右側はすべての足根骨がそろっており、左側では、踵骨、距骨、外側・内側楔状骨、立方骨が残存している。中足骨では、右側が第1～第5中足骨が、左側では第2中足骨を除くすべての中足骨が検出されている。足の指の骨では左右の第1基節骨が検出されており、そのほかに基節骨が6本、末節骨は左第1末節骨が検出されている。

本人骨の年齢は壮年後半～熟年であり、性別は男性と考えられる。右脛骨最大長は33.6cmで、Pearson式で身長を求めると158.5cm、藤井式では157.0cmと推定される。

### 墓171 (ST16)

D類に属する円形の土壌から検出された骨で、刀子を伴っており、近世のものと推定される。

骨の残存性は極めて悪い。残存する骨から判断すると、頭を北北東に置き、大腿を体幹に接するほど股関節を屈曲させて埋葬された、仰臥屈位で埋葬されていたと考えられる。

頭蓋骨では左頭頂骨と左右の錐体が検出されているにすぎない。

冠状縫合と矢状縫合が一部残存しており、外板は未閉鎖であるが、内板ではやや癒合が進んでいる。

歯はすべて遊離歯の状態で検出されている。咬耗はほとんど進んでおらず、Martin 0~1度である。

歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |                |  |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|--|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> |                | C |                |                | I <sub>1</sub> |  | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |                |  |                |                |                |                |                |

下肢帯の骨では、左右の寛骨片が検出されている。大坐骨切痕や出産溝の性状は不明である。下肢骨では、左右の大腿骨の一部、右踵骨片が検出されている。大腿骨は細く、女性骨をうかがわせる。

本人骨の年齢は、歯の咬耗度から考えて壮年であると考えられ、性別は女性ではないかと推定される。

### 墓172 (ST25)

D類に属する円形の土壌から検出された骨で、鎌や釘を伴っており、近世末~近代のものではないかと推定される。

四肢骨の保存状況はあまり良くないので確言しがたいが、体幹前面を北西に向けて膝を立てた状態で埋葬された、立膝座位であったと考えられる。

頭蓋は右頭頂部の一部を欠くが、ほかはほぼ完存している。頭蓋骨の三主径は頭蓋最大長が184mm、頭蓋最大幅が140mm (推定)、バジオン・プレグマ高が142mmで、頭蓋長幅示数は76.1 (推定)、蓋長高示数は77.2、頭蓋幅高示数は101.4 (推定) となり、頭型はmeso-、hypsi-、akrokran (長・高・狭頭) に属している。上顔示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は81.0でchamaeknoch (低眼窩) に属しており、鼻示数は50.9で mesorrhin (中鼻) に属している。本頭蓋には前頭縫合が認められる。

前頭部の膨隆はやや著しいが、眉間はやや突出しており、眉弓の突出もやや著明である。乳様突起は中等度であり、表面は粗造である。外後頭隆起は中等度に発達し、頂面のレリーフもやや粗造である。下顎骨は無歯顎で、やや華奢な印象を受ける。

三主縫合を見ると、いずれの縫合の外板もやや癒合が進んでいるが未閉鎖である。また、冠状縫合と矢状縫合の内板はほぼ癒合閉鎖を完了しており、ラムダ縫合も癒合閉鎖が進んでいる。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合の内側部はわずかに痕跡を残している。横口蓋縫合の外側は未閉鎖であり、正中口蓋縫合口蓋骨部は後方1/2程度が閉鎖をきたしている。歯は左上顎第1小臼歯が釘植しているのみで、そのほかの歯は脱落していて、歯槽は吸収閉鎖をきたしている。残存している左上顎第1大臼歯の咬耗はやや進んでおり、Martinの2度である。歯式は以下の通りである。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |                |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----------------|---|---|---|
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | P <sub>1</sub> | 閉 | 閉 | 閉 |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉              | 閉 | 閉 | 閉 |

椎骨では、第1~第6頸椎、4個程度の胸椎片が見つかった。肋骨は3本程度検出されている。

上肢帯の骨では、左鎖骨の一部と右肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、左側の上腕骨、橈骨、尺骨が検出されている。いずれも太くて頑丈で、男性骨をうかがわせる。手根骨では、右三角

骨と豆状骨が検出されており、指骨では、右第1基節骨のほかに4本の基節骨が、中節骨が3本、右第1末節骨が残存している。右第1基節骨の遠位端には、軽度の骨増殖性変化が認められる。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が見つかっている。大坐骨切痕の開き具合は中程度であり、出産溝は認めない。下肢骨では、右大腿骨の一部、左右の脛骨の一部、左腓骨、左右の膝蓋骨が残存している。左右の膝蓋骨の関節面には、若干の骨増殖が認められ、関節炎の所見を呈している。足根骨では、右側の踵骨と距骨が検出されている。中足骨では、左側の第1～第5中足骨が残存している。

本人骨の年齢は熟年であり、性別は男性と考えられる。

### 墓173(上層)(ST18上層)

墓173の土壌の上層から検出された骨で、本来の本土壌に埋葬された人骨は墓173(下層)のものであると考えられる。

埋葬肢位は不明で、二次埋葬の可能性がある。

頭蓋骨では、右側頭骨と頭蓋冠の一部が検出されているのみである。乳様突起は中等度の大きさである。

椎骨は頸椎と思われる椎体片が1点検出されている。

上肢骨では、左上腕骨、左右の尺骨が検出されている。

下肢帯の骨では、右の寛骨臼の一部から大坐骨切痕にかけての部分が検出されている。大坐骨切痕は破損があってその形状を知ることはできないが、その開き具合は中等度のように見える。

下肢骨では、左右の大腿骨の一部が検出されているのみである。大腿骨は太くて頑丈である。

本人骨の年齢は成人骨であることは確かであるが、詳細な年齢は推定できない。性別は男性をうかがわせるが確言できない。

### 墓173(下層)(ST18下層)

D類に属する円形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに鎌、鋏、火打ち金、飾り金具、玉を伴っており、近世(18世紀後半頃)のものと考えられる。

埋葬肢位は、頭を北東に置き、頸を屈曲させて顔面を西に向け、股関節を強く屈曲させて埋葬された、右側臥屈位である。

脳頭蓋を構成する骨では、右側頭部を中心にして頭頂部～頭蓋底の部分が検出されている。顔面頭蓋を構成する骨では、上顎骨および下顎骨の一部が検出されている。また、左錐体も検出されている。

頭蓋冠は薄く、全体的に華奢である。

三主縫合の閉鎖状況は、破損が大きいため詳細には分からないが、内板では閉鎖が進んでいるようである。骨口蓋縫合を見ると、切歯縫合はほぼ完全に消失しているが、横口蓋縫合は外側部まで未閉鎖である。また、正中口蓋縫合口蓋骨部は、後端は欠損して消失状況は不明であるが、少なくとも約1/2は未閉鎖である。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martin 1～2度である。歯槽の退縮はやや著しく、エナメル質減形成が認められる。左下顎第2大臼歯の遠心側には4度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |                |                |                |                |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C              | I <sub>2</sub> | 脱              | 脱              | 脱              | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C              | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | I <sub>1</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

脊柱を構成する骨では、頸椎のみが検出されており、第1～第7頸椎まですべて揃っている。肋骨片は右が1本確認できるのみである。

上肢帯の骨では、右鎖骨、右肩甲骨の一部が検出されている。鎖骨は細くて華奢である。上肢骨では、左右の上腕骨の一部、左橈骨の遠位端が検出されている。上腕骨は細い。手根骨では、右の舟状骨、月状骨、三角骨、有頭骨、有鉤骨が検出されている。中手骨では、右の第2～第5中手骨が検出されている。中手骨はきわめて細い。

下肢帯の骨では、左右の寛骨臼片が検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨、右脛骨、右腓骨片が検出されている。また、大腿骨には柱状形成が認められ、脛骨は扁平である。足根骨では、左の踵骨片、距骨片、舟状骨の一部が検出されている。

本人骨の年齢は壮年～熟年、性別は女性骨をうかがわせる。

#### 墓175 (ST59)

D類に属する円形の土壌から検出された骨で、鎌や煙管、丸釘を伴っており、明治以降のものと考えられる。

被埋葬者は、体幹前面を北西に向けて膝を立てた状態で埋葬されており、埋葬肢位は立膝座位である。

頭蓋は右頭頂部～側頭部の一部および後頭骨の一部を欠く。

頭蓋示数や上顔示数は破損のため求められないが、左眼窩示数は75.6でchamaeknoch (低眼窩) に、鼻示数は54.2と推定されchamaerrhin (広鼻) に属している。

頭蓋は全体的に小さいようである。眉間の突出はやや著明で、眉弓の発達是中程度である。眼窩上縁は鈍である。前頭の膨隆はやや著明であるが、前頭部は比較的なだらかにカーブを描きながら頭頂部へ移行している。乳様突起は中等度であり、外後頭隆起の発達は良好である。また、頂面のレリーフも比較的著しい。下顎骨はやや華奢な印象を受ける。鼻腔下部の骨は融解をきたしているように見える。鼻腔の底部の骨表面は粗造であり、骨膜炎の所見が認められる。また、前鼻棘は融解しているためか、その存在を認めない。頭蓋の左側にはアステリオン骨があったものと考えられる。

三主縫合を見ると、冠状縫合の外板は外側部でほぼ癒合閉鎖を完了しており、プレグマの部分は未閉鎖である。矢状縫合は破損が大きく、全体的な閉鎖状況を論じることができない。ラムダ縫合の外側部で外板は未閉鎖である。冠状縫合の内板は閉鎖している部分が多く、冠状縫合もほぼ閉鎖を完了しているようである。また、人字縫合の内板も癒合が進んでいるように見受けられる。骨口蓋の縫合を見ると、切歯縫合は外側部で消失しており、横口蓋縫合の外側部や正中口蓋縫合口蓋骨部においても、縫合は消失している。歯の咬耗は前歯では進んでいるが、臼歯ではあまり咬耗が進んでいない (Martin 1～3度)。歯槽の退縮は著しく、エナメル質減形成が認められる。左上顎第1小臼歯には4度のカリエスが、左下顎第1大臼歯の遠心側には3度のカリエスが認められる。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |   |                |                |   |                |   |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|---|----------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | 閉              | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> | 脱 | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |
| M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | 脱              | P <sub>1</sub> | C |                | I <sub>1</sub> |   | I <sub>2</sub> | C | P <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> |

脊椎の骨のうち、頸椎は第1～第7頸椎のすべて、胸椎は第1～第12のすべての胸椎が、腰椎は第1～第5のすべての腰椎が検出されている。肋骨は全部で12本程度検出されている。

上肢帯の骨では、左側の鎖骨と左右の肩甲骨の一部が検出されている。上肢骨では、左右の上腕骨の一部、尺骨の一部、右側の橈骨が残存している。左尺骨の内側面には骨膜炎の所見が認められる。

下肢帯の骨では、左寛骨臼の一部が検出されているにすぎない。下肢骨では、左右の大腿骨、脛骨の一部が検出されており、左側腓骨も検出されている。大腿骨は太くて短い。

本人骨の年齢は、総合的に判断して壮年後半～熟年と考えられ、性別は男性ではないかと考えられる。

#### 墓176 (ST101)

D類に属する円形の土壌から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世のものと考えられる。残存している骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

長骨片が検出されているが、細片化して部位は不明である。ほかに9本の歯が遊離歯として検出されている。歯は上・下顎の切歯、小臼歯、大臼歯など9点（右下顎第1小臼歯、左下顎第1小臼歯、左下顎第2小臼歯を含む）で、咬耗はやや進んでおり、Martin 1～3度である。

歯の咬耗度から判断して、年齢は壮年～熟年と考えられ、性別は不詳である。

#### 墓177 (ST85)

D類に属する円形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、近世末～近代のものではないかと推定される。

被埋葬者は、体幹前面を北北東に向けて膝を立てた状態で埋葬されており、埋葬肢位は立膝座位であったと考えられる。大腿骨は腐敗に伴って、後方に倒れている。

土壌の北東端から頭部が検出されている。

頭蓋は右眼窩部、右側頭部、鼻部、上顎部、頭蓋底の一部を欠くが、そのほかの部位の頭蓋と下顎骨の左側が残存している。

前頭部はなだらかに立ち上がり、頭頂部と連続している。眉弓の突出は強く、眉間も膨隆している。乳様突起は欠損しているため、その形状を知ることはできない。頂面には齧歯類によると思われる咬痕が多数認められ、頂面のレリーフの状態は確認できない。下顎骨は小さくて華奢である。

三主縫合を見ると、外板はいずれも未閉鎖であるが、内板は人字縫合の一部が未閉鎖であるものの、そのほかの内板は完全に癒合閉鎖をきたしている。

下顎骨の右側は欠損しており、左第1小臼歯に相当する歯槽は、吸収閉鎖をきたしている。また、残存している左第1大臼歯を容れる歯槽は退縮しており、歯根の半分程度が露出している。歯の咬耗はあまり進んでおらず、Martinの1～2度である。歯式は以下の通りである。

|                |   |   |                |                               |
|----------------|---|---|----------------|-------------------------------|
|                | 脱 | 脱 | P <sub>2</sub> | 脱                             |
| M <sub>1</sub> | 破 | 脱 | 閉              | 破                             |
|                |   |   |                | M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> |

脊椎の骨では、椎骨片が検出されているのみで、肋骨も1本程度しか検出されていない。

上肢骨では、左右の上腕骨、右橈骨、左右の尺骨が検出されている。

下肢帯の骨では、左右の寛骨の一部が検出されている。下肢骨では、左右の大腿骨と脛骨が検出されている。足根骨では、右側が踵骨、距骨、舟状骨、中間楔状骨が、左側では、踵骨が検出されている。中足骨では、右第2中足骨が検出されている。

本人骨の年齢は、縫合の閉鎖状況から見ると壮年後半～熟年前半と考えられる。性別は頭蓋骨から判断する限り男性骨をうかがわせる。

### 墓183 (ST124)

類型不詳の土壙から検出された骨で、漆器と思われるものを伴っている。時期は不明である。

検出された人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。火葬人骨も検出されているが、本土壙に伴うものかどうかは不明である。本稿では火葬人骨以外の骨について取り扱う。

土葬の下顎骨が1点と左上顎第1小臼歯が1点検出されているが、本来この墓にあったものかどうかは不明である。歯は咬耗がやや進んでおり、Martinの2度である。また、下顎は閉鎖している歯槽が多く、骨そのものも華奢である。歯式は以下の通りである。

|  |   |   |   |                |
|--|---|---|---|----------------|
|  |   |   |   | P <sub>1</sub> |
|  | 閉 | 閉 | 閉 | 閉              |

本頭蓋の年齢は熟年～老年、性別は女性と考えられる。

### 墓184 (ST31)

類型不詳の土壙から検出された骨で、銭貨のほかに釘を伴っており、近世(18世紀前葉以降)のものと考えられる。

残存骨はきわめて乏しく、寛骨片と足根骨が検出されているのみである。

寛骨片は右側のもので、大坐骨切痕は広く、成人の女性骨である。足根骨は、左右の踵骨、距骨、舟状骨と左側の内側楔状骨、中間楔状骨、外側楔状骨、立方骨が検出されているほか、左第1、第2中足骨が残存している。これらの足の骨は大きく、成人の男性骨であることがうかがえる。これらの骨は別個体であり、本土壙から2体分の人骨が検出されていることになる。これらの人骨は、本来、本土壙を利用したの埋葬であったかどうかは疑わしく、二次埋葬の可能性もある。いずれの人骨も埋葬肢位は不明である。

### 墓186 (ST138)

類型不詳の土壙から検出された骨で、銭貨を伴っており、近世(17世紀中葉以降)のものと考えられる。残存する人骨は少なく、埋葬肢位は不明である。

頭蓋骨は右錐体の部分、頭頂骨片、後頭骨片、下顎骨片が存在するにすぎない。歯は3点検出され

ており、咬耗はやや進んでいる（Martin 1～3度）。歯式は以下の通りである。

|                |   |  |
|----------------|---|--|
| P <sub>2</sub> |   |  |
| M <sub>2</sub> | C |  |

頭蓋骨のほかは第1～第2頸椎が残存していたにすぎない。

年齢は歯の咬耗から見て、壮年後半～熟年のものと考えられる。錐体は大きいように思われ、男性骨をうかがわせるが、確言できない。

#### 墓187 (ST127)

B類に属する長方形の土壌から検出された骨で、遺物を伴っておらず、時期も不明である。

土壌の北側から歯が検出されており、頭蓋が北にあったことは確かであろうが、検出人骨が少なく埋葬肢位は不明である。

骨の保存状態は極めて悪く、歯と左右の錐体、四肢骨片が検出されているのみである。検出時には、歯は歯列をなして検出されており、頭蓋骨の大部分の骨は風化・消失してしまっている。

歯は全部で17本あり、咬耗はあまり進んでいないものが多い（Martin 1～2度）。歯式は以下の通りである。

|                |                |                |                |                |   |                |                |  |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---|----------------|----------------|--|----------------|----------------|----------------|
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> | C | I <sub>2</sub> | I <sub>1</sub> |  | M <sub>1</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>3</sub> |
| M <sub>3</sub> | M <sub>2</sub> | M <sub>1</sub> | P <sub>2</sub> | P <sub>1</sub> |   |                |                |  | M <sub>1</sub> |                |                |

歯の咬耗状況から判断して、本人骨の年齢は壮年～熟年程度としておきたい。性別は不詳である。

#### 4. 銭貨に付着した毛髪様物質の同定

墓82 (ST57) から銭貨に付着した毛髪様物質が検出された（図版70）。

被埋葬者は、体幹前面を北北西に向けて膝を立てた立膝座位で埋葬されたと考えられ、遺体の腐敗後、頭部は右前方に落下した状態で骨が検出された。この頭蓋骨は土壌の北東から検出されているが、毛髪様物質や布が付着した銭貨が検出されたのは土壌の北西であって、頭蓋骨の位置から約30cm離れている。従って、銭貨に付着した毛髪様物質は、たとえ毛髪であったとしても、被埋葬者のものとは考えがたい。

X線微小分析装置を備えた低真空走査型電子顕微鏡で反射電子像を観察した。毛髪様物質の周囲には微細な顆粒が観察され、分析の結果AlやSiが検出されたことから、これらの顆粒は土壌に由来するものと考えられた。

毛髪と思われる構造物を拡大して観察しても、毛小皮は観察できなかったが、古代人の毛髪では表面の風化が進行していて微細形態が保存されていることはまれである。その太さは毛髪の太さとほぼ一致している。X線微小分析の結果、毛髪様物質そのものからは高いSのピークが観察され、毛髪と考えてほぼ間違いない。また、Cuも検出されているが、これは毛髪に銅銭由来のCuイオンが吸着されたものと考えられる。

本分析では、人毛か獣毛かの判別は出来ないが、遺物の出土状況から考えて、被埋葬者とは異なるヒトの毛髪を銭貨とともに布袋に入れて埋葬したものではないかと考えられる。

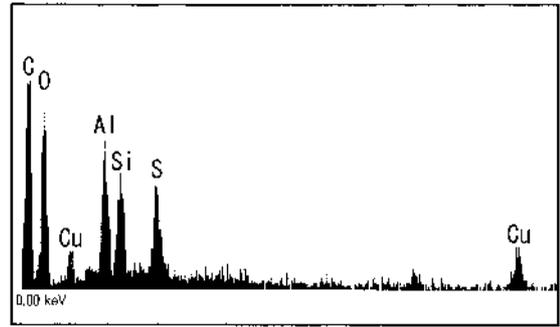


図334 墓82 (ST57) の副葬品として検出された毛髪様物質の反射電子像 (右) とそのX線微小分析。

## 5 . 考察

これまで、山陰地方の代表的な近世墓には、米子市陰田遺跡、安来市大日堂遺跡がある。本遺跡は、これらの遺跡に比べてより山間部にあり、当時の山間部における埋葬様式を知るうえで、貴重な資料になるものと考えられる。

本遺構から検出された人骨の年齢、性別、埋葬肢位の一覧表を表2に示す。以下、検討によって得られた所見を項目別に述べておきたい。なお、人骨の時期は副葬品によってかなり絞られたものがある反面、正確な時期については不明なものが多い。本稿の考察では、今回得られた人骨について総括的に述べることにするが、時期的には江戸時代～明治・大正時代のものが含まれていることをお断りしておきたい。

### 1) 埋葬個体数と性別・年齢

本遺構から検出された人骨は、同一土壌から検出されて別個体と判定されたものを除けば、総計113体である。その性別内訳は男性48体(うち男性をうかがわせるもの6体を含む)、女性51体(うち女性をうかがわせるもの6体を含む)、性別不詳14体である。そのほかに、土壌は検出できなかったが人骨の検出状況から別墓と判定されたものに埋葬されていた女性が1体である。さらに、土壌の掘削時に、骨が出てきて被埋葬者とともに二次埋葬したと考えられる別個体分が男性3体、女性1体である。従って、これらを総合的に考えると、本遺構の男女比はほぼ同等と見ることができる。

人骨から推定した死亡年齢の分布表を図335に示す。男性では熟年の人骨が多く、50歳にピークが見られる。これに対し、女性では壮年の人骨が多く、30歳にピークが見られる。女性の死亡年齢が男性より低いのは、出産に伴うリスクのためと考えられ、弥生時代や古墳時代の古人骨でも認められる現象である。しかし

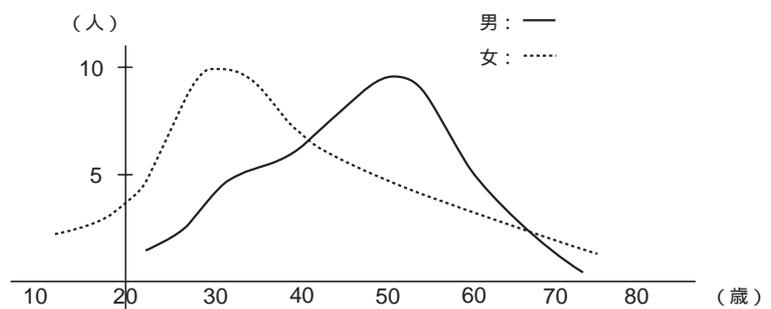


図335 人骨から推定した死亡年齢の分布の概略。

ながら、本遺跡のように男女で約20歳もの死亡年齢の相違が認められたのは、特異な状況であると言えるかもしれない。これまで発掘された山陰各地の近世人骨の年齢を再検討し、このような現象が山陰に特異的なものかを全国各地の近世人骨と比較しながら検討する必要がある。

## 2) 推定身長

男性のうち身長を推定できた11体の平均身長は、Pearson式では157.9cm、藤井式では156.6cmである。また、女性では3体について身長が推定でき、その平均身長はPearson式では145.6cm、藤井式では144.3cmである。

関東地方における江戸時代の人々の推定身長は、江戸後期で男性が156cm、女性が145cmで、明治時代の人々の身長は男性が155cm、女性が145cmであると報告されている。今回得られた本遺跡での推定身長は、関東地方におけるこれらの時代の人々の推定身長とほぼ一致する。

## 3) 人骨に認められた疾病

本遺跡の人骨で最も多く認められた疾患は齲歯である。すべての歯が検出された人骨に伴っていたわけではないので、正確な齲歯罹患率を求めることは出来ないが、本遺跡から検出された歯を伴う人骨84体のうち、32体にはカリエスが認められ、最小罹患率は38.1%に及ぶ。また、カリエスがなくても、歯槽膿漏のような疾患で歯を失って閉鎖した歯槽を有する人骨が20体あり、カリエスを有する人骨と合わせると、少なくとも52体の人骨が何らかの歯の疾患を有していたことになり、その率は61.9%に及ぶ。

カリエスの部位を見ると、上顎・下顎ともに臼歯が多く、前歯にはあまり見られない。歯槽の閉鎖部位を見ると、若干の差はあるもののすべての歯種にわたって認められ、前歯にも歯槽閉鎖が認められる。歯槽骨の退縮が認められた上顎骨や下顎骨も多く、歯根嚢胞が認められた症例が3例（墓137・ST89、墓149・ST17、墓160・ST52）ある。本遺跡の人骨における歯の衛生状態は良好ではなかったといえる。

歯原性腫瘍では、セメント質腫（墓120・ST78）が認められた。この症例は歯冠の形成異常を伴っており、稀な症例である。

上顎洞炎は2例（墓169・ST84、墓165別個体・ST14別個体）認められている。

骨折を除く脊椎疾患では、変形性脊椎症が9例（墓74・ST3、墓80・ST62、墓97・ST1、墓107・ST120、墓146・ST63、墓151・ST28、墓153・ST69、墓165・ST14、墓169・ST84）、黄色靭帯骨化症が3例（墓159・ST51、墓166・ST13、墓167・ST38）、脊椎分離症が2例（墓162・ST40、墓148・ST46）見つかっている。そのほかに、強直性脊椎炎が1例（墓150・ST33）見つかっている。この症例は稀な疾患であり、本邦からの古病理例として貴重である。この疾患は脊椎周囲の靭帯が骨化してつながってしまう疾患で、病気が進行すると、脊椎は1本の竹筒様になり、背骨の運動制限をきたすようになる。その原因は明らかではないが、特定の遺伝子（HLA-B27）を有する人に発症する傾向がある。

骨折関係では、胸・腰椎の圧迫骨折（墓144・ST21）、橈骨遠位端骨折（墓97・ST1）、腸骨骨折（墓144・ST21）、腓骨骨折（墓169・ST84）が認められた。

関節炎および変形性関節症では、指の変形性関節症が4例（墓165・ST14、墓172・ST25、墓147・ST27、墓150・ST33）のほか、膝関節炎（墓172・ST25）、肘関節炎（墓138・ST91）が認められた。

東京の江戸時代の古人骨には、かなりの頻度で梅毒の例が見つかっている。本遺跡では梅毒を疑わせる例がないこともないが、確定するには至らなかった。いずれにしても梅毒の感染率は極めて低い。

そのほかにも、骨に病変の認められたものも多いが、なお詳細な検討を要するものが多く、機会を見て再検討したい。

#### 4) 土壌と性別の関連

それぞれの土壌類型について、性別との関連があるのかを検討した。図336に示すように、男女とも同じくらいの程度で土壌に埋葬されており、土壌類型と性別との関係は認められなかった。

土壌類型が土壌の年代を反映しているとするならば、各年代とも男女の死亡率に差がなかったことを示しているとも言えよう。

本遺跡の土壌に埋葬されていた人骨の性別分布を土壌ごとに図版70に示す。周辺に女性骨が分布する傾向があるが、埋葬時期の問題もあり、今後の課題としたい。

#### 5) 埋葬肢位

##### 【仰臥屈位】

仰臥屈位と判定されたものは12体あり、性別では男性が6体、女性が6体である。そのほかにも、仰臥屈位ではないかと推定される女性が1体ある。

これらの人骨が埋葬されていた土壌墓類型では、A類が4体（男性2体、女性2体）、B類が8体

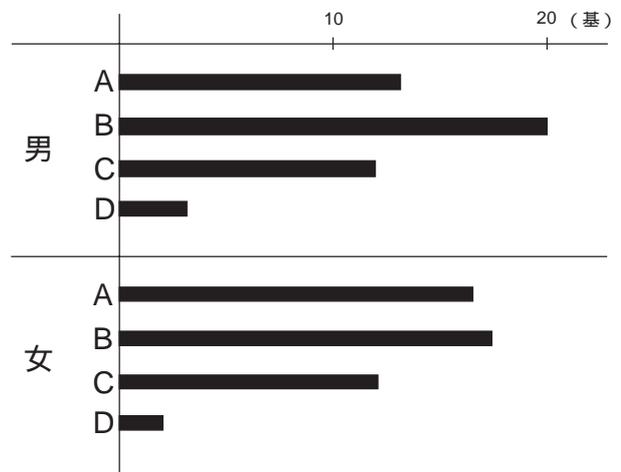


図336 土壌類型と被埋葬者の性別。

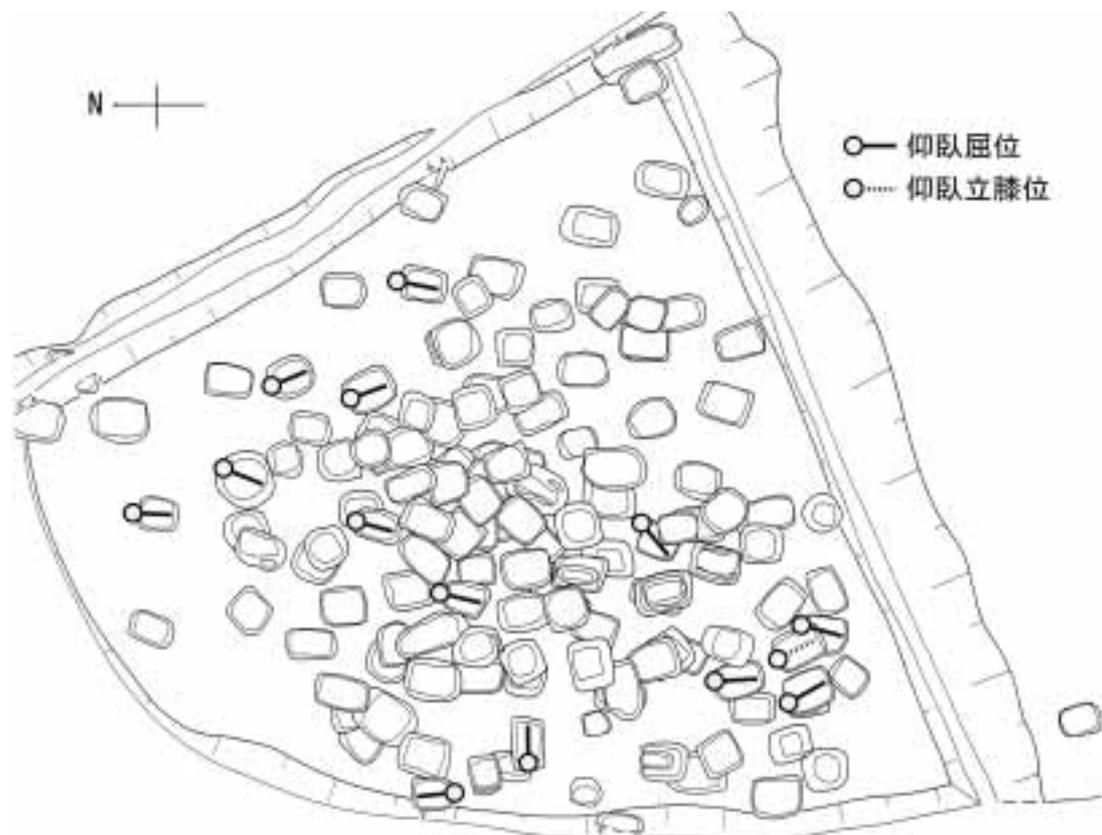


図337 仰臥屈位と仰臥立膝位をとる人骨の埋葬方向。○は頭の方を示す。

(男性2体、女性2体)、D類が1体(女性1体)である。この埋葬肢位に属する大部分の人骨は近世のものではないかと考えられている。

本埋葬肢位をとる土壌と被埋葬者の頭の方を図337に示す。長形の土壌墓では長軸方向に沿って仰臥位にて埋葬されていることが多く、いくつかの例外はあるが、頭の方北を向いている傾向があることが注目される。

#### 【半仰臥屈位】

半仰臥屈位と判定されたものは5体あり、性別では男性が1体、女性が3体、女性?が1体である。これらの人骨が埋葬されていた土壌墓類型では、A類が1体(女性1体)、B類が1体(女性1体)、C類が3体(男性1体、女性1体、女性?1体)である。この埋葬肢位に属する人骨のうち3体は丸釘が検出されていることから明治以降のものと考えられ、そのうち1体は大正以降のものである。残りの2体は近世(18世紀後半ごろ)と近世末~近代?と考えられており、この埋葬肢位をとるものは明治以降のものが多い傾向がある。

#### 【仰臥立膝位】

仰臥立膝位と判定されたものは1体のみで、女性である。時期は近世(18世紀半ば以降)と考えられている。

#### 【半腹臥正座位と半腹臥座位】

半腹臥正座位と判定されたものは8体あり、性別では男性が5体、女性が3体である。そのほかに、正座位か胡座位かの確定が難しく、半腹臥座位としたものが1体あり、これは女性人骨である。これらの人骨が埋葬されていた土壌墓類型では、A類が2体(男性1体、女性1体)、B類が7体(男性4体、女性3体)である。この埋葬肢位に属する人骨は、副葬品からいずれも近世のものであり、17



図338 立膝座位と正座位をとる人骨の埋葬方向。矢印は体幹前面の方向を示す。

世紀後葉～18世紀後半のものである。この埋葬様式は、正座位で上体を前に倒して埋葬するという特異なものであるが、遺構内の分布を見ると、遺跡の南側に多い傾向が認められる。

### 【立膝座位】

立膝座位と判定されたものは23体あり、性別では男性が14体、女性が9体である。副葬品から判断して、近世（17世紀後葉以降）～近代（明治以降）の幅広い時期にわたるものである。なかでも、近世末～近代ではないかと考えられるものが8体、明治以降と推定されるものが3体含まれており、この埋葬肢位が一般的に広く用いられてきたことがうかがえる。

本埋葬肢位をとる土壌と、埋葬時における被埋葬者の体幹前面の方向を図338に示す。遺構の周辺部には分布せず、遺構の中央部よりやや北西よりの地域と南東部には本埋葬肢位を伴う土壌が分布しない空白域がある。体幹前面の方向は様々であるが、この方向は墓道のほうを向いていたものと考えられ、古墓道を復元する一つの資料となるものと考えられる。

立膝座位と判定されたもので、土壌の深さと性別との関係を調べると、男性のほうが深い土壌を掘って埋葬していたことが分かった。立膝座位は早桶に入れて埋葬されたものと考えられ、早桶の大きさも男性用の早桶は女性用よりも大きかったと推定される。このため、大きな早桶を埋納するために、男性の土壌は女性よりもより深く掘られたのではないかと考えられる。

### 【右側臥屈位】

右側臥屈位と判定されたものは22体あり、性別では男性が12体、女性が7体、女性？が3体である。そのほか右側臥屈位ではないかと推定される女性が1体ある。副葬品から判断して、近世末～近代？と考えられるものが1体あるが、そのほかの人骨は近世（18世紀半ば以降、18世紀後半ごろ、18世紀後半以降）のものと考えられ、この時代においては、立膝座位とともに、一般的な埋葬肢位であった

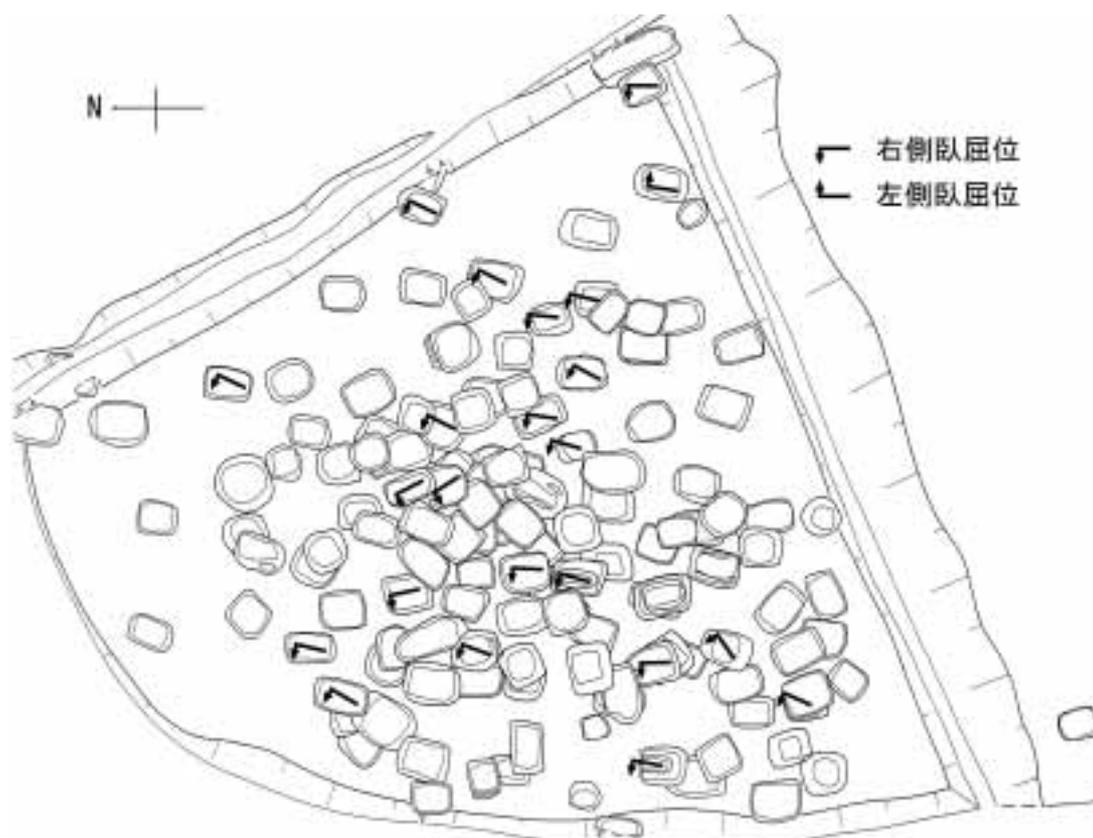


図339 右側臥屈位と左側臥屈位をとる人骨の埋葬方向。矢印のついている方が頭の方向で、矢印の向きは顔面の向きを示す。

と考えられる。

#### 【左側臥屈位】

左側臥屈位と判定されたものは1体のみで、性別は女性である。副葬品から判断して、近世（18世紀半ば以降）と考えられる。本遺構の側臥屈位人骨の大部分は右側臥屈位をとるのに対し、1体だけ左側臥位をとるものがあった。

### 6. おわりに

稿を終わるにあたり、本遺跡の人骨の検討の機会を与えて頂いた鳥取県埋蔵文化財センターの関係各位に御礼申し上げます。また、人骨の図面作成や人骨の取り上げにご協力頂いた調査事務所の北 浩明、中森 祥の両氏には遺構や遺物について数々のご教示を得た。人骨の取り上げや整理に関しては、鳥取大学医学部学生の小崎有里、谷本匡史、肥田典子、宮岡陽一、水谷友美、若原恵子の協力を、人骨のクリーニングや原稿の整理に関しては鳥取大学医学部形態解析学分野の岡田里美事務補佐員の協力を得た。記して御礼申し上げます。

#### 参考文献

井上貴央（1984）陰田天坂地区の近世人骨について。『陰田』pp.124-132

井上貴央（1998）安来市大日堂遺跡近世墓から検出された人骨の概要 『清水大日堂裏古墓発掘調査報告書』pp.215-225

平本嘉助（2004）江戸時代人の身長と棺の大きさ。江戸遺跡研究会編『墓と埋葬と江戸時代』吉川弘文館

表2 門前第2遺跡から検出された人骨リスト

| 墓番号    | ST番号    | 年齢        | 性別 | 墓塚<br>類型 | 高さ<br>(cm) | 葬法     | 頭の<br>方位 | 顔面の<br>向き | 体幹前面<br>の向き | 遺物などの時期           |
|--------|---------|-----------|----|----------|------------|--------|----------|-----------|-------------|-------------------|
| 49     | ST10    | 成人        | 不詳 | A        | 75         | 不明     |          |           |             | 中世末(16c後半~17c初頭)  |
| 53     | ST35    | 壮年~熟年     | 女  | A        | 46         | 仰臥屈位   | 北        |           |             | 近世?               |
| 54     | ST9     | 壮年後半      | 女  | A        | 70         | 右側臥屈位? | 北        | 西         |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 55     | ST8     | 青年~壮年前半   | 女  | A        | 91         | 仰臥屈位   | 北西       |           |             | 近世(17c後葉以降)       |
| 56     | ST7     | 青年        | 女  | A        | 70         | 半仰臥屈位  | 北        |           |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 57     | ST42    | 壮年        | 女  | A        | 90         | 半腹臥座位  | 北?       |           | 北?          | 近世(18c前葉以降)       |
| 58     | ST26    | 壮年後半~熟年   | 男  | A        | 61         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 59     | ST112   | 熟年        | 男? | A        | 66         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 60     | ST12    | 熟年~老年     | 女  | A        | 70         | 右側臥屈位  | 北北西      | 西         |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 61     | ST131   | 熟年~老年     | 男  | A        | 57         | 立膝座位   |          |           | 北北西         | 近世(18c前葉以降)       |
| 63     | ST5     | 壮年        | 男  | A        | 98         | 立膝座位   |          |           | 北           | 近世(18c後半ごろ)       |
| 64     | ST47    | 壮年        | 女  | A        | 53         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 66     | ST30    | 熟年        | 女  | A        | 70         | 立膝座位   |          |           | 北西          | 近世(18c後半以降)       |
| 67     | ST110   | 壮年前半      | 女  | A        | 68         | 不明     |          |           |             | 近世(18c前葉~中葉ごろ)    |
| 68     | ST109   | 壮年        | 男  | A        | 65         | 右側臥屈位  | 北北東      | 西         |             | 近世末~近代?           |
| 70     | ST53    | 壮年後半~熟年   | 女  | A        | 60         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 71     | ST60    | 壮年後半~熟年   | 女? | A        | 75         | 右側臥屈位  | 北東       | 西         |             | 近世(18c後半以降)       |
| 72     | ST54    | 壮年後半~熟年   | 女  | A        | 50         | 不明     |          |           |             | 近世(18c前葉以降)       |
| 73     | ST32    | 熟年        | 男  | A        | 75         | 仰臥屈位   | 西        |           |             | 近世後期~近代(19c以降)    |
| 74     | ST3     | 壮年        | 男  | A        | 82         | 右側臥屈位  | 北東       | 西         |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 75     | ST67    | 熟年        | 女  | A        | 70         | 右側臥屈位  | 北東       | 西         |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 76     | ST81    | 成人        | 不詳 | A        | 75         | 不明     |          |           |             | 近世                |
| 77     | ST73    | 成人        | 女? | A        | 93         | 右側臥屈位  | 北        | 西         |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 78     | ST119   | 壮年        | 不詳 | A        | 59         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 79     | ST118   | 壮年後半~熟年   | 不詳 | A        | 68         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 80     | ST62    | 熟年        | 男  | A        | 74         | 不明     |          |           |             | 近世(18c前葉~中葉ごろ)    |
| 81     | ST108   | 成人        | 不詳 | A        | 65         | 不明     |          |           |             | 近世                |
| 82     | ST57    | 熟年        | 女  | A        | 72         | 立膝座位   |          |           | 北北西         | 近世?               |
| 84     | ST58    | 壮年        | 男  | A        | 61         | 半腹臥正座位 | 北東       |           | 北東          | 近世(17c後葉以降)       |
| 85     | ST70    | 壮年後半~熟年前半 | 男  | A        | 72         | 立膝座位   |          |           | 南西          | 近世(17c後葉以降)       |
| 86     | ST44    | 壮年~熟年     | 男  | A        | 56         | 不明     |          |           |             | 明治以降              |
| 88     | ST19    | 熟年        | 男  | A        | 86         | 右側臥屈位  | 北        | 南西        |             | 近世(18c後葉~19c前半ごろ) |
| 89     | ST50    | 不詳        | 不詳 | A        | 72         | 不明     |          |           |             | 近世(18c前葉以降)       |
| 90     | ST86    | 熟年        | 男  | A        | 65         | 仰臥屈位   | 何北西      |           |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 91     | ST121   | 壮年        | 女? | A        | 75         | 不明     |          |           |             | 近世(17c前半ごろ)       |
| 93     | ST20    | 成人        | 男? | B        | 51         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 94     | ST134   | 壮年後半      | 男  | B        | 47         | 右側臥屈位  | 北東       | 西         |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 95     | ST15    | 壮年        | 女  | B        | 58         | 右側臥屈位  | 北東       | 西         |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 97     | ST1     | 成人        | 女  | B        | 47         | 仰臥屈位   | 北北西      |           |             | 近世後期(19c)         |
| 98     | ST6     | 壮年後半~熟年前半 | 女  | B        | 61         | 仰臥屈位   | 北北東      |           |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 99     | ST82    | 壮年        | 女  | B        | 58         | 右側臥屈位  | 北北東      | 西         |             | 近世(18c後半以降)       |
| 101    | ST56    | 成人        | 男? | B        | 54         | 不明     |          |           |             | 近世(18c前葉以降)       |
| 102    | ST68    | 熟年        | 男  | B        | 37         | 仰臥屈位   | 北北東      |           |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 103    | ST140   | 熟年        | 男  | B        | 28         | 右側臥屈位  | 北西       | 南西        |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 104    | ST137   | 壮年        | 男  | B        | 50         | 右側臥屈位  | 北西       | 南西        |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 105    | ST136   | 10才程度     | 不詳 | B        | 32         | 不明     |          |           |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 106    | ST49    | 熟年        | 女  | B        | 27         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 106・別墓 | ST49・別墓 | 成人        | 女  |          |            |        |          |           |             |                   |
| 107    | ST120   | 壮年後半~熟年   | 男  | B        | 56         | 仰臥屈位   | 北北東      |           |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 108    | ST45    | 壮年後半~熟年   | 女  | B        | 55         | 半腹臥正座位 | 北西       |           | 北西          | 近世(18c後半ごろ)       |
| 109    | ST93    | 壮年        | 女  | B        | 40         | 仰臥屈位   | 南        |           |             | 近世?               |
| 111    | ST34    | 壮年        | 不詳 | B        | 55         | 不明     |          |           |             | 近世(18c前葉以降)       |
| 112    | ST29    | 熟年        | 男  | B        | 51         | 右側臥屈位  | 北        | 西         |             | 近世(18c後半ごろ)       |
| 113    | ST129   | 成人        | 不詳 | B        | 27         | 不明     |          |           |             | 近世?               |
| 115    | ST64    | 壮年        | 女  | B        | 51         | 右側臥屈位  | 北東       | 北西        |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 116    | ST55    | 熟年        | 男  | B        | 49         | 右側臥屈位  | 北北東      | 南西        |             | 近世(18c前葉以降)       |
| 117    | ST75    | 成人        | 不詳 | B        | 45         | 不明     |          |           |             | 近世(18c半ば以降)       |
| 118    | ST76    | 壮年後半~熟年   | 男  | B        | 32         | 半腹臥正座位 | 北東       |           | 北東          | 近世(18c半ば以降)       |
| 120    | ST78    | 壮年~熟年前半   | 男  | B        | 47         | 右側臥屈位  | 北北東      | 西         |             | 近世?               |
| 121    | ST106   | 壮年後半~熟年   | 男  | B        | 35         | 仰臥屈位   | 北東       |           |             | 近世(18c半ば以降)       |

第6章 門前第2遺跡から出土した人骨について

|       |       |           |    |    |      |         |      |    |     |                    |
|-------|-------|-----------|----|----|------|---------|------|----|-----|--------------------|
| 122   | ST107 | 熟年        | 女  | B  | 55   | 右側臥屈位   | 北北東  | 西  |     | 近世(18c半ば以降)        |
| 123   | ST96  | 熟年～老年     | 男  | B  | 51   | 右側臥屈位   | 北    | 西  |     | 近世(18c後半以降)        |
| 125   | ST98  | 成人        | 女? | B  | 53   | 不明      |      |    |     | 近世?                |
| 127   | ST72  | 老年        | 女  | B  | 30   | 半仰臥屈位   | ?    |    | 北西  | 1921年以降            |
| 128   | ST74  | 成人        | 不詳 | B  | 41   | 不明      |      |    |     | 近世(18c前葉～中葉)       |
| 129   | ST80  | 熟年～老年     | 女? | B  | 32   | 右側臥屈位   | 北    | 西  |     | 近世(18c後葉～19c前半ごろ)  |
| 130   | ST71  | 壮年後半～熟年   | 女  | B  | 60   | 左側臥屈位   | 北    | 南東 |     | 近世(18c半ば以降)        |
| 131   | ST66  | 熟年～老年     | 女  | B  | 52   | 半腹臥正座位  | 北北西  |    | 北北西 | 近世(18c前葉～中葉)       |
| 132   | ST61  | 成人        | 男  | B  | 50   | 半腹臥正座位  |      |    | 北   | 近世(18c後半ごろ)        |
| 133   | ST65  | 壮年後半～熟年   | 男? | B  | 53   | 不明      |      |    |     | 近世(18c半ば以降)        |
| 134   | ST104 | 熟年        | 男? | B  | 55   | 不明      |      |    |     | 近世(18c後葉～19c前半ごろ)  |
| 135   | ST89  | 熟年        | 男  | B  | 65   | 半腹臥正座位  | 北北西  |    | 北北西 | 近世(18c半ば以降)        |
| 136   | ST90  | 壮年        | 女  | B  | 48   | 仰臥立膝位   | 北北西  |    |     | 近世(18c半ば以降)        |
| 136   | ST90  | 壮年        | 男  | -  | -    |         |      |    |     |                    |
| (別個体) | (別個体) |           |    |    |      |         |      |    |     |                    |
| 137   | ST83  | 熟年        | 男  | B  | 52   | 仰臥屈位    | 北西   |    |     | 近世(18c半ば以降)        |
| 138   | ST91  | 老年        | 男  | B  | 9    | 右側臥屈位   | 北北東  | 西  |     | 近世(18c後半ごろ)        |
| 139   | ST100 | 壮年        | 女  | B  | 46   | 半腹臥正座位? | 北東   |    | 北東  | 近世(18c半ば以降)        |
| 140   | ST102 | 成人        | 女  | B  | 33   | 仰臥屈位(?) | 北北東? |    |     | 近世(18c半ば以降)        |
| 141   | ST133 | 壮年        | 男  | B  | 39   | 半腹臥正座位  | 北東   |    | 北東  | 近世(18c前葉以降)        |
| 142   | ST11  | 壮年        | 女  | C  | 59   | 不明      |      |    |     | 近世(18c半ば以降)        |
| 143   | ST22  | 壮年        | 女  | C  | 56   | 立膝座位    |      |    | 西北西 | 近世(18c半ば以降)        |
| 144   | ST21  | 熟年～老年     | 女  | C  | 75   | 立膝座位    |      |    | 西南西 | 明治以降               |
| 145   | ST4   | 壮年後半～熟年前半 | 男  | C  | 82   | 立膝座位    |      |    | 北   | 近世(18c半ば～19c中葉ごろ)  |
| 146   | ST63  | 壮年後半      | 男  | C  | 75   | 立膝座位    |      |    | 南東  | 近世(18c半ば以降)        |
| 147   | ST27  | 壮年後半～熟年   | 女  | C  | 62   | 立膝座位    |      |    | 南西  | 近世末～近代?            |
| 148   | ST46  | 壮年        | 女  | C  | 75   | 立膝座位    |      |    | 西   | 近世(18c半ば以降)        |
| 149   | ST17  | 熟年        | 女  | C  | 77   | 立膝座位    |      |    | 西   | 近世末～近代?            |
| 150   | ST33  | 熟年        | 男  | C  | 87   | 立膝座位    |      |    | 南   | 近世(18c半ば以降:近世末ごろ?) |
| 151   | ST28  | 熟年        | 男  | C  | 70   | 不明      |      |    |     | 近世末?               |
| 152   | ST23  | 熟年        | 男  | C  | 81   | 立膝座位    |      |    | 北北東 | 近世(18c半ば以降)        |
| 153   | ST69  | 熟年～老年     | 男  | C  | 64   | 不明      |      |    |     | 近世(17c後葉以降)        |
| 154   | ST117 | 12才程度     | 女  | ?  | 63   | 不明      |      |    |     | 近世                 |
| 155   | ST2   | 壮年        | 女  | C  | 75   | 立膝座位    |      |    | 北西  | 近世末～近代?            |
| 156   | ST79  | 壮年        | 不詳 | C  | 52   | 不明      |      |    |     | 近世(18c後半以降)        |
| 157   | ST130 | 成人        | 不詳 | C? | 49   | 不明      |      |    |     | 近世(18c後半以降)        |
| 158   | ST123 | 壮年後半～熟年   | 男  | C  | 50   | 立膝座位    |      |    | 北西  | 近世(18c後半ごろ)        |
| 158   | ST123 | 熟年        | 男? | -  | -    |         |      |    |     |                    |
| (別個体) | (別個体) |           |    |    |      |         |      |    |     |                    |
| 159   | ST51  | 壮年        | 女  | C  | 72   | 立膝座位    |      |    | 西南西 | 近世末～近代?            |
| 160   | ST52  | 熟年        | 男  | C  | 80   | 立膝座位    |      |    | 北北東 | 明治以降               |
| 161   | ST128 | 壮年～熟年     | 女  | C? | 80   | 不明      |      |    |     | 近世?                |
| 162   | ST40  | 壮年        | 男  | C  | 85   | 半仰臥屈位   | 東    |    | 西   | 明治以降               |
| 162   | ST40  | 子供(年齢要検討) | 女  | -  | -    |         |      |    |     |                    |
| (別個体) | (別個体) |           |    |    |      |         |      |    |     |                    |
| 164   | ST122 | 壮年        | 女? | C  | (62) | 半仰臥屈位   | 北西   |    |     | 近世末～近代?            |
| 165   | ST14  | 壮年後半      | 女  | C  | 99   | 半仰臥屈位   | 北北西  |    |     | 明治以降               |
| 165   | ST14  | 壮年        | 女  | -  | -    |         |      |    |     |                    |
| (別個体) | (別個体) |           |    |    |      |         |      |    |     |                    |
| 166   | ST13  | 壮年後半      | 男  | C  | 70   | 立膝座位    |      |    | 北北西 | 近世後期～近代初(19c)      |
| 167   | ST38  | 熟年        | 男  | C  | 85   | 右側臥屈位   | 北東   | 西  |     | 近世(18c後半以降)        |
| 168   | ST87  | 壮年後半～熟年   | 女  | C  | 70   | 正座位     |      |    | 西北西 | 近世(18c半ば以降)        |
| 169   | ST84  | 壮年後半～熟年   | 男  | C  | 128  | 立膝座位    |      |    | 北北東 | 近世末～近代?            |
| 171   | ST16  | 壮年        | 女  | D  | 76   | 仰臥屈位    | 北北東  |    |     | 近世?                |
| 172   | ST25  | 熟年        | 男  | D  | 75   | 立膝座位    |      |    | 北西  | 近世末～近代?            |
| 173   | ST18  | 壮年～熟年     | 女  | D  | 61   | 右側臥屈位   | 北東   | 西  |     | 近世(18c後半ごろ)        |
| (下層)  | (下層)  |           |    |    |      |         |      |    |     |                    |
| 173   | ST18  | 成人        | 男? | -  | -    | 2次埋葬?   |      |    |     |                    |
| (上層)  | (上層)  |           |    |    |      | 不明      |      |    |     |                    |
| 175   | ST59  | 壮年後半～熟年   | 男  | D  | 102  | 立膝座位    |      |    | 北西  | 明治以降               |
| 176   | ST101 | 壮年～熟年     | 不詳 | D  | 80   | 不明      |      |    |     | 近世                 |
| 177   | ST85  | 壮年後半～熟年前半 | 男  | D  | 97   | 立膝座位    |      |    | 北北東 | 近世末～近代?            |
| 183   | ST124 | 熟年～老年     | 女  | ?  | 50   | 不明      |      |    |     | 不明                 |
| 184   | ST31  | 成人        | 男  | ?  | (57) | 不明      |      |    |     | 近世(18c前葉以降)        |
| 184   | ST31  | 成人        | 女  | ?  | (57) | 不明      |      |    |     | 近世(18c前葉以降)        |
| 186   | ST138 | 壮年後半～熟年   | 男? | ?  | 41   | 不明      |      |    |     | 近世(17c中葉以降)        |
| 187   | ST127 | 壮年～熟年     | 不詳 | B  | 30   | 不明      |      |    |     | 不明                 |

表3 頭蓋骨計測値

| 番号            | 54   | 57  | 61        | 63   | 64    | 66   | 68  | 71          | 73  | 79          | 82  | 85            | 90  | 94       | 102 | 103  | 106 | 107         | 112 | 116 | 118         | 130         |
|---------------|------|-----|-----------|------|-------|------|-----|-------------|-----|-------------|-----|---------------|-----|----------|-----|------|-----|-------------|-----|-----|-------------|-------------|
| ST番号          | 9    | 42  | 131       | 5    | 47    | 30   | 109 | 60          | 32  | 118         | 57  | 70            | 86  | 134      | 68  | 140  | 49  | 120         | 29  | 55  | 76          | 71          |
| 性別            | ♀    | ♀   | ♂         | ♂    | ♀     | ♀    | ♂   | ♀?          | ♂   | 不詳          | ♀   | ♂             | ♂   | ♂        | ♂   | ♂    | ♀   | ♂           | ♂   | ♂   | ♂           | ♀           |
| 年齢            | 壮年後半 | 壮年  | 熟年~<br>老年 | 壮年   | 壮年    | 熟年   | 壮年  | 壮年後半<br>~熟年 | 熟年  | 壮年後半<br>~熟年 | 熟年  | 壮年後半<br>~熟年前半 | 熟年  | 壮年<br>後半 | 熟年  | 熟年   | 熟年  | 壮年後半<br>~熟年 | 熟年  | 熟年  | 壮年後半<br>~熟年 | 壮年後半<br>~熟年 |
| Martin No.    |      |     |           |      |       |      |     |             |     |             |     |               |     |          |     |      |     |             |     |     |             |             |
| 1 頭蓋最大長       | -    | -   | (180)     | 182  | (161) | -    | -   | -           | -   | (175)       | -   | -             | 177 | 185      | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 5 頭蓋底長        | -    | -   | -         | -    | (92)  | -    | -   | -           | 107 | -           | 96  | -             | 101 | 103      | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 8 頭蓋最大幅       | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | 136 | -           | -   | -             | 136 | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 9 前頭最小幅       | -    | -   | 90        | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | 93  | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 10 前頭最大幅      | -    | -   | 114       | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | 123 | -        | -   | -    | 104 | -           | -   | -   | -           | -           |
| 11 両耳幅        | -    | -   | -         | -    | 115   | -    | -   | -           | 122 | -           | -   | -             | 124 | -        | 120 | (98) | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 17 ba-b高      | 134  | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | 142 | -           | 135 | -             | 141 | 135      | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 40 顔長         | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | 98  | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 45 頬骨弓幅       | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 46 中顔幅        | -    | -   | -         | -    | 85    | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 48 上顔高        | -    | 68  | -         | (74) | (68)  | 67   | -   | (71)        | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 48' 上顔高(NPH)  | -    | 64  | -         | (70) | -     | 63   | -   | (67)        | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 51L 眼窩幅 L     | -    | -   | 41r       | 48r  | 38    | -    | -   | 43r         | -   | 41          | -   | 40            | 46r | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 52L 眼窩高 L     | -    | 35  | 36r       | 36r  | 32    | (34) | -   | 36r         | -   | 35          | -   | 33            | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 54 鼻幅         | -    | 25  | -         | (26) | 20    | 25   | 25  | -           | 25  | 25          | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 55 鼻高         | -    | 46  | -         | 55   | 50    | 50   | -   | 55          | -   | 50          | -   | 45            | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 61 上顎槽幅       | -    | 63  | -         | 65   | -     | 67   | -   | -           | -   | 62          | 65  | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 65 下顎頭幅       | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 66 下顎角幅       | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 68-C 下顎長      | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 68(1) 下顎投影最大長 | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 69 オトガイ高      | -    | -   | -         | 35   | -     | -    | -   | (31)        | 37  | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | 29  | -   | -           | -           |
| 69(3)L 下顎体厚   | -    | -   | -         | 12r  | 13    | -    | -   | 14r         | 17r | 13r         | -   | 12            | -   | 15r      | -   | 13r  | -   | -           | -   | 17  | -           | 11          |
| 70L 下顎枝高      | -    | -   | -         | 66r  | 55    | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 70aL 投影下顎枝高   | -    | -   | -         | 59r  | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | 32r | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 71aL 最小下顎枝幅   | -    | -   | -         | -    | 31    | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | 30  | -        | -   | -    | -   | -           | -   | 38  | -           | -           |
| 前頭骨弦長         | -    | -   | 93.6      | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 前頭骨垂線長        | -    | -   | 17.2      | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 鼻骨弦長          | -    | 7.0 | 6.3       | 7.0  | 7.8   | 6.3  | -   | 8.2         | -   | 6.7         | 6.3 | -             | -   | -        | -   | 9.2  | -   | -           | -   | -   | (7.6)       | -           |
| 鼻骨垂線長         | -    | 0.6 | 3.5       | 2.6  | 3.0   | 3.0  | -   | 4.3         | -   | 1.9         | 1.1 | -             | -   | -        | -   | 2.4  | -   | -           | -   | -   | (2.5)       | -           |
| 頬上顎部弦長        | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | 57.9        | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |
| 頬上顎部垂線長       | -    | -   | -         | -    | -     | -    | -   | -           | -   | -           | -   | -             | -   | -        | -   | -    | -   | -           | -   | -   | -           | -           |

| 番号            | 136 | 144  | 147       | 148   | 149 | 150  | 151  | 152   | 154   | 155   | 159   | 160   | 162   | 165      | 165別個体 | 166      | 168      | 169      | 172    | 175         | 177         |
|---------------|-----|------|-----------|-------|-----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|--------|----------|----------|----------|--------|-------------|-------------|
| ST番号          | 83  | 21   | 27        | 46    | 17  | 33   | 28   | 23    | 117   | 2     | 51    | 52    | 40    | 14       | 14別個体  | 13       | 87       | 84       | 25     | 59          | 85          |
| 性別            | ♂   | ♂    | ♀         | ♀     | ♀   | ♂    | ♂    | ♂     | ♀     | ♀     | ♀     | ♂     | ♂     | ♀        | ♀      | ♂        | ♀        | ♀        | ♂      | ♂           | ♂           |
| 年齢            | 壮年  | 熟年   | 熟年~<br>老年 | 壮年    | 熟年  | 熟年   | 熟年   | 熟年    | 12才程度 | 壮年    | 壮年    | 熟年    | 壮年    | 壮年<br>後半 | 壮年     | 壮年<br>後半 | 壮年<br>後半 | 壮年<br>後半 | 熟年     | 壮年後半<br>~熟年 | 壮年後半<br>~熟年 |
| Martin No.    |     |      |           |       |     |      |      |       |       |       |       |       |       |          |        |          |          |          |        |             |             |
| 1 頭蓋最大長       | -   | 187  | 178       | -     | -   | 172  | 181  | (190) | -     | (177) | (172) | 192   | 183   | 177      | -      | 184      | -        | 180      | 184    | -           | 174         |
| 5 頭蓋底長        | -   | 103  | 97        | -     | -   | 103  | 102  | -     | (100) | 98    | 106   | 108   | 103   | -        | 98     | -        | 97       | 109      | 94     | -           | -           |
| 8 頭蓋最大幅       | -   | 135  | 133       | -     | -   | 140  | 135  | -     | -     | -     | (131) | (137) | 135   | -        | 138    | -        | (144)    | (140)    | -      | -           | -           |
| 9 前頭最小幅       | -   | 95   | 89        | 91    | -   | -    | 95   | -     | 88    | -     | (94)  | 94    | 92    | -        | 89     | -        | 98       | 98       | -      | -           | -           |
| 10 前頭最大幅      | -   | 111  | (113)     | -     | -   | 114  | -    | 114   | -     | -     | 114   | 116   | 110   | -        | -      | -        | -        | -        | -      | -           | -           |
| 11 両耳幅        | -   | 126  | 118       | -     | 123 | -    | 124  | -     | 113   | -     | 120   | 125   | 122   | -        | 125    | -        | 125      | 126      | -      | -           | -           |
| 17 ba-b高      | -   | 147  | 131       | -     | -   | 143  | 140  | -     | -     | -     | 143   | 144   | 151   | 138      | -      | 132      | -        | -        | 142    | 128         | -           |
| 40 顔長         | -   | -    | -         | -     | -   | -    | -    | -     | -     | -     | -     | 105   | 105   | -        | -      | -        | -        | -        | -      | -           | -           |
| 45 頬骨弓幅       | -   | 134  | -         | -     | -   | -    | 127  | -     | -     | -     | -     | -     | -     | (128)    | -      | -        | -        | -        | 139    | -           | -           |
| 46 中顔幅        | -   | -    | -         | -     | -   | -    | -    | -     | -     | -     | -     | -     | -     | 98       | -      | -        | -        | -        | 102    | -           | -           |
| 48 上顔高        | -   | -    | -         | -     | 66  | -    | -    | -     | -     | -     | (77)  | 75    | -     | -        | -      | -        | -        | -        | -      | -           | -           |
| 48' 上顔高(NPH)  | -   | -    | -         | -     | 62  | -    | -    | -     | -     | -     | (75)  | 71    | -     | -        | -      | -        | -        | -        | -      | -           | -           |
| 51L 眼窩幅 L     | -   | 43   | 42        | (37r) | 41r | 41   | (48) | 39    | (42r) | 40    | 42r   | 42    | 41    | 40r      | 46     | (41)     | 43       | 42       | 41     | -           | -           |
| 52L 眼窩高 L     | -   | 39   | 35        | (36)  | 31r | 36r  | 32   | (35)  | 32    | (38r) | 36    | 36r   | 35    | 34       | -      | 36       | -        | 33       | 34     | 31          | -           |
| 54 鼻幅         | -   | 28   | 26        | (25)  | 24  | 25   | -    | 23    | (20)  | -     | 23    | 25    | 25    | -        | 26     | -        | -        | 27       | (26)   | -           | -           |
| 55 鼻高         | -   | 60   | 51        | 50    | 46  | 54   | 50   | (55)  | 42    | (54)  | (55)  | 53    | 54    | 47       | 48     | 55       | -        | -        | 53     | (48)        | -           |
| 61 上顎槽幅       | -   | -    | -         | (53)  | -   | -    | -    | -     | -     | -     | -     | -     | 70    | -        | -      | -        | -        | -        | -      | 57          | -           |
| 65 下顎頭幅       | -   | -    | -         | -     | -   | -    | -    | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -        | -      | -        | -        | 119      | -      | -           | -           |
| 66 下顎角幅       | -   | -    | -         | -     | 106 | -    | -    | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -        | -      | -        | -        | 105      | -      | -           | -           |
| 68-C 下顎長      | -   | -    | -         | -     | 76  | -    | -    | -     | -     | -     | -     | 78    | 71    | -        | (81)   | -        | 74       | -        | -      | -           | -           |
| 68(1) 下顎投影最大長 | -   | -    | -         | -     | -   | -    | -    | -     | -     | -     | -     | 113   | 107   | -        | 107    | -        | 107      | -        | -      | -           | -           |
| 69 オトガイ高      | -   | -    | -         | 32    | -   | -    | -    | -     | (40)  | -     | -     | 38    | -     | -        | -      | -        | 33       | -        | -      | -           | -           |
| 69(3)L 下顎体厚   | -   | 13   | 10        | -     | 12r | 9    | 14r  | (13)  | (14)  | -     | 10r   | 11    | 14r   | 14       | 15     | -        | 10       | 13       | (14)   | 13          | 12          |
| 70L 下顎枝高      | -   | 57   | -         | -     | 60r | -    | -    | -     | -     | 55    | 65r   | 65    | 59    | -        | 69     | -        | 60       | 65       | 56     | -           | -           |
| 70aL 投影下顎枝高   | -   | 47   | -         | -     | 61r | (54) | -    | -     | -     | -     | 57r   | 57    | 50    | -        | 67     | -        | 52       | 63       | -      | -           | -           |
| 71aL 最小下顎枝幅   | -   | 31   | -         | -     | 28  | 37r  | -    | 33    | -     | -     | 31    | 35r   | 35    | -        | 32     | -        | 33       | 36       | 36     | -           | -           |
| 前頭骨弦長         | -   | 97.4 | 89.6      | -     | -   | -    | 93.9 | -     | 85.9  | -     | -     | 99.2  | 99.5  | 94.4     | -      | 100.3    | -        | (97.5)   | 100.1  | -           | -           |
| 前頭骨垂線長        | -   | 13.0 | 14.0      | -     | -   | -    | 11.8 | -     | 13.4  | -     | -     | 26.6  | 15.8  | 13.2     | -      | 12.4     | -        | (14.8)   | 15.5   | -           | -           |
| 鼻骨弦長          | 7.7 | 4.8  | 3.6       | 7.2   | 4.7 | 9.7  | 9.0  | -     | -     | -     | -     | 8.1   | 4.3   | 5.6      | 8.8    | 4.1      | -        | 5.5      | 7.5    | 6.2         | -           |
| 鼻骨垂線長         | 3.2 | 1.9  | 1.2       | 2.8   | 1.9 | 2.1  | 3.8  | -     | -     | -     | -     | 2.5   | 1.8   | 1.9      | 2.6    | 2.6      | -        | 1.2      | 2.8    | 2.6         | -           |
| 頬上顎部弦長        | -   | 94.9 | -         | -     | -   | -    | -    | -     | -     | -     | -     | -     | 101.8 | 97.8     | -      | 106.8    | -        | -        | (97.3) | -           | -           |

表4 頭蓋非計測的小変異

| 墓番号       | 53        | 54   | 56  | 57  | 58          | 60    | 61        | 63  | 64  | 66  | 68  | 70          | 71          | 72          | 73  |
|-----------|-----------|------|-----|-----|-------------|-------|-----------|-----|-----|-----|-----|-------------|-------------|-------------|-----|
| ST番号      | 35        | 9    | 7   | 42  | 26          | 12    | 131       | 5   | 47  | 30  | 109 | 53          | 60          | 54          | 32  |
| 性別        | ♀         | ♀    | ♀   | ♀   | ♂           | ♀     | ♂         | ♂   | ♀   | ♀   | ♂   | ♀           | ♀?          | ♀           | ♂   |
| 年齢        | 壮年～<br>熟年 | 壮年後半 | 青年  | 壮年  | 壮年後半<br>～熟年 | 熟年～老年 | 熟年～<br>老年 | 壮年  | 壮年  | 熟年  | 壮年  | 壮年後半～<br>熟年 | 壮年後半<br>～熟年 | 壮年後半<br>～熟年 | 熟年  |
|           | R L       | R L  | R L | R L | R L         | R L   | R L       | R L | R L | R L | R L | R L         | R L         | R L         | R L |
| 前頭縫合      | /         | -    | -   | -   | /           | /     | -         | -   | -   | -   | -   | -           | -           | /           | -   |
| 眼窩上神経溝    | /         | /    | /   | /   | /           | /     | /         | -   | -   | /   | /   | /           | /           | /           | -   |
| 眼窩上孔      | /         | /    | /   | /   | /           | /     | /         | -   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | +   |
| ラムダ小骨     | /         | -    | -   | /   | /           | /     | /         | -   | -   | /   | /   | /           | /           | /           | /   |
| 横後頭縫合痕跡   | -         | /    | -   | -   | /           | /     | /         | -   | -   | /   | /   | /           | /           | /           | -   |
| アステリオン骨   | -         | /    | -   | -   | /           | /     | /         | -   | +   | -   | -   | /           | /           | /           | +   |
| 後頭乳突縫合骨   | /         | /    | -   | -   | /           | /     | /         | -   | +   | -   | /   | /           | /           | /           | -   |
| 頭頂切痕骨     | -         | /    | -   | -   | /           | /     | /         | /   | +   | /   | -   | /           | /           | /           | +   |
| 顎管開存      | /         | /    | +   | /   | /           | /     | /         | /   | /   | /   | -   | -           | /           | /           | +   |
| 前顆結節      | /         | /    | -   | -   | /           | /     | /         | /   | -   | -   | -   | -           | /           | /           | -   |
| 傍顆突起      | /         | /    | /   | /   | /           | /     | /         | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   |
| 舌下神経管二分   | /         | /    | -   | -   | -           | /     | /         | /   | /   | -   | -   | /           | /           | -           | +   |
| フシケ孔      | /         | /    | -   | +   | -           | -     | -         | +   | +   | -   | -   | +           | +           | +           | -   |
| 卵円孔形成不全   | /         | /    | -   | -   | -           | /     | /         | -   | -   | -   | -   | /           | -           | /           | -   |
| ヴェサリウス孔   | /         | /    | -   | -   | -           | +     | -         | /   | -   | +   | -   | -           | /           | /           | -   |
| 翼棘孔       | /         | /    | /   | -   | -           | /     | /         | /   | -   | -   | -   | /           | -           | /           | -   |
| 内側口蓋管     | /         | /    | /   | -   | /           | ±     | -         | /   | /   | /   | -   | -           | /           | /           | /   |
| 外耳道骨腫     | -         | /    | -   | -   | -           | -     | -         | -   | -   | -   | -   | -           | -           | -           | -   |
| 横頬骨縫合痕跡   | /         | /    | /   | /   | -           | /     | /         | /   | -   | /   | /   | /           | /           | /           | -   |
| 頭静脈孔二分    | /         | /    | -   | -   | -           | /     | /         | /   | /   | /   | -   | /           | /           | /           | -   |
| 矢状洞溝左折    | -         | -    | -   | /   | /           | /     | -         | -   | -   | /   | /   | /           | /           | -           | /   |
| 床状突起間骨橋   | /         | /    | -   | /   | /           | -     | /         | /   | /   | /   | -   | /           | /           | /           | -   |
| 顎舌骨筋神経溝骨橋 | /         | /    | /   | /   | /           | -     | /         | /   | /   | -   | /   | -           | /           | /           | /   |

| 墓番号       | 75  | 77  | 80  | 82  | 84  | 85            | 88  | 90  | 91  | 94   | 95  | 98            | 101 | 102 | 103 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|---------------|-----|-----|-----|------|-----|---------------|-----|-----|-----|
| ST番号      | 67  | 73  | 62  | 57  | 58  | 70            | 19  | 86  | 121 | 134  | 15  | 6             | 56  | 68  | 140 |
| 性別        | ♀   | ♀?  | ♂   | ♀   | ♂   | ♂             | ♂   | ♂   | ♀?  | ♂    | ♀   | ♀             | ♂?  | ♂   | ♂   |
| 年齢        | 熟年  | 成人  | 熟年  | 熟年  | 壮年  | 壮年後半～<br>熟年前半 | 熟年  | 熟年  | 壮年  | 壮年後半 | 壮年  | 壮年後半～<br>熟年前半 | 成人  | 熟年  | 熟年  |
|           | R L | R L | R L | R L | R L | R L           | R L | R L | R L | R L  | R L | R L           | R L | R L | R L |
| 前頭縫合      | -   | /   | -   | -   | -   | -             | -   | -   | /   | -    | -   | /             | -   | -   | -   |
| 眼窩上神経溝    | /   | /   | /   | /   | -   | -             | /   | ±   | -   | /    | -   | /             | /   | /   | -   |
| 眼窩上孔      | /   | /   | /   | -   | -   | -             | +   | +   | /   | +    | -   | /             | /   | /   | -   |
| ラムダ小骨     | /   | /   | /   | -   | -   | /             | /   | -   | /   | -    | /   | -             | /   | +   | /   |
| 横後頭縫合痕跡   | /   | /   | /   | /   | /   | -             | -   | /   | /   | /    | /   | /             | -   | /   | -   |
| アステリオン骨   | -   | /   | /   | /   | /   | -             | -   | /   | /   | -    | /   | -             | /   | /   | +   |
| 後頭乳突縫合骨   | /   | /   | /   | /   | -   | /             | /   | /   | /   | -    | -   | /             | /   | /   | -   |
| 頭頂切痕骨     | -   | /   | /   | -   | /   | -             | -   | /   | /   | (+)  | +   | -             | /   | /   | +   |
| 顎管開存      | /   | /   | +   | /   | /   | +             | /   | /   | -   | /    | +   | +             | /   | /   | +   |
| 前顆結節      | /   | /   | /   | /   | -   | /             | /   | -   | /   | -    | -   | /             | /   | /   | -   |
| 傍顆突起      | /   | /   | /   | /   | /   | /             | /   | -   | /   | /    | /   | /             | /   | /   | /   |
| 舌下神経管二分   | /   | /   | -   | /   | /   | +             | -   | /   | /   | -    | -   | /             | /   | -   | +   |
| フシケ孔      | /   | /   | -   | -   | -   | -             | /   | -   | /   | +    | -   | /             | -   | -   | +   |
| 卵円孔形成不全   | /   | -   | -   | -   | -   | /             | /   | -   | /   | +    | /   | /             | -   | -   | -   |
| ヴェサリウス孔   | /   | -   | +   | +   | /   | +             | /   | /   | /   | -    | +   | +             | /   | -   | -   |
| 翼棘孔       | /   | /   | /   | -   | -   | /             | /   | /   | /   | /    | /   | /             | -   | -   | /   |
| 内側口蓋管     | /   | /   | /   | /   | -   | -             | /   | -   | /   | /    | /   | -             | ±   | -   | /   |
| 外耳道骨腫     | -   | /   | -   | -   | -   | -             | /   | -   | /   | -    | -   | /             | -   | -   | -   |
| 横頬骨縫合痕跡   | /   | /   | /   | /   | /   | -             | /   | /   | /   | /    | /   | -             | /   | /   | /   |
| 頭静脈孔二分    | /   | /   | /   | /   | -   | /             | /   | /   | /   | /    | /   | /             | /   | -   | /   |
| 矢状洞溝左折    | -   | -   | /   | -   | /   | /             | /   | /   | /   | -    | /   | (-)           | -   | /   | -   |
| 床状突起間骨橋   | /   | /   | /   | /   | -   | /             | /   | /   | /   | /    | -   | /             | /   | /   | /   |
| 顎舌骨筋神経溝骨橋 | /   | /   | /   | /   | /   | /             | /   | /   | /   | -    | /   | -             | /   | /   | /   |

| 墓番号       | 104 | 106 | 107         | 108         | 109 | 112 | 115 | 116 | 118         | 120         | 121         | 122 | 123       | 127 |   |   |
|-----------|-----|-----|-------------|-------------|-----|-----|-----|-----|-------------|-------------|-------------|-----|-----------|-----|---|---|
| ST番号      | 137 | 49  | 120         | 45          | 93  | 29  | 64  | 55  | 76          | 78          | 106         | 107 | 96        | 72  |   |   |
| 性別        | ♂   | ♀   | ♂           | ♀           | ♀   | ♂   | ♀   | ♂   | ♂           | ♂           | ♂           | ♀   | ♂         | ♀   |   |   |
| 年齢        | 壮年  | 熟年  | 壮年後半<br>~熟年 | 壮年後半<br>~熟年 | 壮年  | 熟年  | 壮年  | 熟年  | 壮年後半<br>~熟年 | 壮年~熟年<br>前半 | 壮年後半~<br>熟年 | 熟年  | 熟年~<br>老年 | 老年  |   |   |
|           | R   | L   | R           | L           | R   | L   | R   | L   | R           | L           | R           | L   | R         | L   | R | L |
| 前頭縫合      | /   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | +   | /         | /   | / | / |
| 眼窩上神経溝    | /   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 眼窩上孔      | /   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | +           | +           | /   | /         | /   | / | / |
| ラムダ小骨     | -   | /   | +           | -           | -   | /   | -   | /   | /           | /           | -           | /   | /         | /   | / | / |
| 横後頭縫合痕跡   | -   | -   | +           | /           | -   | -   | +   | +   | /           | /           | /           | /   | +         | +   | / | / |
| アステリオン骨   | -   | -   | /           | /           | -   | -   | /   | /   | /           | /           | /           | -   | -         | /   | / | / |
| 後頭乳突縫合骨   | -   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | +           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 頭頂切痕骨     | +   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | +         | /   | / | / |
| 顆管開存      | /   | /   | +           | +           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 前顆結節      | /   | /   | -           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 傍顆突起      | /   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 舌下神経管二分   | -   | -   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| フシケ孔      | +   | +   | +           | -           | -   | -   | +   | -   | -           | /           | /           | -   | +         | +   | / | - |
| 卵円孔形成不全   | /   | -   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| ヴェサリウス孔   | /   | /   | +           | +           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | + |
| 翼棘孔       | /   | /   | -           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | - |
| 内側口蓋管     | /   | /   | -           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 外耳道骨腫     | -   | -   | -           | -           | -   | -   | -   | -   | /           | -           | -           | -   | /         | -   | - | / |
| 横顔骨縫合痕跡   | /   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 頭静脈孔二分    | /   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 矢状洞溝左折    | -   | -   | /           | /           | -   | -   | /   | ±   | -           | /           | -           | /   | /         | /   | / | + |
| 床状突起間骨橋   | /   | /   | /           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |
| 顎舌骨筋神経溝骨橋 | /   | /   | -           | /           | /   | /   | /   | /   | /           | /           | /           | /   | /         | /   | / | / |

| 墓番号       | 129       | 130         | 131       | 132 | 133         | 135 | 136 | 136別個体 | 137 | 138 | 139 | 141 | 142 | 143 |   |   |
|-----------|-----------|-------------|-----------|-----|-------------|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|---|
| ST番号      | 80        | 71          | 66        | 61  | 65          | 89  | 90  | 90別個体  | 83  | 91  | 100 | 133 | 11  | 22  |   |   |
| 性別        | ♀?        | ♀           | ♀         | ♂   | ♂?          | ♂   | ♀   | ♂      | ♂   | ♂   | ♀   | ♂   | ♀   | ♀   |   |   |
| 年齢        | 熟年~<br>老年 | 壮年後半<br>~熟年 | 熟年~老<br>年 | 成人  | 壮年後半<br>~熟年 | 熟年  | 壮年  | 壮年     | 熟年  | 老年  | 壮年  | 壮年  | 壮年  | 壮年  |   |   |
|           | R         | L           | R         | L   | R           | L   | R   | L      | R   | L   | R   | L   | R   | L   | R | L |
| 前頭縫合      | /         | -           | /         | /   | /           | -   | -   | -      | -   | /   | -   | /   | -   | /   |   |   |
| 眼窩上神経溝    | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   |   |   |
| 眼窩上孔      | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | +   | /   | /   | /   | /   | +   | + | / |
| ラムダ小骨     | /         | /           | /         | /   | /           | -   | -   | -      | /   | -   | -   | /   | /   | /   |   |   |
| 横後頭縫合痕跡   | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| アステリオン骨   | /         | /           | +         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 後頭乳突縫合骨   | /         | /           | -         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 頭頂切痕骨     | /         | /           | +         | /   | /           | /   | /   | /      | +   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 顆管開存      | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | +   | -   | +   | -   | / | / |
| 前顆結節      | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 傍顆突起      | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 舌下神経管二分   | /         | /           | -         | /   | /           | /   | /   | /      | -   | -   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| フシケ孔      | -         | /           | +         | +   | /           | /   | /   | /      | +   | /   | +   | +   | -   | -   | / | / |
| 卵円孔形成不全   | /         | /           | -         | -   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | -   | +   | - | / |
| ヴェサリウス孔   | /         | /           | +         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | +   | -   | -   | +   | + | / |
| 翼棘孔       | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 内側口蓋管     | /         | /           | -         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 外耳道骨腫     | -         | /           | -         | -   | /           | -   | -   | -      | -   | -   | -   | -   | -   | -   | - | / |
| 横顔骨縫合痕跡   | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 頭静脈孔二分    | /         | /           | -         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 矢状洞溝左折    | /         | /           | /         | /   | /           | +   | -   | -      | -   | -   | ±   | -   | /   | /   | / | - |
| 床状突起間骨橋   | /         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |
| 顎舌骨筋神経溝骨橋 | -         | /           | /         | /   | /           | /   | /   | /      | /   | /   | /   | /   | /   | /   | / | / |

第6章 門前第2遺跡から出土した人骨について

| 墓番号       | 144       | 145         | 146      | 147         | 148 | 149 | 150 | 151 | 152 | 153 | 154       | 155       | 158 | 158別個体      | 159 |     |
|-----------|-----------|-------------|----------|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|-------------|-----|-----|
| ST番号      | 21        | 4           | 63       | 27          | 46  | 17  | 33  | 28  | 23  | 69  | 117       | 2         | 123 | 123別個体      | 51  |     |
| 性別        | ♀         | ♂           | ♂        | ♀           | ♀   | ♀   | ♂   | ♂   | ♂   | ♂   | ♀         | ♀         | ♂   | ♂?          | ♀   |     |
| 年齢        | 熟年～<br>老年 | 壮年後半<br>～熟年 | 壮年<br>後半 | 壮年後半<br>～熟年 | 壮年  | 熟年  | 熟年  | 熟年  | 熟年  | 熟年  | 熟年～<br>老年 | 12才程<br>度 | 壮年  | 壮年後半<br>～熟年 | 熟年  | 壮年  |
|           | R L       | R L         | R L      | R L         | R L | R L | R L | R L | R L | R L | R L       | R L       | R L | R L         | R L | R L |
| 前頭縫合      | -         | /           | -        | -           | -   | -   | -   | -   | -   | /   | -         | -         | -   | /           | -   | -   |
| 眼窩上神経溝    | -         | /           | -        | -           | /   | /   | /   | /   | /   | /   | /         | /         | /   | /           | /   | /   |
| 眼窩上孔      | -         | /           | /        | -           | +   | +   | -   | -   | +   | +   | /         | -         | +   | +           | /   | /   |
| ラムダ小骨     | -         | /           | -        | /           | /   | /   | -   | -   | -   | /   | /         | +         | /   | /           | -   | -   |
| 横後頭縫合痕跡   | -         | /           | -        | +           | -   | /   | /   | /   | +   | +   | /         | -         | +   | /           | /   | /   |
| アステリオン骨   | -         | /           | +        | -           | /   | /   | /   | +   | +   | -   | /         | /         | /   | /           | /   | /   |
| 後頭乳突縫合骨   | -         | /           | /        | +           | /   | /   | /   | -   | -   | -   | /         | /         | /   | /           | /   | /   |
| 頭頂切痕骨     | -         | /           | -        | +           | +   | /   | /   | +   | +   | /   | -         | /         | +   | /           | /   | +   |
| 顎管開存      | +         | +           | /        | /           | /   | /   | +   | +   | +   | /   | /         | /         | /   | /           | /   | +   |
| 前顆結節      | -         | /           | /        | /           | /   | /   | -   | -   | -   | /   | /         | /         | -   | -           | /   | /   |
| 傍顆突起      | -         | /           | /        | /           | /   | /   | /   | -   | -   | /   | /         | /         | /   | /           | /   | /   |
| 舌下神経管二分   | +         | +           | /        | /           | /   | /   | -   | -   | -   | /   | /         | /         | -   | -           | /   | /   |
| フシユケ孔     | +         | +           | +        | +           | +   | +   | +   | +   | -   | +   | /         | +         | -   | +           | -   | +   |
| 卵円孔形成不全   | -         | -           | -        | /           | -   | /   | -   | +   | -   | -   | /         | /         | /   | -           | -   | -   |
| ヴェサリウス孔   | +         | +           | /        | /           | /   | -   | +   | -   | +   | +   | /         | +         | +   | +           | -   | -   |
| 翼棘孔       | -         | /           | /        | /           | /   | -   | /   | -   | -   | /   | /         | /         | -   | -           | /   | -   |
| 内側口蓋管     | -         | /           | /        | /           | /   | -   | -   | /   | /   | /   | /         | /         | -   | -           | /   | -   |
| 外耳道骨腫     | -         | /           | -        | /           | /   | -   | -   | -   | -   | /   | /         | -         | -   | -           | -   | -   |
| 横顔骨縫合痕跡   | -         | /           | /        | /           | /   | /   | /   | +   | /   | /   | /         | /         | /   | /           | /   | /   |
| 頭静脈孔二分    | -         | /           | /        | /           | /   | /   | /   | -   | -   | /   | /         | /         | -   | /           | /   | +   |
| 矢状洞溝左折    | -         | /           | -        | /           | /   | /   | -   | -   | -   | +   | /         | -         | +   | /           | -   | -   |
| 床状突起間骨橋   | -         | /           | /        | /           | -   | /   | /   | /   | +   | /   | /         | -         | -   | /           | /   | /   |
| 顎舌骨筋神経溝骨橋 | /         | -           | /        | /           | /   | /   | /   | -   | -   | /   | /         | /         | /   | /           | /   | /   |

| 墓番号       | 160 | 162 | 164 | 165  | 165別個体 | 166      | 167 | 168         | 169         | 172 | 173上層 | 173下層     | 175         | 177         |
|-----------|-----|-----|-----|------|--------|----------|-----|-------------|-------------|-----|-------|-----------|-------------|-------------|
| ST番号      | 52  | 40  | 122 | 14   | 14別個体  | 13       | 38  | 87          | 84          | 25  | 18上層  | 18下層      | 59          | 85          |
| 性別        | ♂   | ♂   | ♀?  | ♀    | ♀      | ♂        | ♂   | ♀           | ♂           | ♂   | ♂?    | ♀         | ♂           | ♂           |
| 年齢        | 熟年  | 壮年  | 壮年  | 壮年後半 | 壮年     | 壮年<br>後半 | 熟年  | 壮年後半<br>～熟年 | 壮年後半<br>～熟年 | 熟年  | 成人    | 壮年～<br>熟年 | 壮年後半<br>～熟年 | 壮年後半<br>～熟年 |
|           | R L | R L | R L | R L  | R L    | R L      | R L | R L         | R L         | R L | R L   | R L       | R L         | R L         |
| 前頭縫合      | -   | -   | -   | -    | -      | /        | -   | +           | +           | /   | /     | -         | -           |             |
| 眼窩上神経溝    | -   | -   | /   | -    | /      | /        | /   | /           | /           | /   | /     | /         | /           |             |
| 眼窩上孔      | +   | +   | -   | /    | -      | -        | /   | /           | /           | -   | /     | /         | /           |             |
| ラムダ小骨     | -   | +   | /   | -    | /      | ±        | /   | /           | +           | -   | /     | /         | -           |             |
| 横後頭縫合痕跡   | -   | /   | +   | -    | /      | /        | +   | +           | -           | -   | /     | /         | /           |             |
| アステリオン骨   | +   | +   | +   | /    | -      | +        | /   | /           | +           | +   | /     | /         | +           |             |
| 後頭乳突縫合骨   | +   | -   | -   | /    | -      | /        | -   | /           | +           | +   | /     | /         | /           |             |
| 頭頂切痕骨     | -   | +   | +   | /    | -      | /        | -   | +           | -           | +   | /     | /         | /           |             |
| 顎管開存      | +   | +   | +   | /    | +      | /        | -   | /           | /           | +   | -     | +         | +           |             |
| 前顆結節      | -   | -   | -   | /    | -      | /        | -   | /           | /           | /   | -     | /         | +           |             |
| 傍顆突起      | -   | /   | -   | /    | -      | /        | -   | /           | /           | /   | -     | /         | /           |             |
| 舌下神経管二分   | -   | -   | -   | /    | -      | +        | /   | /           | /           | -   | -     | /         | /           |             |
| フシユケ孔     | -   | -   | -   | -    | +      | +        | /   | -           | +           | -   | -     | +         | +           |             |
| 卵円孔形成不全   | -   | -   | -   | /    | -      | /        | -   | -           | -           | -   | /     | -         | -           |             |
| ヴェサリウス孔   | +   | +   | ±   | ±    | /      | +        | /   | -           | +           | +   | -     | /         | -           |             |
| 翼棘孔       | -   | -   | -   | /    | +      | +        | /   | -           | /           | -   | /     | -         | -           |             |
| 内側口蓋管     | -   | -   | -   | /    | -      | -        | /   | /           | /           | /   | -     | /         | -           |             |
| 外耳道骨腫     | -   | -   | -   | -    | -      | -        | -   | /           | -           | -   | -     | ±         | -           |             |
| 横顔骨縫合痕跡   | -   | /   | /   | -    | /      | /        | /   | /           | /           | /   | -     | /         | /           |             |
| 頭静脈孔二分    | -   | -   | -   | /    | -      | +        | /   | /           | /           | -   | -     | /         | /           |             |
| 矢状洞溝左折    | -   | -   | /   | -    | /      | ±        | +   | /           | -           | -   | /     | /         | /           |             |
| 床状突起間骨橋   | -   | -   | -   | /    | -      | /        | /   | /           | +           | (+) | -     | /         | /           |             |
| 顎舌骨筋神経溝骨橋 | -   | -   | -   | /    | /      | /        | +   | /           | /           | -   | -     | /         | /           |             |

## 図版 説明

### 図版65

墓63 (ST5)、墓73 (ST32)、墓82 (ST57)、墓137 (ST83) の頭蓋骨 (正面観、右または左側面観、上面観、右または左斜面観)。

### 図版66

墓144 (ST21)、墓150 (ST33)、墓151 (ST28)、墓160 (ST52) の頭蓋骨 (正面観、右または左側面観、上面観、右または左斜面観)。

### 図版67

墓162 (ST40)、墓165 (ST14)、墓166 (ST13)、墓169 (ST84) の頭蓋骨 (正面観、左側面観、上面観、左斜面観)。

### 図版68

上段：墓172 (ST25)、墓175 (ST59) の頭蓋骨 (正面観、右または左側面観、上面観、右または左斜面観)。

下段：強直性脊椎炎 (墓150・ST33)。a：正面観、b：左斜面観、c：左側面観、d：後面観。

### 図版69

1：橈骨遠位端骨折 (墓97・ST1)。2：上腕骨下端に認められた肘関節炎 (墓138・ST91)。3：尺骨近位端内側に認められた骨膜炎 (墓175・ST59)。4～5：黄色靭帯骨化症 (墓159・ST51)。4：第10胸椎、5：第11胸椎、a：側面観、b：下面観。6：第1腰椎分離症 (墓148・ST46) (後面観)。7：第11胸椎～第1腰椎、第4、第5腰椎に認められた圧迫骨折 (墓144・ST21)。8：腸骨骨折 (墓144・ST21)。9：セメント質腫 (墓120・ST78)。a：咬合面観、b：遠心側観。

### 図版70

上：土壌の被埋葬者の主要な埋葬肢位と性別。

下：墓82 (ST57) から検出された銭貨と毛髪様物質の付着状況。1と2の二つに分かれており、a、bはそれぞれの表面と裏面を示す。

## 第7章 まとめ

### 第1節 中近世墓群の考古学的考察

#### ・中近世墓群の変遷と特質

既に見てきたように、G区西縁部で検出した中近世墓群は187基（墓2～墓188）の墓で構成され、中世後期後葉から近代にかけて形成されたものと判明した。極めて長期間にわたって墓域として利用され続けるなかで、葬法が時期的に変化している。そこで、まず本墓群の時期的変遷を整理し、遺構形態や埋葬方法の変遷を確認しておくことにする。

#### 1. 中近世墓群の形成過程

第5章では墓を「中世墓」と「近世墓」に大別したが、ここではこれを踏まえた上で、あらためて時期を設定していく。特に、「近世墓」としたものは造営時期の幅が広いので細分する。

「中世墓」は16世紀から17世紀前葉にかけてつくられたと考えられる。これらは立地や特徴が異なるいくつかの小群で構成されているので、時期的に細分が可能と考えられる。しかし、副葬品は渡来銭のみで構成される銭貨を中心としており、土器・陶磁器類を伴う墓が少ないこともあって、伴出遺物での時期決定は困難である。しかも、墓出土の土器類はほぼ同時期のものしか見られず、土器出土の墓同士についても時期的な前後関係を明らかにすることは難しい。そのため、細分の余地を残すものの、これらの「中世墓」が営まれた時期をひとつの段階と捉えて

表5 近世墓の切り合いの新旧

|        |   | 新しい土壇類型 |    |    |   |
|--------|---|---------|----|----|---|
|        |   | A       | B  | C  | D |
| 古い土壇類型 | A |         | 11 | 11 | 3 |
|        | B | 4       |    | 13 | 2 |
|        | C | 1       | 3  |    | 1 |
|        | D | 1       | 1  | 2  |   |

「近世墓」は17世紀中葉から近代にかけてつくられたと考えられる。時間幅が広く、また墓の特徴も変化しているので時期的に区分可能である。そこで、まず第5章で示した「A類墓 B類墓 C(+D)類墓」という変遷を切り合い関係で再確認してみよう（図340・表5）。大枠では先の想定と大きくは変わらないが、例外がいくつか見られる。特に、A類がB類を切る例が4例見られ、逆転した関係となる割合がやや高い。それでも、全体としてみれば、A類に古いものが多く、次いでB類が古く、C(・D)類が新しいという相対的な流れは押さえられるだろう。

この相対的な関係を出土遺物の年代で確認すると（表8）、A類・B類よりC・D類（特にC類）は遺物の年代においても新しいことが分かる。一方、A類の大部分とB類は明確に新旧の年代差をもつわけではなく、大きな時期差はないといえる。ただし、A類の一部には出土遺物や切り合い関係から見て、これらより古く位置づけうる可能性のあるものが含まれている。こうした相対的な前後関係や遺物などの年代をもとに、次の3つの段階を設定した。

期：A類のうち古い年代を示す一部の墓が形成される時期で、17世紀中葉から18世紀前葉ごろ。

この時期に帰属することが確実な墓はないものの、その可能性が考えられる墓が数基みられる。

期：期以外のA類墓およびB類墓が主体となる時期で、おおよそ18世紀中葉から18世紀後葉までにあたる。この時期幅の中でもA類がB類より相対的に古い場合が多いようである。

期：C(・D)類墓が主体となる時期で、おおよそ19世紀代にあたる。

では、この時期区分をもとに、中近世墓群の形成過程を確認してみよう。期は丘陵斜面部の1群、

平坦面の2群の大きく二つの群に分かれて墓が展開する。数の上では37基を確認した1群のほうが多く、この時期の中心的な墓域となっている。2群には、G3区にまとまった数の墓があるほか、G4区では確認した以外に 期以降の墓に壊された墓がある程度の数存在していた可能性がある。1群は地形に沿って列状に並び、2群はほぼ同じ軸方向の墓がある程度の間隔を保って配されており、いずれも以前につくった墓との位置関係を意識し、墓域を徐々に拡大しながら展開しているようである。

期は墓群の形成が極めて低調で、この時期に属する可能性のある墓は数基のみで、墓の立地はG4区に限られている。続く 期には70基以上の墓がつくられる。 期と異なり、墓はG4区に密集しており、頻りに切り合いながら展開する。こうしたあり方から、この時期にはこれまでの墓域が再編されて、G4区に新たな墓域が画定したものと考えられる。G4区を囲む区画溝もこの時期に墓域の再編に伴って形成されたと考えられよう。最終段階の 期は、 期から継続する墓域に30基以上の墓がつくられる。その展開の仕方は 期と大きくは変わらない。

このように、本中近世墓群は 期に丘陵斜面部を中心に形成が始まり、 期に一旦墓の造営数が著しく減少する。続く 期には、一転して墓の造営数が増大するとともに区画を伴う墓域が新たに設けられ、 期もこの墓域内の墓の造営が継続するという過程をたどっている。墓群形成過程の上では形成開始期の 期と、墓域再編期の 期の始まりに大きな画期が見出せよう。

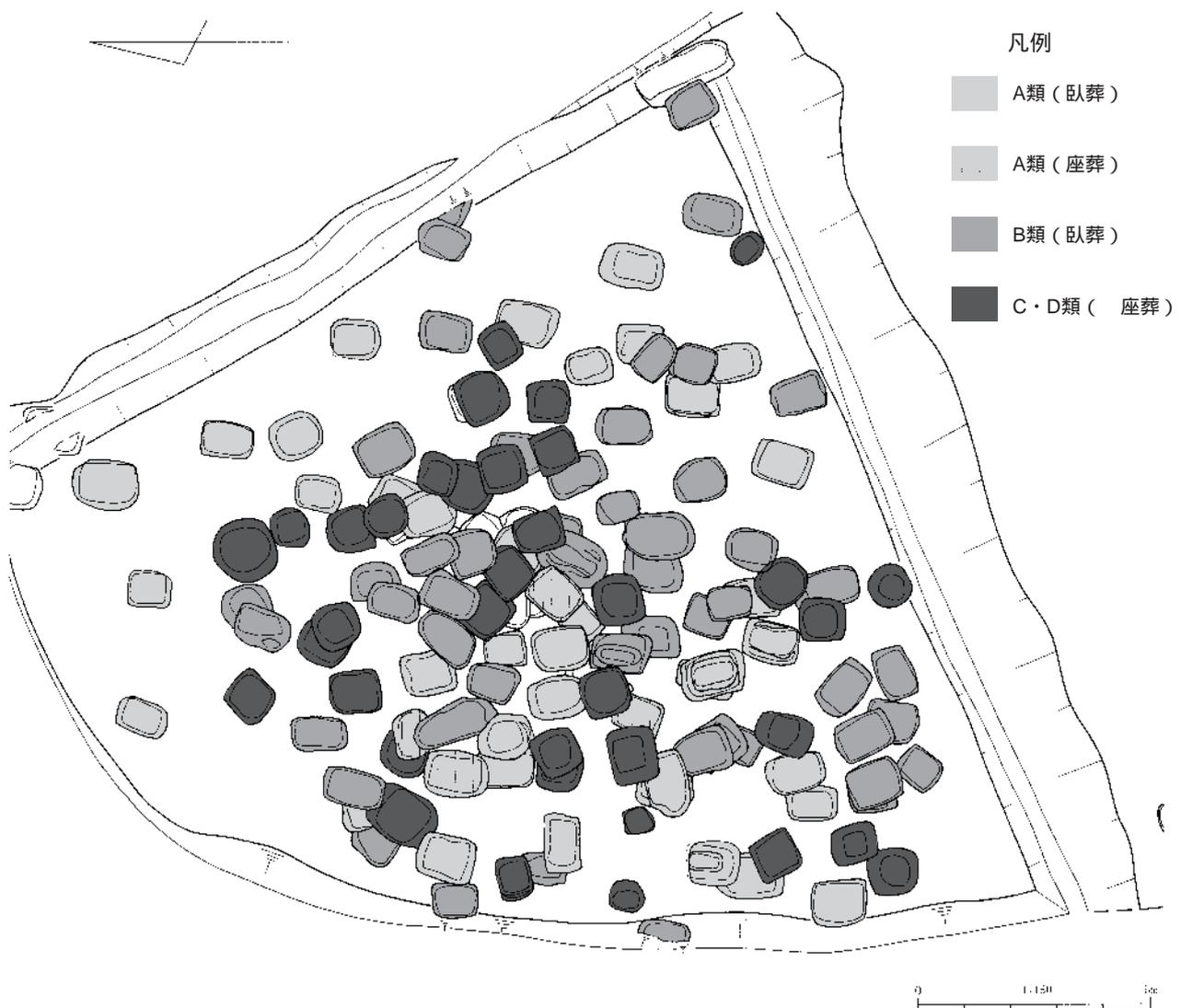


図340 土壌類型と埋葬形態

## 2. 土壌形態と埋葬方法の変遷

続いて、時期ごとに葬法に関わる遺構の特徴を整理し、その変遷をたどってみたい。

期の墓は、ほとんどが土壌の上面から上層にかけて標石を伴う、いわゆる「集石墓」である。土壌形態は近世墓の土壌類型（p.85参照）を適用するとほとんどがA類となる。1群では、火葬骨出土の墓27を除き人骨は出土していないが、2群ではいくつかの墓から土葬された人骨が見つっている。土壌の形態を考慮すると両群ともほぼすべてが土葬墓であったと考えられる。人骨の残る墓では遺体の埋葬形態はいずれも北頭位の臥葬で、その他の墓でも土壌の形態から考えて北頭位の臥葬をとっていた可能性が高い。棺の使用は少なくとも釘が出土した墓については確認でき、さらに、釘が出土していない墓でも遺物や礫の出土状況が棺の存在を推測させるような場合が見られるため、組み合わせ式の木棺などの使用も考えられるだろう。一方で、棺の使用を想定しがたい不整形で小ぶりの土壌もあるため、直葬のものも存在した可能性が高い。

期の可能性のある墓も、墓の上面には標石が見られ、土壌形態はA類を基本とする。土葬された人骨がいくつかの墓から見つかり、遺体の埋葬形態が北頭位の臥葬と判明したものが1例のみ見られる。不明な点が多いものの、この段階も埋葬形態は臥葬をとっていた可能性が高い。

期は帰属する墓が多いこともあり土壌形態や埋葬方法にバリエーションが見られる。標石は前段階までと同様、ほとんどの墓に伴う。土壌形態は、例外的にC類・D類がわずかに見られるが、A類・B類が主体となる。遺体はすべて土葬されており、その埋葬形態は9割以上が北頭位の臥葬であるが、わずかに座葬も加わる。棺の使用の有無は、墓から釘が出土していなくても棺材と思われる木片や木質が遺物に付着している例がかなり多く見られるので、釘の出土のみでは判断できない。

期は 期に比して墓の特徴が単相化する。前段階までに引き続いて、墓上面には標石が伴う。土壌形態はC類が中心になり、これにD類が加わる。ほかに、A類・B類も例外的に見られる。遺体はすべて土葬で、埋葬形態は9割までが座葬をとる。この段階ではまとまった数の釘が出土する墓の割合が高く、半数近くの墓は釘を用いた棺を使っていたようである。釘の出土がないものについても、前段階までと同様、棺が使用された可能性がある。

表6 墓の特徴の変遷

|      | I期 | II期 | III期 | IV期 |
|------|----|-----|------|-----|
| 標石   | ○  | ○   | ○    | ○   |
| 土壌形態 | A  | A   | A・B  | C   |
| 埋葬形態 | 臥葬 | 臥葬  | 臥葬   | 座葬  |

以上のように時期ごとに整理してきたが、墓の特徴には、時期によって変化する要素と変化しない要素が見られる（表6）。

遺構形態では、土壌上面に標石を伴うという特徴は一貫して継続する。一方、いくらか変化を見せる土壌形態は、 期から 期までA類土壌が用いられ、 期にはこれにB類が加わる。土壌の深さの変化の理由は不明だが、 期までは臥葬に対応した長方形の土壌が用いられており、大きな変化はなく連続する。 期には座葬の普遍化に伴って、座棺に対応したC類やD類といった土壌形態となる。 期での変化の主体は埋葬形態にあって、土壌形態はそれに従っている。そのため、大きく見れば、遺構自体の形態は大きくは変化していないとも考えられよう。つまり、遺体を土葬にするために土壌を掘り、その上面に標石を組むという墓構築の流れは 期から 期まで変化していない。

なかでも土壌上に礫集積を行うという点は一切変化せず、本墓群を顕著に特徴づけている要素である。こうした礫集積は「標石」と呼称してきたが、その役割は「墓じるし」ではなく、埋葬された死者の身体と死霊をともに封鎖することなどを目的とした「墓上施設」（岩田2003）のひとつであった可能性が高い<sup>(註1)</sup>。石塔建立が一般化して以降、むしろ遺体埋葬地点上の目印という意味合いに変容

していった可能性もあろうが<sup>(註2)</sup>、その意味づけのされ方に関わらず、中世以降、近世・近代までこの墓上施設を用い続けるという継続性自体が重要であろう。中世末葉の段階で採用されていた「集石墓」という形式が、近世以降も本墓群の造営集団の葬送習俗として踏襲され、形式化されていったと考えられる。

遺体の処理方法も一貫して土葬を採用しているという点では変化はない。なお、Ⅰ期にみられた火葬墓1基とG4区立石1周辺の火葬骨集積(時期不明)の存在は例外的ながら遺体の処理・埋葬方法を考える上で重要な例であろう。しかし、これら以外に火葬墓は確認できないので、Ⅰ期のうちに土葬に集約されたようである。

土葬される遺体の埋葬形態はⅠ期からⅡ期までは北頭位の臥葬が主体となる。興味深いのは臥葬にいくつかのバリエーションが見られる点である。Ⅱ期・Ⅲ期にこうした多様性があったかどうかは不明だが、埋葬形態の詳細が判明したⅣ期では、右側臥屈葬20例、左側臥屈葬1例、仰臥屈葬9例、伏臥屈葬9例となり、右側臥屈葬を主体としながらも仰臥屈葬や伏臥屈葬をとる墓も決して少ない数ではないことが分かる。このことから、遺体の埋葬形態には厳密な形式性が求められていなかった可能性が考えられよう。直葬墓、木棺墓両者が混在していた可能性があることや、棺形態にいくつかのバリエーションがあったと推測されることも、埋葬方法が厳密に形式化されていなかったことを示しているといえる。

続くⅤ期になると座葬が圧倒的に主体となる。ただし、Ⅳ期とⅤ期を年代上明確に区分できているわけではないので、ある時期を境に一挙に埋葬方法が転換したとは言い切れない。実際、座葬の初現はⅤ期にみられるので、18世紀後葉以降、徐々に座葬が採用されるようになったと考えることも可能である。いずれにしても、少なくとも19世紀代にはほぼすべての墓で座葬が採用されるようになったことは間違いないだろう。こうした、臥葬から座葬への変化は本墓群の展開においてひとつの画期と考えられるだろう。この埋葬形態の変化は、土壌の形態、棺の形式など考古学的に観察できる要素を変化させ、さらには葬送儀礼の過程にも変化を生じさせたと想定できよう。

### 3. 周辺地域の近世墓調査例

以上のように本墓群の特徴をまとめてきたが、その特徴を周辺地域での近世墓の調査例と比較してみよう。山陰での近世墓の調査事例は少なく、十分な資料がそろっていないが、鳥取県西部の米子市陰田古墓群(杉谷ほか1984)、旧会見町田住桶川遺跡(北浦・中森ほか1997)と、島根県東部の安来市清水大日堂裏古墓(三宅ほか1998)、旧玉湯町半坂古墓群(柳浦・勝部ほか2006)と比較してみる。

まず、墓群の形成過程を遺跡ごとに概観してみよう。陰田古墓群ではいくつかの墓域で、増減がありながら、中世後期から近代初期まで墓が造営される。中世末から近世初期にかけてと、18世紀から近代初期にかけての墓の数が多いが、それぞれ墓域は大きく異なっている。なかでも、18世紀(特に後半)以降に形成されるB群は、新たに墓域を画定しており、狭い範囲に38基の墓が密集している。田住桶川遺跡は形成開始期が18世紀はじめごろで、19世紀初めにはその造営が終了しているようである。ここでも、18世紀後半に区画を伴って墓域が再編されているが、両者の墓域の位置的な関係は大きくは変化していない。清水大日堂裏古墓の形成開始は中世(時期的に隔絶する古代以前は除く)に遡るが、明確な時期は不明である。その中心となる時期は18世紀代で「A区西方」の造成を伴う墓域内に80基の墓が整然と密に並んでおり、それ以前の墓の分布のありようと大きく異なる。半坂古墓群は例外的なものを除いて中世末～近世初頭に墓が形成され始め、18世紀後半に墓の数が顕著に増加

している。ここでも、明瞭ではないものの、墓の増加期に墓域の形態に変化が見られる。

こうして見てみると、墓群の形成と展開には共通点が多いことが指摘できる。その形成期が門前第2遺跡と同じく中世末～近世初頭に遡るのが、陰田古墓群と半坂古墓群である。いずれもこれより古い段階の墓を少数ながら含んでいるが、中世末～近世初頭に墓の数が増え、墓群が新たに形成され始めていると考えられる。また、門前第2遺跡で見られたような18世紀後半での墓の急激な増加と墓地の再編という現象は、ほぼすべての遺跡に当てはまる。このような共通性の高い現象には、共通の社会的な背景を考えておく必要があるだろう。

続いて墓の形態や遺体の埋葬方法をみてみよう。陰田古墓群では中世後期が土坑墓、中世末～近世初頭が茶毘墓、近世前期は土坑墓、近世中期以降は座葬墓である。近世中期以降には石塔を伴う墓が見られるほか、墓上に石組みや集石をもつ墓も少数あり、小マウンドをもつ墓もある。田住桶川遺跡は18世紀前半代が一部に石塔を伴う座葬(?)墓、18世紀後半代が墓上に大型礫をもつ座葬墓である。清水大日堂裏古墓は中世には多様な遺構形態と葬法が確認できるが、中心となる近世墓のほとんどは平面形が正方形・方形で極めて深い墓壇をもつ座葬墓で、比較的古い段階から座葬がとられている。半坂古墓群は、中世末～近世初頭の墓には五輪塔や宝篋印塔が伴っていた可能性があり、18世紀後半以降の墓には石塔が伴っていたようである。埋葬形態は不明なものが多いが、18世紀後半以降の墓では臥葬、座葬の両者が見られる。

以上のことから、近世には土葬が一般的であるが、遺体の埋葬形態には特に共通性は見られず、墓上施設なども含めた墓の形態もそれぞれかなり個別的であることが分かる。共通性を積極的に抽出することも可能だが、それよりも個々の墓群が個別的な変遷を遂げているので、まずはそれぞれの変遷のあり方とその意味を跡付けていくことが重要であろう。したがって、ここでは各墓群の個別性の強さを確認するにとどめておこう。

このように、個々の墓群にはある程度の共通性が見られる一方で、個別的な特殊性も著しい。近世の墓制が、それぞれの地域社会において個別的な形態をとっていたことは容易に想像でき、またその主体となった地域社会の展開も一様ではなかったと考えられる。資料が増加すれば、山陰での近世墓制の一般性が明らかになるのかもしれないが、それよりもそれぞれの墓制の特殊性を個別地域の歴史のなかで評価することが重要だろう。墓群の形成・展開のあり方において見られた共通性も、こうした個別地域史の解明抜きには単なる現象の類似としてでしか捉えることができないだろう。(北)

## ．両墓的景観の形成と造営主体

### 1．遺跡周辺の石塔と「両墓制」

これまで確認してきたように本墓域内には石塔が見られない。石塔の普及時期から考えて、本墓群の継続期間内には石塔建立が一般化していたはずであり、近世から近代にわたる長期間、石塔を用いる墓が1基もなかったとは考えにくい。こうしたことから、本墓群の造営に際しては、「両墓制」がとられていた可能性が考えられよう<sup>(註3)</sup>。この場合、石塔は「埋葬墓地」とは異なった場所に「石塔墓地」を設けて建立されることとなるが、現在周辺にこうしたものは見られない。

近世墓の墓域となっていたG4区は現門前集落の共有地で、古い「ステバカ」として認識されていたことから、この「埋葬墓地」は近代初期までは門前集落によって利用されていたと考えられる。したがって、この「埋葬墓地」に対応する「石塔墓地」は現門前集落の墓地にある石塔によって構成さ

れていた可能性が考えられよう。

現在、門前集落の各家が利用する墓地は、遺跡の同一丘陵上に6ヶ所が営まれており、このうち3ヶ所（遺跡から50mほど北に2ヶ所、300mほど北に1ヶ所）には近世に遡る石塔がみられる。これらの墓地は近代の墓を中心とし、墓地区画などは近年整備されたようである。近世の石塔は明らかに二次的に整理されており、別の場所から移設されてきたものと思われる。以下にこれらの石塔の概要を見てみよう<sup>(註4)</sup>。

近世の石塔は3つの墓地をあわせて30基ほどしかなく、当然、相当数が散逸してしまったと思われる。銘文の年号ごとに数を示すと、寛文1基、元禄1基、正徳1基、享保1基、元文2基、明和4基、安永2基、天明3基、寛政4基、文化2基、文政2基、天保3基、弘化2基、嘉永1基、安政2基、元治1基、慶応2基となる。これらを整理すると、17世紀後葉から18世紀前半までが6基、18世紀後半が13基、19世紀代（幕末まで）が15基となる。遺跡の中近世墓群の時期では、期に対応する石塔が一定量見られ、期以降に対応するものの数が多い。18世紀後半以降の石塔数の増加は、散逸した石塔に年代上のバイアスがなければ、その普及状況を示している可能性が高いと考えられる。

では、これらの石塔は本来どこに建立されていたのだろうか。これを明らかにすることは難しいが、門前上屋敷遺跡の2次調査で石塔が出土しているので（牧本ほか2007）、ひとつの手がかりとなろう。門前上屋敷遺跡で出土したのは自然石利用の石塔竿部6基、石塔台座7基で、紀年銘が判明したもののうち、最古のものが享保五年で、他は、明和、安永、天明、天保が各1基ずつであった。古いもので18世紀前葉、ほかは18世紀後半から19世紀前半までと、年代上のあり方は丘陵上の現在の墓地と同じである。出土状況からは、門前上屋敷遺跡の調査地内に建立されていたとは考えられないが、その近隣に石塔を立てた場所があったようである。この門前上屋敷遺跡とその周辺には近世に集落が形成されていたと考えられ、これが門前第2遺跡の墓群の造営主体であった可能性が極めて高い。こうした点を積極的に評価すれば、門前第2遺跡の「埋葬墓地」に対応する「石塔墓地」は門前上屋敷遺跡周辺の集落域付近に設けられていたと推定できよう<sup>(註5)</sup>。

このように、遺跡周辺で確認できた石塔の年代を見る限りでは、石塔の受容は17世紀後葉ごろに始まり、18世紀後半以降にはかなり普及していたと考えられよう。このことから、門前第2遺跡および門前上屋敷遺跡周辺での本格的な両墓的景観の成立は18世紀後半以降と考えられる。そしてこれが近代初期まで続き、明治期のうちにほぼ解体したものと考えられよう。

また、両墓的景観の成立を、門前第2遺跡での墓群の形成過程とあわせてみると、期での墓域の画定および墓の増加と期を同じくしていることが分かる。この現象が因果関係をもって起こっていたのかどうかは不明であるが、墓制上の画期をなすことは間違いない。前段階の期には墓の数は減少するが、皆無となることはなく、同時期の石塔も一定量見られる。この時期には、中心となる墓域が別の場所にあったか、墓域としては大きくまとまらず数箇所に分散していた可能性がある<sup>(註6)</sup>。こうしたことから、両墓的景観の成立と期を同じくして埋葬地に再編が起こった可能性が考えられる。もちろん、それが意図的に行われたかどうかは不明である。いずれにしても重要なのは、結果として、画然とした共同埋葬地が形成され、両墓的景観が明瞭な形で顕在化したことにある。

「両墓制」は、「伝統的」墓制に仏教的な要素である石塔が付け加わる際に生じた墓地形態のひとつのバリエーションであると考えられている（新谷1991など）。この石塔の建立は「家」の先祖祭祀を目的とした個人的な営為であり、「家」の社会的・経済的な成長にともなう現象であるとされる。こう

したことから、石塔は従来の葬送儀礼においては異質な存在で、埋葬は石塔普及以前と同じく共同体によって行われるが、石塔建立は「家」によって行われることになる。また、埋葬にかかわる民俗事象（たとえば墓上施設）には仏教的要素が浸透してこないことが指摘されており（岩田2003）「伝統的」な墓制を継続する共同体的な規制が大きく働いていたと考えられよう。つまり、埋葬とそれにかかわる葬送儀礼は「伝統」にのっとり共同体が行い、一方の石塔建立は、仏教的要素と結合した先祖祭祀の主体である「家」が行っていた。死者祭祀におけるこの二つの主体、共同体と「家」の間での矛盾を回避する役割を担ったのが「両墓制」という墓地形態だと考えられる（白石2004）。

すでに確認したように、門前第2遺跡中近世墓群はその「伝統的」な墓制を長期間にわたって継続させていると言える。これは端的に共同体的な「伝統」の強さや、「家」に対する共同体的規制の大きさを示しているだろう。こうした共同体の影響力の大きさが、石塔受容時に本墓群が「両墓制」化した理由のひとつと考えられよう。

このように、「両墓制」とは墓制における共同体と「家」の間の矛盾の回避策であったと考えられるものの、この墓制が二つの主体間の矛盾を解消する方向には作用していないのではないと思われる。たとえば、門前第2遺跡では期の石塔普及期に埋葬地が再編されたことで、むしろ、葬送儀礼に関する共同体のコミットメントが強まったかのような様相を呈している。したがって、石塔建立の裁量権は「家」がもつ一方で、共同体が埋葬の場における主体性を低下させることは決してなかったといえよう。こうした共同体の主体性の持続こそが、「両墓制」と呼びうるまでにその墓地構成を固定化させていき、近代初期までこれを残存させた要因であったろう<sup>(註7)</sup>。

## 2. 中近世墓群の造営主体

先述のように、門前第2遺跡の中近世墓群の造営主体は門前上屋敷遺跡周辺に存在したと推定される集落であったと考えられる。門前上屋敷遺跡は中世前期以降、何回かの再編を伴いながら集落が継続して形成されているが、発掘調査では16世紀以降の具体的な集落の様相は明らかにしえなかった。ただし、集落自体が中世末葉から近世にかけても継続していたのはほぼ確実と思われ、中世前期から14世紀ごろにかけて営まれた有力者層の屋敷地などを含む集落から、今日に続く「農業集落」的な集落へと変化を遂げていったと考えられる。

少なくとも共同墓地の成立した16世紀には門前上屋敷遺跡周辺にこうした集落が形成されていたと言えよう。この集落は、中世末葉に成立しており、近世を通して継続していることから、「近世的」な「村」としてとらえられよう。一般に、近世につながる生産・再生産の単位としての村共同体は14、15世紀以降形成されていったとされており、16世紀末から17世紀初めごろには近世的な支配体制の元に置かれてその完成を見るという（大藤2003・渡辺2004など）。もちろん、地域差なども相当大きかっただろうから、個別に実証する必要があるだろうが、こうした大筋の流れは門前第2遺跡や門前上屋敷遺跡で推察される集落の様相と矛盾はしないと思われる。

このように、門前第2遺跡の中近世墓群の造営主体は、中世前期から続く門前上屋敷遺跡周辺集落が中世末葉に再編されたことで形成された近世的な小村落共同体であったと考えられる。（北）

## ・ 門前第2遺跡における中世～近代墓副葬品の様相

門前第2遺跡では第4・5章でみたように、中世から近代にかけての墓を188基検出した。これら多様な要素をもつ調査成果の中から、ここでは出土した遺物、とくに被葬者への副葬品と考えられる遺物を中心として、以下に若干の考察を行う。

### 1. 中世墓

中世墓と判断したものは全部で56基あるが、そのうちF区検出の墓1については時期的な連続性がないため、ここでは除外する。

#### 【錢貨】

出土遺物の中でもっとも目立つのは錢貨である。確認できた限りでは寛永通寶を含まず、いわゆる渡来錢のみで構成される。そして錢貨出土は25基(45.5%)であり、ほぼ半分の墓にみられることになる。その枚数をみても、半数の12基が6枚であった。4枚が3基、5枚が2基あったほかはいずれも1基ずつであり、「6枚」という枚数がかなり意識されていたことが窺える。

つぎにその出土状況についてみていこう。出土した錢貨のほぼすべてが、一部ないしは全部接着した状態であり、底面近くからみついている。このうち土壌中央が12例と約半数、中央より北側にあるものは9例と、中央から北側にかけて分布する傾向が強い。埋葬体位が判明しているものが少ないため明確なことはいえないが、墓42や44は頭を北にした臥葬であると考えられること、また本期の土壌形態がA群に位置づけられ、近世以降の同形態土壌からも同様の臥葬人骨が検出されていることから、概ね同様の埋葬体位を採っていたと判断できよう。つまり錢貨は、頭部から腹部にかけての範囲にあると見なせるであろう。さらにこれらは、積み重なった状態で出土しており、なかには4例だけではあるが、漆器上に置かれたと考えられるものもみつかった。墓3・6・44は中央部、墓46は中央北側の頭蓋骨近くであった。これら以外では検出できなかったが、同様に漆器に載せていたものがほかにあった可能性は十分考えられよう。とくに2群北側(G3区)の土壌では、錢貨が出土した7基とも底面上に積み置いたかのような様子を呈している。

なお1群(G5区)では、a群1、b群1、c群2基がみられ、その分布は墓域北側の墓に集中している。1・2群ともに見出せるこの傾向は、相互の関連性の強さを示すのかもしれない。

#### 【土器類】

土器類は12基から出土しているが、その状況から大きく土壌上位以上と底面に2分される。このうち7例が1点のみで、複数点数出土するものをやや上回る。

さて、これら土器類の種類には材質および技法から以下の3種がある。すなわち京都系土師器皿3例、回転台成形土師器皿・杯8例、唐津産陶器皿1例である。前二者には1基から複数出土する場合があるが、京都系は京都系、回転台は回転台というように、異なる種が共伴することはない。これが時期差を示すものなのか、葬法によるものかは現状では判断できない。

以上、錢貨と土器類についてみたが、これらの組み合わせとなると、京都系については全て錢貨が伴う。しかし回転台系にはわずか1例しかなく、それも16枚が接着したやや特殊なものであった。このように土師器と錢貨の関係についても、土器形態の違いにより差異が見出せたが、これら土器類が出土したのものには、漆器が伴わないということも特徴として挙げられ、こうした供膳具のもつ意味(役割)についても検討していく必要がある。

## 2. 近世以降の墓

近世以降としたものは132基を数える。これらについてはその墓の形態からA～D類に分類したが、これをもとに各遺物相をみていくこととしよう。

### 【銭貨】

やはり中世同様、副葬されるものの中でもっとも多いのが銭貨である。その副葬率をみていくと、A類(26例<68.4%>)とB類(36例<73.5%>)の二者が非常に高く、一方C類(11例<37.9%>)とD類(2例<22.2%>)が低いという顕著な差が見て取れる(その他不明2例<28.6%>)。またその銭種についてみると、A類では新寛永(文銭以外)と鉄銭を含むものがそれぞれ11基ずつと大半を占める。B類では鉄銭が20基と多数で、ついで新寛永が12基となる<sup>(註8)</sup>。C類では鉄銭を含むものが9基で、銅銭のみで構成されるものは非常に少ない。こうした傾向は、概ねそれぞれの墓の形態が時期的な流れを示しているともいえるであろう。

さてその出土状況を見ると、銭貨だけが接着したものと、鉄などと接着したものがある。いずれも布などが付着している例が多く、布にくるまれていたのである。とくに後者の場合、頭陀袋に入れて死者の首から提げていた可能性が高い。

また銭貨のなかには、棺材と考えられる木片が接着しているものがみられる。これは墓167のように土壌底面から出土しており、棺直上に積み置かれたものであろう。また木片はないものの、墓158などのように底面中央から出土するものも同様の可能性が考えられよう。こうした例は土壌形態別では、A・C類では5基ずつ、B類では1基となっており、深いタイプのものに多い傾向が窺える。

### 【刃物類】

刃物類としては、鎌と鋏が主なものである。しかしこれらは後述するように出土状況が異なるため、それぞれを分けて検討する。

まず鎌であるが、A類11、B類19、C類8、D類4例と銭貨に次いで各類型から出土している。とくにB類において、約50%の比率をもつことは注目されよう。さて、これらの出土地点をみると、

- ①標石から土壌上面にかけて
- ②頭蓋骨など人骨上やその周辺といった、底面よりやや浮いたところ
- ③土壌底面

という3ヶ所に分けられる(表7)。①については、現在でも大山町(旧中山町)樋口の「両墓制」埋葬墓地にある、標石脇に鎌を立てる例(写真)と同様の行為がなされていたと考えられよう。また②についても、土壌上層にあったものが落ち込んできた状態が考えられ、例えば棺の上面に置かれていたということも想像できるのではなかろうか。このように、土壌上層にあったものは出土例の6割弱を占める。しかし一方、底面近くから出土した例が4割強ある。



写真 大山町樋口の「墓上鎌」

表7 土壌形態別にみた副葬状況

|         | 銭貨 |    |    |    |    |    | 煙管 | 鉄  | 毛抜 | 鎌  |      |    |    |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|
|         | Ⅱ期 | Ⅲ期 | Ⅳ期 | Ⅴ期 | Ⅵ期 | 小計 |    |    |    | 上面 | 頭上など | 底面 | 小計 |
| A類(38基) | 3  | 1  | 11 | 11 | 0  | 26 | 6  | 8  | 3  | 3  | 5    | 3  | 11 |
| B類(49基) | 1  | 2  | 12 | 20 | 1  | 36 | 17 | 14 | 4  | 8  | 2    | 9  | 19 |
| C類(29基) | 0  | 1  | 1  | 9  | 0  | 11 | 2  | 0  | 0  | 1  | 4    | 3  | 8  |
| D類(9基)  | 0  | 0  | 1  | 1  | 0  | 2  | 2  | 0  | 0  | 0  | 1    | 3  | 4  |

このうち人骨より離れた位置から出土したものについては、上からの落ち込みの可能性もあるだろう。しかし、墓171・172のように座葬の大腿骨下から出土するものについては、埋葬前にその位置にあったことはほぼ間違いない。つまり後述する鋏と同様、死者の近くに置いたものと考えられよう。

次に鋏についてみる。もっとも特徴的なことは、A類で8例、B類で14例と鎌とそれほど違いがないほどの出土数ながら、C・D類ではD類で1例あるのみという点である。C・D類はその大半が座葬であるが、鋏が出土したD類の1例（墓173）というのは臥葬である。そうした葬法が関係するのであろうか。

なお鋏は布が付着していたり、銭貨と接着していたりする例が多く、銭貨のところでも述べたとおり、頭陀袋に入れて首から提げていたのであろう。

### 【煙管】

鎌や鋏などの刃物類について出土量の多いのが煙管である。A類で6、B類17、C・D類は2点ずつとなっており、B類において出土率が高い。またこれらの被葬者の性別をみると、男性にはA類5、B類9（男性か？というものも1例含む）、C・D類各2例となり、A・C・D類においてはほぼ男性で占められている。しかしB類では女性が6例あること、さらに10歳程度の未成年者へも副葬されていることは注目されよう。こうした若年層への副葬については南部町（旧会見町）田住桶川遺跡においても例（北浦・中森ほか1997）があり、必ずしも普遍的ではないにしろ、煙管副葬への意図が感じられよう。

また、今回の調査で火打金・火打石が確認されたが、確実に副葬品と認められる4例については、いずれも煙管が伴っていた。これなどは、被葬者の生前における愛用品であった可能性も考えられよう。

## 3. おわりに

以上副葬品を中心として、その様相について概観してきた。全体を通してみると、やはり銭貨がもっとも多いといえよう。それは中世の段階からほぼ一定している。その初期においては銭貨のみだったものが、近世中期になり鋏や煙管が加わってくる。この3点をかつてトラベル・セットとして、死者の旅立ちに際しもたせる共通アイテムと捉えたことがある（中森1997・2004）。本遺跡でもこのセットが10例みられ、またこの3点のうち2点ずつの組み合わせとなると24例ある<sup>(註9)</sup>ように、ある程度普遍性があるものと捉えられよう。

一方で銭貨については、死者の首から下げる頭陀袋へ入れたものだけでなく、棺底あるいは土壌底面に置かれたと考えられるものが見出せた。中世においてとくに多く、なかには漆器皿へのせたものもあった。近世以降では事例が減るものの土壌の深いタイプにこの例がまとまってみられ、単なる副葬ではなく、土壌を清めるなどの行為があった可能性もあろう。また、同じものであっても違う意味がもたらされていたのは鎌である。その出土状況からは土壌上層にあったものと、死者に近い位置にあったものとの二つに大別できた。

このように、遺物ひとつをとっても複雑な内容をもつ可能性があることがわかった。ただしこうした分析を行なうためには、当然ながら調査時におけるデータをどのようにとっているかが問題となる。限られた時間のなかで本例を十分分析しえたとは到底いえないが、ひとつの視点は得られたと思っている。これをもとに、今後は他遺跡の事例と比較しながら、考察を深めていきたい。（中森）

表8 中近世墓出土遺物一覧表(1)

| 墓番号 | 土師器            | 陶磁器 | 銭貨      | 銭貨の分類 | 鎌  | 鋏 | 毛拔 | 煙管   | その他 | 釘  | 土壙形態 | 埋葬形態 | 時期        | 年齢      | 性別 |
|-----|----------------|-----|---------|-------|----|---|----|------|-----|----|------|------|-----------|---------|----|
| 墓2  |                |     | 6       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓3  | 上面(皿1)         |     | 6       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓4  |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | その他  | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓5  |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓6  |                |     | 6(+上層1) | I     |    |   |    |      | 漆器? |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓7  |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | その他  | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓8  |                |     | 6       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓9  |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A?   | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓10 | 下部(杯2)         |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓11 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓12 |                |     | 6       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓13 | 上面?・上層(杯3・火鉢1) | 上面? | 16      | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓14 | 上面(皿2?)・底面(皿1) |     | 6       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓15 |                |     |         |       |    |   |    |      | 和紙  |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓16 |                |     | 10      | I?    |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓17 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓18 | 中位(杯1)         |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓19 |                |     | 9       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓20 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓21 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓22 | 上面(杯1)         |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓23 |                |     | 6       | I     |    |   |    |      | 櫛   |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓24 |                |     | 4       | I     |    |   |    |      | 漆器? |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓25 |                | 上面? |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓26 | 底面(杯2)         |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A?   | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓27 |                |     | 8       | I     |    |   |    |      |     |    | その他  | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓28 |                |     | 4       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓29 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓30 |                |     | 11      | I     | ○  |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓31 |                |     | あり      | ?     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓32 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A?   | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓33 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | B    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓34 |                |     | 5       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓35 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A?   | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓36 |                |     | 22      | I     |    |   |    |      |     |    | B?   | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓37 |                |     | 4       | I     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓38 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓39 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓40 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | その他  | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓41 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓42 |                |     | 6       | I     |    |   |    |      |     |    | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓43 |                |     | 6       | I     |    |   |    |      |     | 2  | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓44 |                |     | 6       | I     |    |   |    |      | 漆器? | 28 | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓45 |                |     | 6       | I     |    |   |    |      |     | 33 | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓46 |                |     | 6       | I     |    |   |    |      | 漆器? | 29 | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓47 | 底面(皿1)         |     | 5       | I     |    |   |    |      |     | 8  | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓48 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | AorB | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓49 | 底面(皿3)         |     | 12      | I     |    |   |    |      |     | 3  | A    | 臥葬?  | I         | 成人      | 不詳 |
| 墓50 | 底面(杯1)         |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A?   | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓51 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓52 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | その他  | 臥葬?  | I         |         |    |
| 墓53 |                |     |         |       | ○  |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | III?      | 壮年～熟年   | 女  |
| 墓54 |                |     | 4       | V     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | III       | 壮年後半    | 女  |
| 墓55 |                |     | 2       | III   | ○  | ○ | ○  |      | 数珠玉 |    | A    | 臥葬?  | III?      | 青年～壮年前半 | 女  |
| 墓56 |                | 上層  | 5       | III以降 |    | △ |    | △:V  |     |    | A    | 臥葬?  | III       | 青年      | 女  |
| 墓57 |                |     | 6       | IV    |    |   |    |      |     | 2  | A    | 臥葬?  | III       | 壮年      | 女  |
| 墓58 |                |     | 4       | V     |    |   |    |      | 鉄製品 |    | A    | 臥葬?  | III       | 壮年後半～熟年 | 男  |
| 墓59 |                |     | 6(+上層5) | V     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | III       | 熟年      | 男? |
| 墓60 |                |     | 4       | V     |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | III       | 熟年～老年   | 女  |
| 墓61 |                |     | 3       | IV    |    |   |    |      | 櫛   | 2  | A    | 座葬   | III       | 熟年～老年   | 男  |
| 墓62 |                |     |         |       |    |   |    |      |     |    | A    |      | III       |         |    |
| 墓63 |                | 上面  | 6       | V     |    | ○ |    | ○:V  |     | 6  | A    | 座葬   | III       | 壮年      | 男  |
| 墓64 |                |     | 1(混入)   | V     |    |   |    |      |     | 2  | A    |      | III       | 壮年      | 女  |
| 墓65 |                |     | 1(上層)   | III   |    |   |    |      |     |    | A    |      | II or III |         |    |
| 墓66 | 上面             |     | 15      | V     | 上面 |   |    | 混入:V |     | 6  | A    | 座葬   | III or IV | 熟年      | 女  |
| 墓67 |                |     | 12      | IV    | ○  | ○ |    |      | 刀子  | 21 | A    | 臥葬?  | II?       | 壮年前半    | 女  |
| 墓68 |                |     |         |       |    |   |    |      |     | 1  | A    | 臥葬?  | IV        | 壮年      | 男  |
| 墓69 |                |     |         |       | ○  |   |    |      |     |    | A    |      | II or III |         |    |
| 墓70 |                |     | 6       | V     |    |   |    |      |     | 14 | A    | 臥葬?  | III       | 壮年後半～熟年 | 女  |
| 墓71 |                |     | 8       | IV    | ○  |   |    |      |     | 1  | A    | 臥葬?  | III       | 壮年後半～熟年 | 女? |
| 墓72 |                |     | 3       | II    |    |   |    |      |     |    | A    | 臥葬?  | II?       | 壮年後半～熟年 | 女  |
| 墓73 |                |     | 1(混入?)  | II    |    |   |    | △:VI | 火打金 | 1  | A    | 臥葬?  | IV        | 熟年      | 男  |
| 墓74 |                |     | 7       | V     |    | ○ |    | ○:V  | 数珠玉 |    | A    | 臥葬?  | III       | 壮年      | 男  |

表8 中近世墓出土遺物一覧表(2)

| 墓番号  | 土師器 | 陶磁器 | 銭貨       | 銭貨の分類 | 鎌     | 鋏  | 毛抜 | 煙管     | その他       | 釘     | 土壇形態 | 埋葬形態 | 時期        | 年齢        | 性別 |
|------|-----|-----|----------|-------|-------|----|----|--------|-----------|-------|------|------|-----------|-----------|----|
| 墓75  |     |     | 6        | V     |       |    |    |        |           | 1     | A    | 臥葬   | III       | 熟年        | 女  |
| 墓76  |     |     |          |       |       |    |    |        |           | 9     | A    |      | II or III | 成人        | 不詳 |
| 墓77  |     |     | 5        | V     |       |    |    |        |           | 14    | A    | 臥葬   | III       | 成人        | 女? |
| 墓78  |     |     | 6        | V     | 上層    | ○  |    |        |           |       | A    | 臥葬   | III       | 壮年        | 不詳 |
| 墓79  |     |     | 1        | II    |       |    |    |        |           |       | A    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年   | 不詳 |
| 墓80  |     |     | 37       | IV    | ○     | ○  | ○  |        | 数珠玉       | 40    | A    | 臥葬   | II?       | 熟年        | 男  |
| 墓81  |     | 上層  |          |       |       |    |    |        |           |       | A    |      | III       | 成人        | 不詳 |
| 墓82  | 上層  |     | 12       | IV    | 上層・底面 |    |    |        | 毛髪        |       | A    | 座葬   | III       | 熟年        | 女  |
| 墓83  |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | A    |      | II or III |           |    |
| 墓84  |     |     | 10       | IV    |       | ○  |    |        |           | 1     | A    | 臥葬   | III       | 壮年        | 男  |
| 墓85  |     |     | 4        | III   |       |    |    |        |           | 7     | A    | 座葬   | III       | 壮年後半~熟年前半 | 男  |
| 墓86  |     | 上面  | 1(混入)    | IV    |       |    |    |        |           |       | A    |      | III       | 壮年~熟年     | 男  |
| 墓87  |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | A    |      | III以前     |           |    |
| 墓88  | 上面  |     | 6        | IV    | 上面    | ○  |    | ○:V~VI | 櫛         | 1     | A    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓89  | 上面  |     | 6        | IV    |       |    |    |        |           |       | A    |      | II or III | 不詳        | 不詳 |
| 墓90  |     |     | 2        | ?     | ○     |    |    | ○:V    | 火打金       |       | A    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓91  |     | 下部  |          |       |       |    |    |        |           |       | A    |      | I         | 壮年        | 女? |
| 墓92  |     |     | 2(+上層3)  | V     |       |    |    |        |           |       | B    |      | III       |           |    |
| 墓93  |     |     | 6        | III以降 | ○     | ○  |    |        |           |       | B    |      | III       | 成人        | 男? |
| 墓94  |     |     | 6        | V     | ○     |    |    | ○:V    |           |       | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半      | 男  |
| 墓95  |     |     | 6        | V     | ○     | ○  |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III       | 壮年        | 女  |
| 墓96  |     |     |          |       | ○     |    |    | △:V    |           |       | B    |      | III       |           |    |
| 墓97  |     |     |          |       | ○     |    |    | ○:V    |           |       | B    | 臥葬   | III       | 成人        | 女  |
| 墓98  |     | 上面  | 9        | V     | 上面    | ○  |    | ○:V    |           | 13    | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年前半 | 女  |
| 墓99  |     |     |          |       | △     |    | △  | △:V    |           |       | B    | 臥葬   | III       | 壮年        | 女  |
| 墓100 |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | B    |      | III以前     |           |    |
| 墓101 |     |     | 8(+上層2)  | IV    |       |    |    |        |           | 1     | B    |      | III?      | 成人        | 男? |
| 墓102 | 上面  | 上面  | 1        | II    |       |    |    | ○:V新   |           | 3     | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓103 |     |     | 2        | III以降 | 上面    |    |    |        |           | 6     | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓104 |     |     | 11       | V     |       |    |    | △:?    |           | 3     | B    | 臥葬   | III       | 壮年        | 男  |
| 墓105 |     |     | 11       | V     |       | ○  |    | ○:V    | 櫛         | 1     | B    | 臥葬   | III       | 10才程度     | 不詳 |
| 墓106 |     |     |          |       |       |    |    |        | 火打金(混)    | 1     | B    |      | III       | 2体(熟年、成人) | 女2 |
| 墓107 |     |     | 7        | V     | 上面    |    |    | ○:V    |           | 1     | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年   | 男  |
| 墓108 |     |     | 4        | IV    | ○     |    |    | ○:V    |           | 16    | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年   | 女  |
| 墓109 |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III?      | 壮年        | 女  |
| 墓110 |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | B    |      | III?      |           |    |
| 墓111 |     | 底面  | 10       | IV    | ○     |    |    |        |           |       | B    |      | II?       | 壮年        | 不詳 |
| 墓112 |     |     | 7        | IV    |       |    | ○  | ○:V    |           | 18    | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓113 |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | B    |      | III?      | 成人        | 不詳 |
| 墓114 |     |     | 7        | IV    |       | ○  |    | ○:V    | 包丁        | 4     | B    |      | III       |           |    |
| 墓115 | 上面  |     | 6        | V     | ○     |    |    |        |           | 1     | B    | 臥葬   | III       | 壮年        | 女  |
| 墓116 |     |     |          |       |       | △  |    |        |           | 1     | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓117 |     |     | 8        | IV    | ○     |    |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III       | 成人        | 不詳 |
| 墓118 |     |     | 4        | V     | 上面    |    |    |        |           | 2     | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年   | 男  |
| 墓119 |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | B    |      | III?      |           |    |
| 墓120 |     | 上層  | 1(混入?)   | II    | ○     |    |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III?      | 壮年~熟年前半   | 男  |
| 墓121 |     |     | 6        | V     |       | ○  |    |        |           | 2     | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年   | 男  |
| 墓122 |     |     | 6        | V     |       | ○  |    |        | 櫛         |       | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 女  |
| 墓123 |     |     | 7        | V     |       | ○  |    | △:V    | 数珠玉       |       | B    | 臥葬   | III       | 熟年~老年     | 男  |
| 墓124 |     |     | 10(+上層1) | V     |       | ○  | ○  |        | 数珠玉       | 4     | B    |      | III       |           |    |
| 墓125 |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | B    |      | III?      | 成人        | 女? |
| 墓126 |     |     |          |       |       |    |    |        |           |       | B    |      | ?         |           |    |
| 墓127 |     |     | 5        | 近代    |       | ○  |    |        | 懐中時計・体温計他 | 92(洋) | B    | 臥葬   | IV        | 老年        | 女  |
| 墓128 |     |     | 17       | IV    | 上面    |    |    |        |           |       | B    |      | III       | 成人        | 不詳 |
| 墓129 | 上面  |     | 18       | V     |       | ○  | ○  | ○:V~VI | 刀子        |       | B    | 臥葬   | III       | 熟年~老年     | 女? |
| 墓130 | 上面  |     | 6        | V     | ○     | △  |    |        |           | 1     | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年   | 女  |
| 墓131 |     |     | 6        | IV    |       |    |    | ○:IV~V |           | 3     | B    | 臥葬   | III       | 熟年~老年     | 女  |
| 墓132 |     |     | 5        | IV    | ○     |    |    | ○:V    |           |       | B    | 臥葬   | III       | 成人        | 男  |
| 墓133 | 上面  |     | 5        | V     |       |    |    |        |           | 3     | B    | 臥葬   | III       | 壮年後半~熟年   | 男? |
| 墓134 |     |     | 6        | IV    |       |    |    | ○:V~VI |           | 4     | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男? |
| 墓135 |     |     | 4        | V     |       | ○  | ○  |        |           | 30    | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓136 | 上面  |     | 1        | IV    |       | △  |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III       | 壮年        | 女  |
| 墓137 |     |     | 5        | V     |       |    |    |        | 櫛         |       | B    | 臥葬   | III       | 熟年        | 男  |
| 墓138 |     |     |          |       |       |    |    | ○:V    | 火打金・石     |       | B    | 臥葬   | III       | 老年        | 男  |
| 墓139 |     |     | 6(+上層1)  | V     | ○     |    |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III       | 壮年        | 女  |
| 墓140 |     |     | 5        | V     |       |    |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III       | 成人        | 女  |
| 墓141 |     |     | 6        | IV    |       | ○  |    |        |           |       | B    | 臥葬   | III       | 壮年        | 男  |
| 墓142 |     |     | 5        | IV    |       |    |    |        |           | 12    | C    | 座葬   | IV        | 壮年        | 女  |
| 墓143 |     |     | 8        | V     |       | 上層 |    |        | 鉄鍋・漆器・玉   | 4     | C    | 座葬   | IV        | 壮年        | 女  |
| 墓144 | 上面  |     |          |       | 上面    |    |    |        | コハゼ       | 18(洋) | C    | 座葬   | IV        | 熟年~老年     | 女  |

表8 中近世墓出土遺物一覧表(3)

| 墓番号  | 土師器    | 陶磁器 | 銭貨      | 銭貨の分類 | 鎌 | 鋏 | 毛抜 | 煙管    | その他     | 釘     | 土壌形態 | 埋葬形態 | 時期        | 年齢        | 性別 |
|------|--------|-----|---------|-------|---|---|----|-------|---------|-------|------|------|-----------|-----------|----|
| 墓145 |        |     | 6(+混入)  | V     |   |   |    |       |         | 5     | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半～熟年前半 | 男  |
| 墓146 |        |     | 4(+上層5) | V     | ○ |   |    |       |         | 36    | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半      | 男  |
| 墓147 |        |     |         |       | ○ |   |    |       |         | 2     | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半～熟年   | 女  |
| 墓148 |        |     | 4(上層)   | V     | ○ |   |    |       | かんざし    |       | C    | 座葬   | IV        | 壮年        | 女  |
| 墓149 |        |     | 1(混入)   | ?     |   |   |    |       |         |       | C    | 座葬   | IV        | 熟年        | 女  |
| 墓150 |        |     | 6       | V     |   |   |    |       |         | 13    | C    | 座葬   | IV        | 熟年        | 男  |
| 墓151 |        |     |         |       | ○ |   |    |       |         | 16    | C    | 座葬   | IV        | 熟年        | 男  |
| 墓152 |        |     | 6       | V     | ○ |   |    |       |         | 17    | C    | 座葬   | IV        | 熟年        | 男  |
| 墓153 |        |     | 6(+混入6) | III以降 | ○ |   |    |       |         | 6     | C    | 座葬   | IV        | 熟年～老年     | 男  |
| 墓154 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | ?    |      | IV以前      | 12才程度     | 女  |
| 墓155 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | C    | 座葬   | IV        | 壮年        | 女  |
| 墓156 |        | 上層  | 6       | V     |   |   |    | △:V   |         | 4     | C    |      | III       | 壮年        | 不詳 |
| 墓157 |        |     |         |       | ○ |   |    |       |         | 1     | C?   |      | III       | 成人        | 不詳 |
| 墓158 |        |     | 6(+上層1) | V     |   | △ |    | ○:V   |         | 2     | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半～熟年   | 男  |
| 墓159 | 下部     |     |         |       |   |   |    |       |         |       | C    | 座葬   | IV        | 壮年        | 女  |
| 墓160 |        |     | 1(混入)   | IV    |   |   |    |       |         | 30(洋) | C    | 座葬   | IV        | 熟年        | 男  |
| 墓161 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | C?   |      | IV?       | 壮年～熟年     | 女  |
| 墓162 |        |     |         |       |   |   |    |       |         | 20(洋) | C    | 座葬   | IV        | 壮年        | 男  |
| 墓163 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | C    |      | IV?       |           |    |
| 墓164 |        | 上層  |         |       |   |   |    |       |         |       | C    | 座葬   | IV        | 壮年        | 女? |
| 墓165 |        |     | 3(混入)   | II    |   |   |    | 混入:VI |         | 34(洋) | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半      | 女  |
| 墓166 |        | 上面  |         |       |   |   |    | ○:VI  |         | 15    | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半      | 男  |
| 墓167 |        |     | 5       | V     |   |   |    |       |         |       | C    | 座葬?  | IV        | 熟年        | 男  |
| 墓168 |        | 上層  | 6       | V     |   |   |    |       |         | 3     | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半～熟年   | 女  |
| 墓169 | 上面     |     | 上層4(混入) | IV    |   |   |    |       |         |       | C    | 座葬   | IV        | 壮年後半～熟年   | 男  |
| 墓170 |        | 上層  |         |       |   |   |    |       |         |       | C小型  |      | IV        |           |    |
| 墓171 |        | 上面  |         |       | ○ |   |    | 刀子    |         |       | D    | 臥葬?  | ?         | 壮年        | 女  |
| 墓172 |        |     |         |       | ○ |   |    |       |         | 5     | D    | 座葬   | IV        | 熟年        | 男  |
| 墓173 |        |     | 6(+混入1) | V     | ○ | ○ |    | ○:V   | 火打金・数珠玉 |       | D    | 臥葬   | III       | 成人        | 男? |
| 墓174 |        |     |         |       |   |   |    |       |         | 5     | D    |      | III以前     |           |    |
| 墓175 |        |     |         |       | ○ |   |    | ○:VI  |         | 76(洋) | D    | 座葬   | IV        | 壮年後半～熟年   | 男  |
| 墓176 |        | △   | 3       | ?     |   |   |    |       |         | 2     | D    | 座葬   | IV        | 壮年～熟年     | 不詳 |
| 墓177 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | D    | 座葬   | IV        | 壮年後半～熟年前半 | 男  |
| 墓178 |        | 上面  |         |       |   |   |    |       |         |       | D小型  |      | ?         |           |    |
| 墓179 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | D小型  |      | ?         |           |    |
| 墓180 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | ?    |      | II or III |           |    |
| 墓182 |        |     | 2(上層)   | IV    |   |   |    |       |         |       | ?    |      | II or III |           |    |
| 墓183 |        |     |         |       |   |   |    | 漆器?   |         |       | ?    |      | II or III | 熟年～老年     | 女  |
| 墓184 |        |     | 3(+上層6) | IV    |   |   |    |       |         | 3     | ?    |      | II or III | 成人        | 男  |
| 墓185 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | ?    |      | II or III | 成人        | 女  |
| 墓186 |        |     | 6       | II以降  |   |   |    |       |         |       | ?    |      | II or III | 壮年後半～熟年   | 男? |
| 墓187 |        |     |         |       |   |   |    |       |         |       | AorB | 臥葬   | I         | 壮年～熟年     | 不詳 |
| 墓188 | 底面(皿1) |     |         |       |   |   |    |       |         |       | AorB | 臥葬?  | I         |           |    |

凡 例

○:出土あり

△:破片が出土したも(煙管の場合は雁首か吸ロー一方のみ出土の場合)。混入の可能性が高い  
「上面」・「上層」:墓の上面、上層で出土したものがあ場合。

時期については本文参照

I:16世紀～17世紀前葉 III:18世紀中葉～後葉  
II:17世紀中葉～18世紀前葉 IV:19世紀代以降

土器・陶磁器は出土位置を示した。

供献、副葬、混入それぞれの場合を含む。

その他には副葬品と考えられる主なものを記載した。

銭貨の分類は鈴木公雄(1988ほか)による六道銭の分類

I:渡来銭のみ IV:最新銭が新寛永(文銭除く)

II:最新銭が古寛永 V:最新銭が鉄銭

III:最新銭が文銭

煙管のローマ数字は古泉編年(古泉1983)

IV:18c前半

V:18c後半 (I～IIIは出土なし)

VI:19c

## 註

- (1) 最も一般的な土壌を覆うように多数の礫が組まれた標石や、墓151のように土壌の中心と四隅を押さえるように礫が配置されるものなどからは、土壌の上を「封じる」という意図を読み取れないだろうか。
- (2) 後述する「両墓制」墓地の埋葬地上にしばしば置かれる自然石が民俗語彙では「メアテイシ」などと呼ばれているが(坂田1995)、この名称はその意味が変容した結果を端的に示していると考えられる。なお、近隣に見られる「両墓制」埋葬墓地では現在では実際に自然石を石塔風に樹立したりして、文字通り標石として機能している場合も多い。
- (3) 「両墓制」とは民俗学用語で、「死体を埋葬する墓地とは別の場所に石塔を立てる墓地を設ける墓制」(新谷・関沢編2005)を指す。現在でも民俗事象として「両墓制」墓地が鳥取県中・西部に多く分布しており、大山町域にも現行例が確認されている(坂田1995)、これらは、墓域の構成のされ方にいくつかのパターンが見られ、埋葬墓の形態にも様々なバリエーションがあるが(坂田1995)、旧名和町西高田や旧大山町飯戸などは、本遺跡例とよく類似した礫集積を伴う埋葬墓が用いられている。なお、この「両墓制」概念には多くの問題点が指摘されており(岩田2003・2006、新谷2003など)、その用語の放棄を意図した議論もある(岩田2006)。こうした議論は非常に説得力があり、今後こうした方向で研究が進展することは間違いないだろうが、民俗学に不案内な筆者にはこの問題を整理する能力はないため、ここでは説明に便利な「両墓制」の用語を使うこととする。
- (4) 本来ならば墓地ごとにすべての石塔について形式、銘文の一覧を作るべきであったろうが、時間的な制約もありはたせなかった。また、近隣地域墓地の石塔についても同様の調査をすることが望ましいと思われるが、これも行えなかった。ただし、近隣地域の墓地を概観する限り、遺跡周辺墓地の石塔の様相と大きな違いはないようである。
- (5) 単に集落付近に建立されたと推定したが、それが実際にはどういった単位でどのような形態の「石塔墓地」を形成していたかの追及はきわめて重要となろう。ただし、それを明らかにしうる資料は現状では見出せない。
- (6) 同じ丘陵上にもう一箇所「ステバカ」があるので、そこにはこの時期の墓があるのかもしれない。
- (7) 石塔がそれまでの墓制に後出的に付け加わるということは、石塔普及開始期には程度の差はあってもほとんどの墓地が両墓制の景観を形成していたといえよう。実際、大和地域では発掘調査事例などからこれが明らかにされている(白石2004)。そうであるなら、「両墓制」成立の問題は石塔普及初期にあるのではなく、石塔が普及した後に石塔と埋葬地をどのように再構成したかが問題になると思われる。こうした意味で、門前第2遺跡でのあり方は非常に興味深いものといえるが、石塔墓地の形成のされ方が実際には全く不明なため、期の埋葬地再編にもそこまでの意味をもたせられるか問題が残ろう。
- (8) ただしA群で1、B群で3基は新寛永を含む銅銭のみで構成されながら鉄銭をもつ墓を切っており、鉄銭がなくても時期的に下るものがあることを示している。
- (9) 先述のように鎌についても意味合いが違うものがあり、鉄同様に死者への副葬とあれば、この数はさらに増える。

## 【引用参考文献】

- 岩田重則2003『墓の民俗学』、吉川弘文館
- 岩田重則2006『お墓の誕生』、岩波書店
- 大藤 修2003『近世村人のライフサイクル』、山川出版社
- 北浦弘人・中森 祥ほか1997『小町石橋ノ上遺跡・朝金第2遺跡・田住桶川遺跡・田住第8遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書52
- 坂田友宏1995『神・鬼・墓 - 因幡・伯耆の民俗学的研究 -』、米子今井書店
- 白石太一郎2004「中・近世の大和における墓地景観の変遷とその意味」『国立歴史民俗博物館研究報告』112、国立歴史民俗博物館
- 新谷尚紀1991『両墓制と他界観』、吉川弘文館
- 新谷尚紀2004「村落社会と社寺と墓地」『国立歴史民俗博物館研究報告』112、国立歴史民俗博物館
- 新谷尚紀・関沢まゆみ編2005『民俗学小事典 死と葬送』、吉川弘文館
- 杉谷愛象ほか1984『陰田』、米子市教育委員会
- 中森 祥1997「田住桶川遺跡における近世墓の様相」『小町石橋ノ上遺跡・朝金第2遺跡・田住桶川遺跡・田住第8遺跡』
- 中森 祥2004「山陰における近世墓出土の銭貨」『山陰の出土銭貨』
- 牧本哲雄・家塚英司・野口良也・玉木秀幸ほか2007『門前上屋敷遺跡・門前鎮守山城跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書17
- 森本倫弘編2005『門前上屋敷遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書105、(財)鳥取県教育文化財団
- 三宅博士・金山尚志・永見英1998『清水大日堂裏古墓発掘調査報告書』、安来市教育委員会
- 柳浦俊一・勝部智明ほか2006『松才遺跡 真野谷 遺跡 半坂古墓群 宮ノ前遺跡 正源寺遺跡 面白谷遺跡』、鳥根県教育委員会
- 渡辺尚志2004「村の世界」『日本史講座 5 近世の形成』、東京大学出版会

## 第2節 門前第2遺跡の変遷と周辺遺跡

門前第2遺跡（菖蒲田地区）は2度の調査によって縄文時代から近世に至る遺構、遺物を確認できた。時代の順を追って、本遺跡の変遷と関連する周辺遺跡の展開をまとめておこう。

### <縄文時代>

前回の調査ではA・B区で縄文時代早期の配石群が検出され、大きな成果を見た。今回の調査では、ピット数基と少量の遺物の確認のみにとどまっている。近隣にはこの時期の遺構や遺物がまとまって確認された遺跡はみられないが、こうした遺構が存在する以上、周辺地域に活動の中心をもった集団が居住していたと考えられよう。

今回の調査では縄文後期に帰属する可能性が高い土坑がG区を中心に十数基確認できた。前回調査では谷部（C・D区）から貯蔵穴と考えられる土坑が谷筋に沿って見つかったほか、谷縁辺からは落とし穴と考えられる土坑が見ついている。G区の土坑は落とし穴と考えられるものが中心となっており、その立地も前回調査と同様、谷縁辺部に並ぶ。こうした立地上の特徴からは、谷部に近づく狩猟対象獣を狙って落とし穴をつくっていた様子が窺えよう。本遺跡の東の中位段丘上に位置する門前上屋敷遺跡でもこの時期の土坑や遺物が確認されたほか、名和川対岸の沖積地に位置する名和飛田遺跡でも遺物が出土している。また、ここから1.2kmほど名和川を下ると福田K2式期の住居跡の検出された南川遺跡があるなど、名和川下流域でのこの時期の活動の痕跡は濃い。

### <弥生時代～古代>

弥生時代から古代にかけても遺跡利用は断続的に続けられる。そのうち、遺構が形成される時期は弥生時代中期後葉、弥生時代終末～古墳時代初頭、古墳時代中期～後期である。

弥生時代中期後葉の遺構はピットのみであるが、遺物が比較的まとまっている。調査地内で確認できたものの内容は貧弱であるが、調査地外にも遺構が形成されている可能性が高い。この時期には隣接する門前上屋敷遺跡や名和飛田遺跡で小集落が形成されているので、これらとも緊密な関係をもって活動領域が形成されていたと考えられよう。

弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけては、今回調査では遺物が出土したのみであるが、前回調査の成果から集落が形成されていたことが明らかになっている。なお、前回調査で確認された門前1号墓は明確な時期決定を行えるような遺物が出土せず、今回調査で関連する遺物・遺構の発見が期待されたものの、これに応えられるような資料は確認できなかった。

古墳時代中期から後期にかけては、集落が形成されていたことが前回調査で判明しており、今回の調査でもこの時期の可能性が高い区画溝やピットを確認している。区画溝は調査地の南側に延びているため、さらに集落が広がっている可能性が考えられよう。

### <中世前期>

今回の調査で、丘陵上のG区からは道路状遺構や掘立柱建物が検出され、F区からは造成面と墓や土坑が検出された。前回調査では谷部を中心に、水田耕作の痕跡とみられる耕作痕などが検出されている。これらの遺構群は時期が判明したものの大半が12世紀代を中心としており、それぞれ関連をもって展開していた可能性が高い。道路状遺構は地形の変換部に沿って丘陵を横断するようにつくられており、これを挟んで南の丘陵平坦面上に掘立柱建物が、北側の谷部には耕作地が見られることから、遺跡内の地形に合わせて土地を使い分けていたことが分かる。

中世の遺跡形成において、本遺跡と極めて強い関連をもつと考えられる門前上屋敷遺跡とその後背丘陵の門前鎮守山城跡では、11世紀末ごろから12世紀代にかけて、大規模な区画溝を伴う有力者層の居住域（屋敷地）と小鍛冶を行う工業生産域を含む集落が形成されたと想定されており、これ以降14世紀ごろにかけてその内容を充実させながら継続していると考えられている。本遺跡で確認された耕作地はこうした居住域と対応する農業生産域のひとつと考えられよう。また、F区検出の造成面や墓がこの居住域と対応する墓域となる可能性もあるが、確実に墓と評価できるものは1基のみで積極的には評価しづらい。掘立柱建物の見られた丘陵部は門前上屋敷遺跡周辺の集落居住域から派生した居住域の可能性が考えられよう。また、道路状遺構はさらに丘陵の東の谷へと続いてきたことも考えられるので、門前上屋敷遺跡などの中心的な居住域と本遺跡をつないでいた可能性もあろう。

このように中世前期には隣接する門前第2遺跡、門前鎮守山城跡、門前上屋敷遺跡それぞれが密接な関連性をもちながら展開していたと考えられる。

#### < 中世後期～近世 >

中世後期には前回調査の丘陵北東部で機能不明の大型の溝や土坑などがつくられている。その他の地区では遺構は確認できていないものの、大半は耕作地としての利用が継続していたと推測できよう。中世前期と同じく、この時期の遺跡のあり方も門前上屋敷遺跡・門前鎮守山城跡と関連していた可能性が高いだろう。門前上屋敷遺跡では、中世前期に形成されていた屋敷地が15世紀には耕作地に変化している。その後、15世紀代のうちにこの耕作地を埋め立てるなどして大規模な造成を行い、寺院に関連する可能性が高いとされる建物を築いている。また、門前鎮守山城跡ではこの時期に堀切、土塁が構築され、砦として機能しうる状態にあったと考えられている。これらの特殊な遺構群以外にも、門前上屋敷遺跡周辺に集落居住域が存在した可能性が高いので、基本的には門前第2遺跡と門前上屋敷遺跡・門前鎮守山城跡の関係は前段階と大きくは変わらないだろう。

中世末期から近世、近代にかけては門前第2遺跡の丘陵西縁部に墓群が形成される。前節で詳述した通り、この中近世墓群は、門前上屋敷遺跡周辺に存在したと推測される小村落共同体によって営まれた共同墓地であったと考えられる。墓域以外では、前段階までと同じく耕作地としての利用が行われていたと考えられる。

このように、中世前期以降、門前第2遺跡は、門前上屋敷遺跡周辺の集落中心域から機能分化した領域として利用されてきたといえる。こうした集落領域の構造は中世から近世にいたるまで大きくは変化しないようであるが、その中心となる門前上屋敷遺跡の集落の構成には何段階かの変遷が認められている。居住集団の性格にどれほどの変化があったかについては不明な点が多いが、いずれにしても、中世以降同一の領域を生活の根拠とし続けた集団がこの地域に存在していたと言えよう。

#### 【参考文献】

- 北浩明・三木雅子・日置智2005『名和飛田遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書104,(財)鳥取県教育文化財団  
 森本倫弘編2005『門前上屋敷遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書105,(財)鳥取県教育文化財団  
 中森祥・浜田真人・湯川善一2005『門前第2遺跡(菖蒲田地区)』鳥取県教育文化財団調査報告書106,(財)鳥取県教育文化財団  
 牧本哲雄・家塚英司・野口良也・玉木秀幸ほか2007『門前上屋敷遺跡・門前鎮守山城跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書17,  
 鳥取県埋蔵文化財センター